

講 義 案 内

—平成 30 年度—

弘 前 大 学 大 学 院
人 文 社 会 科 学 研 究 科

目 次

1. 平成30年度人文社会科学研究科行事予定・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 授業科目の講義等の内容	
2. 1. 共通科目 特別研究 プロジェクト研究 導入科目 総合科目 大学院共通科目・・・・・・・・・・・・	2
2. 2. 文化科学専攻 専門科目・・・・・・・・・・・・・・・・	37
2. 3. 応用社会科学専攻 専門科目・・・・・・・・・・・・	116
3. 修士論文について・・・・・・・・・・・・・・・・	179
○人文社会科学研究科規程・長期履修学生に関する取扱要項・別表・・・・・・・・	181

平成30年度人文社会科学研究科行事予定

学期	行 事	日 程
前期	春 季 休 業 新入生へのガイダンス 入 学 式 前期授業開始 前期・後期履修科目届提出期限 (主指導教員・副指導教員決定) 開 学 記 念 日 修士論文提出期限(9月修了) 修士論文副査推薦締切(9月修了) 修士論文審査委員(主査・副査)決定 (9月修了) 期末試験並びに前期授業終了 夏 季 休 業 成績提出期限 「論文審査及び最終試験報告書」提出期限 (9月修了) 9月修了認定会議 新入生(秋季入学者)へのガイダンス 秋季学位記授与式	4月 2日(月)～4月 6日(金) 4月 3日(火) 4月 3日(火) 4月 9日(月) 4月20日(金)午後5時30分 5月31日(木) 6月18日(月) 午後5時 6月18日(月) 7月18日(水)研究科委員会 8月 2日(木) 8月 3日(金)～9月28日(金) 8月17日(金) 8月17日(金) 9月19日(水) 9月27日(木)予定 9月28日(金)
後期	秋季入学式 後期授業開始 後期履修科目届提出期限(秋季入学者) 総合文化祭に伴う休講 総合文化祭 総合文化祭に伴う休講 授 業 終 了 修士論文提出期限 修士論文副査推薦締切 冬 季 休 業 授 業 再 開 大学入試センター試験設営に伴う休講 修士論文審査委員(主査・副査)決定 期末試験並びに後期授業終了 学 年 末 休 業 成績提出期限 「論文審査及び最終試験報告書」提出期限 修了認定会議 学位記授与式	10月 1日(月) 10月 1日(月) 10月15日(月)午後5時30分 10月19日(金) 10月19日(金)～10月21日(日) 10月22日(月) 12月25日(火) 12月25日(火)午後5時 12月25日(火) 12月26日(水)～1月4日(金) 1月 7日(月) 1月18日(金) 1月23日(水) 研究科委員会 2月 8日(金) 2月12日(火)～3月29日(金) 2月15日(金) 2月15日(金) 3月 1日(金) 3月22日(金)

注 ※1：5月1日(火)は、月曜日の授業を行う。 ※5：12月25日(火)は、月曜日の授業を行う。
 ※2：5月2日(水)は、金曜日の授業を行う。 ※6：1月16日(水)は、金曜日の授業を行う。
 ※3：10月23日(火)は、月曜日の授業を行う。
 ※4：11月22日(木)は、金曜日の授業を行う。

2. 授業科目の講義等の内容

2. 1. 共通科目・特別研究・プロジェクト研究

導入科目・総合科目・大学院共通科目

※ 講義曜日・時間等変更になる可能性があるため、事前に担当教員に確認すること。

	2. 1. 1 総合文化社会研究コース	2. 1. 2 地域人材育成コース	2. 1. 3 国際人材育成コース
共通科目	北東北研究	北東北研究	北東北研究
特別研究	特別研究Ⅰ・Ⅱ	特別研究Ⅰ・Ⅱ	特別研究Ⅰ・Ⅱ
プロジェクト研究		プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ	プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ
導入科目	美術史 考古学 宗教学・民俗学	地域雇用 地域経済 地域企業	国際関係 国際経済・経営 海外事情
	哲学 倫理学 文芸基礎論	社会調査設計 量的調査分析 質的調査分析	日本事情 日本社会 日本経済
	日本語学 アジア文芸学 アジア地域学	美術史 考古学 宗教学・民俗学	美術史 考古学 宗教学・民俗学
	言語基礎論 欧米地域学 欧米文化論	日本語学 アジア文芸学 アジア地域学	日本語学 アジア文芸学 アジア地域学
	経済学 経営学 法学	言語基礎論 欧米地域学 欧米文化論	言語基礎論 欧米地域学 欧米文化論
	地域雇用 地域経済 地域企業	経済学 経営学 法学	経済学 経営学 法学
	社会調査設計 量的調査分析 質的調査分析		
総合科目	情報処理 日本語・日本語論文作成技法 英語論文作成技法	情報処理 日本語・日本語論文作成技法 英語論文作成技法	情報処理 日本語・日本語論文作成技法 英語論文作成技法
大学院共通科目	エネルギーと環境	エネルギーと環境	エネルギーと環境

授 業 科 目 名	北東北研究				
担 当 教 員	山田巖子・関根達人・植月学・渡辺麻里子・保田宗良・李永俊				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・1・2限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 人文社会科学研究科での研究を進める出発点として、青森を含む北東北についての知識を身につけ、積極的な関心を獲得し、多様な課題に対する問題解決の方法を身につけること。					
【授業の概要】 青森県を含む北東北の歴史、文化、社会、現代的課題について積極的な関心を深めるため、多分野の教員により意欲的かつ清新な視点を持った講義を展開する。					
【授業内容予定】 第1回～3回 担当 渡辺麻里子（日本古典文学） ガイダンス 北東北の義経伝説 岩木山と山椒大夫 北東北の仏教 第4回～6回 担当 関根達人（日本考古学） 北東北の縄文遺跡群 弥生～古代の北東北 中世の北東北 第7回～8回 担当 植月学（動物考古学） 北東北の狩猟史 北東北の馬産史 第9回～10回 担当 山田巖子（民俗学） 北東北の修験と祭祀 オシラ神信仰の現在 第11回～12回 担当 李永俊（労働経済学） 北東北労働市場の現状と課題 有効な地域雇用政策について 第13回～15回 担当 保田宗良（経営学） 北東北の主要商店街 地域の成長企業 会社四季報から学ぶ					
【教材・テキスト】 なし。教員が配付資料を用意し、それを教科書とする。					
【参考文献】 講義時に各担当教員が指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 5人の教員が提示する課題のうちいずれか一つを選び、レポートを提出する。出席は前提とする。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式					
【留意点・予備知識等】 特になし。					
【オフィスアワー】 それぞれの教員のシラバスのオフィスアワーの項を参照。 今年度の取りまとめ役：渡辺麻里子の連絡先は、以下の通り。 mwata@hirosaki-u.ac.jp 研究室、人文社会科学部棟3階 328					

授 業 科 目 名	特別研究Ⅰ・Ⅱ				
担 当 教 員					
学 期		曜日・時限		単位	8単位
【授業の概要】 特別研究Ⅰ：1年次に履修すること。修士論文などの作成に必要な基本的・理論的知識と技能について広く指導する。専門領域及び研究テーマに関連する分野の著書・論文・報告書の収集と研究、実地調査の進め方等について指導しながら、研究課題と対象とその方法について焦点を明確化していく能力を養成する。 特別研究Ⅱ：2年次に履修すること。修士論文などのテーマを明確に設定し、これに即したより具体的な調査研究と分析の方法について助言指導するとともに、研究結果の総合化、論証の弱い部分の補強など、執筆の方法も含めて論文として説得力のあるものに仕上げるための指導を行う。 研究倫理に関する指導：特別研究Ⅰ・Ⅱを通して、研究活動の社会的意義、研究活動における不正行為の防止、その他、研究倫理に関わる諸問題について理解を深めるための指導を行う。					

授 業 科 目 名	プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ				
担 当 教 員					
学 期		曜日・時限		単位	6 単位
【授業の概要】 プロジェクト研究Ⅰ：1年次に履修すること。個別課題報告書などの作成に必要な基本的・理論的知識と技能について広く指導する。専門領域及び研究テーマに関連する分野の著書・論文・報告書の収集と研究、実地調査の進め方等について指導しながら、研究課題と対象とその方法について焦点を明確化していく能力を養成する。 プロジェクト研究Ⅱ：2年次に履修すること。個別課題報告書などのテーマを明確に設定し、これに即したより具体的な調査研究と分析の方法について助言指導するとともに、研究結果の総合化、論証の弱い部分の補強など、執筆の方法も含めて論文として説得力のあるものに仕上げるための指導を行う。 研究倫理に関する指導：プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱを通して、研究活動の社会的意義、研究活動における不正行為の防止、その他、研究倫理に関わる諸問題について理解を深めるための指導を行う。					

授 業 科 目 名	美術史				
担 当 教 員	須藤弘敏・足達薫				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日 5/6	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 国内外の美術史の諸問題を専門的に研究し、修士論文を執筆するために必要な能力（文献資料の読解および視覚的作例の分析等）をマスターすること。					
【授業の概要】 国内外の美術史を取り上げ、その諸問題を演習形式により考察する。文献資料の読解および視覚的作例の分析を通じて、美術史研究の基礎を身につける。					
【授業内容予定】 受講希望者の専門領域および関心に応じて、東洋・日本美術史、西洋美術史のいずれかを対象として開講する。受講希望者は、第1回目の授業開始前に指導教員に受講希望を申し出ること。それを踏まえて当該学期の開講形態および担当教員を決める。 受講者には、文献資料の読解を中心とする発表が毎回義務付けられる。以下の内容を適宜調整し、組み替えながら15回行う。 今年度は、東西の「人体表現」を主題として展開する、 1 導入（担当：足達・須藤） 2～6 美術史の方法論および分析方法についての基礎的講義（担当：足達・須藤） 6～15 文献資料の読解（担当：足達・須藤）					
【教材・テキスト】 授業で指示する。					
【参考文献】 授業で指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席および発表の内容を総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 文献資料の読解を中心とする発表、およびそれについての議論。					
【留意点・予備知識等】 国内外の美術史の基礎的な知識が前提となる。扱う範囲は広いので、古今の日本語のみならず、中国語や西洋の諸言語の能力も必要である。					
【オフィスアワー】 水曜13～14時（足達薫）					

授 業 科 目 名	考古学				
担 当 教 員	片岡 太郎				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・1/2時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 自然科学的手法を用いた考古学調査法に関する知識を深め、調査結果を適切に解釈できる能力を修得する。					
【授業の概要】 現代の考古学調査に不可欠な自然科学調査（年代測定、材質・技法分析、三次元計測など）に関する論文や報告書を精読し、毎回の授業で発表・討議しながら、得られる調査結果の考古学研究における意義を考察します。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス（論文・報告書の選定） 第2回 調査の方法 1 第3回 調査の方法 2 第4回 遺物の年代決定 1 第5回 遺物の年代決定 2 第6回 遺物の年代決定 3 第7回 遺物の材質 1 第8回 遺物の材質 2 第9回 遺物の材質 3 第10回 技法研究 1 第11回 技法研究 2 第12回 技法研究 3 第13回 形態分類 1 第14回 形態分類 2 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 主に、授業の中で必要に応じて提示します。					
【参考文献】 Roger M. Rowell and R. James Barbour, <i>Archaeological Wood</i> , The American Chemical Society, 1990 沢田正昭 編 『遺物の保存と調査』 クバプロ 2003 東村武信 『考古学と物理化学』 学生社 1980 馬淵久夫・富永健 編 『考古学と化学をむすぶ』 東京大学出版 2000					
【成績評価の方法および採点基準】 発表内容と授業に取り組む姿勢から総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 学生の発表と相互の討議を中心とした演習形式で行ないます。また、実際の理化学分析機を扱いながら討論したり、博物館や遺跡を訪れて実際の遺物を実見しながら講義を行う場合があります。					
【留意点・予備知識等】 高校程度の化学と物理学の知識があれば、講義内容がより理解できます。					
【オフィスアワー】 水曜日 7・8 時限目（14:30～16:00）					

授 業 科 目 名	宗教学・民俗学（民俗学）				
担 当 教 員	山田 巖子				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5・6限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 熊野信仰に関わる文献を読み、東北における熊野信仰の位相を知る。					
【授業の概要】 萩原龍夫『巫女と仏教史』を輪読する。					
【授業内容予定】 1 ガイダンス 2・3 熊野比丘尼 4・5 熊野比丘尼の絵解き 6 絵解き映像鑑賞 7・8 熊野系曼荼羅の世界 9・10 各地の熊野比丘尼 11・12 奥州名取の老女 13 比丘尼家元としての妙心寺 14 法燈国師とその伝承 15 熊野比丘尼の史的位相					
【教材・テキスト】萩原龍夫『巫女と仏教史』1983年 吉川弘文館					
【参考文献】「熊野信仰と東北展」実行委員会編『熊野信仰と東北』2006年 東北歴史博物館					
【成績評価の方法および採点基】 発表で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義＋演習					
【留意点・予備知識等】 受講生の興味、関心を考慮し、相談の上、内容の一部変更もあり得ます。					
【オフィスアワー】 火曜日12:00～13:00					

授 業 科 目 名	哲学				
担 当 教 員	今井 正浩				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 西洋古典古代における「心」の哲学（Philosophy of Mind）の系譜を辿ることをとおして，古代哲学の思想文化的特質について認識を深めることが，この授業の主眼です。					
【授業の概要】 初期ギリシア思想からヘレニズム期にいたるまでの「心」の哲学の展開を辿ることをとおして，西洋古代哲学の思想文化的特質を明らかにします。					
【授業内容予定】 1) 導入（Introduction）－西洋古典古代における「心」の哲学へのいざない－ 2) 初期ギリシアの思想家たち（1）ミレトス学派 3) 初期ギリシアの思想家たち（2）ピュタゴラス学派 4) 初期ギリシアの思想家たち（3）ヘラクレイトス，エンペドクレス，アナクサゴラス 5) 初期ギリシアの思想家たち（4）原子論者たち 6) ソクラテス 7) プラトン（1） 8) プラトン（2） 9) アリストテレス（1） 10) アリストテレス（2） 11) ヘレニズム期の思想家たち（1）エピクロス学派 12) ヘレニズム期の哲学者たち（2）ストア学派 13) プロティノスと新プラトン主義 14) キリスト教思想家アウグスティヌス 15) まとめ					
【教材・テキスト】 （以下の英文論考のコピーを配布します） Modrak, D. K. W., Classical Theories of Mind, Zeyl, D. J. (ed.), <i>Encyclopedia of Classical Philosophy</i> (Fitzroy Dearborn Publishers, 1997), pp. 344-349.					
【参考文献】 授業中に，適宜指定する予定です。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点に加えて，学期末に提出されるレポートに重点をおいて，総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 教科書として指定された文献の予習・復習が必要になります。					
【留意点・予備知識等】 好奇心旺盛で，やる気のある学生諸君の受講を期待します。					

授 業 科 目 名	倫理学				
担 当 教 員	横地徳広				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 受講生のみなさんは哲学の古典テキストであるハイデガー『存在と時間』を読み解き、この読解を通じて、諸事象を倫理的に思考する仕方を学びます。					
【授業の概要】 アリストテレスが生きた古代ギリシャ世界では、「倫理学（ヘー・エーティケー）」の語源は「エートス」だと言われていたが（『ニコマコス倫理学』）、ハイデガーが説明するところ、エートスの原義は「住まうこと」である。このとき、世界に住まうのは私たち人間たちであり、そのエートスは、或る土地に住まうことで人間たちに分かちもたれる「気風」や「気質」という意味へと展開する同時に、その地に成り立つ共同体に広がった「習慣」や「習俗」という意味へと展開する。 今年度の授業では、そうしたエートスの観点から、哲学の古典テキストを読み解いていく。					
【授業内容予定】 毎回、担当者のレジュメを手がかりに受講者のみなさんがその内容を検討します。 授業予定は、以下のとおり。変更の場合は授業で事前に知らせます。 1 ガイダンス（読解箇所と担当の決定） 2 テキスト読解と解説 （1） 3 テキスト読解と解説 （2） 4 テキスト読解と解説 （3） 5 映像資料をもちいた、20世紀前半の思想状況の説明その1 6 映像資料をもちいた、20世紀前半の思想状況の説明その2 7 テキスト読解と解説 （4） 8 テキスト読解と解説 （5） 9 テキスト読解と解説 （6） 10 映像資料をもちいた、20世紀前半の思想状況の説明その3 11 映像資料をもちいた、20世紀前半の思想状況の説明その4 12 テキスト読解と解説 （7） 13 テキスト読解と解説 （8） 14 テキスト読解と解説 （9） 15 まとめ					
【教材・テキスト】 Martin Heidegger, <i>Sein und Zeit</i> , Max Niemeyer, 1967(1927) ※PDFで入手可能です。					
【参考文献】 適宜、紹介されます。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業でのレジュメ担当評価と平常評価。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習と講義の混交形式。					
【留意点・予備知識等】 授業への参加希望者は、横地まで 必ずメール すること。 アドレスは西洋倫理思想研究室（人文414）に掲示してあります。					
【オフィスアワー】 メールでアポをとってください。					

授 業 科 目 名	文芸基礎論				
担 当 教 員	泉谷安規				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
19世紀前半のフランス文学と絵画の関係に焦点を当て、それらの影響関係や文学や美術におけるその意義を探っていきます。					
【授業の概要】					
前半は、バルザックが小説の中で取り上げ描いている画家や絵画について見ていきます。そして後半は、ボードレーンが美術批評を書いている絵画を取り上げ、そこで問題とされている「モデルニテ」とは何かを考えていきます。					
【授業内容予定】					
1. イントロダクション：19世紀前半のフランス 2. 文学をめぐる状況 3. 美術作品をめぐる状況 4. バルザック① 5. バルザック② 6. バルザック③ 7. バルザック④ 8. バルザック⑤ 9. ボードレーン① 10. ボードレーン② 11. ボードレーン③ 12. ボードレーン④ 13. ボードレーン⑤ 14. ボードレーン⑥ 15. : まとめ					
【教材・テキスト】					
教科書はありません。参考資料は適宜配布します。					
【参考文献】					
授業中に適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
平常点（出席と発表など：50%）＋ レポート（50%）。					
【授業形式・形態および授業方法】					
基本的には、作品の購読形式で進めていきます。					
【留意点・予備知識等】					
フランス語などの予備知識等は必ずしも必要ありませんが、フランス語を知っていれば理解はより深まるでしょう。とまかく旺盛な知識欲を持って授業に臨んでください。					
【オフィスアワー】					
木曜日7－8時限					

授 業 科 目 名	日本語学				
担 当 教 員	川瀬 卓				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本語の言語的特徴を理解する。日本語学の基本的な考え方を身に付ける。					
【授業の概要】 文法を中心として、日本語の特徴を学ぶ。					
【授業内容予定】 1. 導入 2. 音声・音韻 3. 形態論（1）形態素、語、品詞 4. 形態素（2）活用 5. 格 6. 文の構造と文法カテゴリー 7. 主題と主語 8. ボイス（1）受身と使役 9. ボイス（2）授受 10. テンス・アスペクト 11. 複文 12. 名詞修飾 13. 方言、さまざまなバリエーション 14. 日本語教育文法 15. コーパス					
【教材・テキスト】 庵功雄（2012）『新しい日本語学入門―ことばのしくみを考える―第2版』スリーエーネットワーク					
【参考文献】 随時紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席と試験によって評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式。					
【留意点・予備知識等】 日本語学、言語学に関する基本的知識があることが望ましい。					
【オフィスアワー】 金曜日12:00～13:00					

授 業 科 目 名	アジア文芸学				
担 当 教 員	渡辺麻里子・尾崎名津子				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5－6限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
日本古典文学および日本近現代文学について、基礎的事項を学び、理解を深める。					
【授業の概要】					
・日本古典文学における和歌について、『古今和歌集』仮名序を通じて基礎的事項を学び、津軽に関わる和歌も学ぶ。 ・日本近現代文学の展開を理解しながら、青森に関わる作家の表現の特徴を学ぶ。					
【授業内容予定】					
第1回 ガイダンス 第2回 和歌とは何か 第3回 和歌の歴史 第4回 『古今和歌集』の意義 第5回 勅撰和歌集の編纂 第6回 津軽藩主と和歌 第7回 和歌について（まとめ） 第8回 日本近現代文学と青森ゆかりの人びと 第9回 太宰治の生涯と創作 第10回 太宰治の中の葛西善蔵 第11回 太宰治『津軽』の中の弘前 第12回 太宰治『津軽』における故郷 第13回 寺山修司の生涯と活動 第14回 寺山修司と母 第15回 寺山修司『田園に死す』					
【教材・テキスト】					
購入は不要。必要に応じて関係資料を配布する。					
【参考文献】※以下の書籍は全て弘前大学附属図書館に所蔵されている。					
・有吉保『勅撰和歌集入門—和歌文学理解の基礎—』勉誠出版、2009年 ・谷知子『和歌文学の基礎知識』角川選書、2016年 ・太宰治『津軽』新潮文庫など ・郡千寿子、仁平政人編『寺山修司という疑問符』弘前大学出版会、2014年					
【成績評価の方法および採点基準】					
授業の予習状況、理解度、試験・レポートを総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義形式。必要に応じて、演習を加えることがある。					
【留意点・予備知識等】					
特になし。					
【オフィスアワー】					
随時。先にメール連絡をもらえると確実です。 渡辺麻里子 mwata@hirosaki-u.ac.jp ／尾崎名津子 ozaki@hirosaki-u.ac.jp					

授 業 科 目 名	アジア地域学				
担 当 教 員	荷見 守義				
学 期	前期	曜日・時限	水曜・5－6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 中国の歴史に関する文献を輪読することで、日本を含めたアジア（主に東アジア）の歴史的特徴について考える。					
【授業の概要】 檀上寛『天下と天朝の中国史』（岩波新書、2016年）の輪読を通じて、通史的に中国と東アジア世界との関係について考え、その歴史的特徴について理解を深める。					
【授業内容予定】 第1回：プロローグ 天下の概念 第2回：溥天の下、王土に非ざる莫し 第3回：天朝体制の仕組み 第4回：北の天下、南の天下 第5回：天下と天下秩序 第6回：中国の大天下と倭国の小天下 第7回：東アジアの天下システム 第8回：天朝の行方 第9回：天下一家の完成 第10～11回：天下一家から華夷一家へ 第12～13回：華夷変態と中外一家 第14回：中華民族の大家族 第15回：エピローグ 天下と天朝とは					
【教材・テキスト】 檀上寛『天下と天朝の中国史』（岩波新書、2016年）入手していることが望ましいが、準備できない場合はこちらで用意する。					
【参考文献】 授業時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 各回の報告と期末レポートを総合して判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 報告とそれについての補足講義という形で進める。各回、受講者全員でテキストを輪読し、報告者は担当範囲の箇所における内容をまとめ報告する。					
【留意点・予備知識等】 十分な日本語と中国史についての知識があることを前提とする。					
【オフィスアワー】 月曜・昼休み（12:00～12:40）					

授 業 科 目 名	言語基礎論				
担 当 教 員	山本秀樹				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 種々の言語現象について、世界の言語全体から言語現象を考察するために基礎となる視点を身につけることを目標にする。					
【授業の概要】 主として言語類型論（世界諸言語の資料を基に、言語の普遍性と変異のあり方を探求する分野）の観点から世界諸言語間に現れる種々の言語現象を考察し、言語類型論の基本的な考え方について学習する。					
【授業内容予定】 第1回 授業の概要説明および受講生との打ち合わせ 第2回 世界諸言語間の類似性と多様性 第3回 言語普遍性発見の意義 第4回 言語類型 第5回 言語普遍性と言語類型の実例について 第6回 意味的普遍性 第7回 音韻的普遍性 第8回 形態的普遍性 第9回 統語的普遍性 第10回 言語普遍性の種類 第11回 言語普遍性に対する説明原理について 第12回 人間の認知能力による説明 第13回 言語習得や言語処理による説明 第14回 社会的行動による説明 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 プリントを使用する。					
【参考文献】 ・バーナード・コムリー著（松本克己・山本秀樹訳）『言語普遍性と言語類型論』（ひつじ書房） ・山本秀樹著『世界諸言語の地理的・系統的語順分布とその変遷』（溪水社）					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点とレポート					
【授業形式・形態および授業方法】 受講生にプリントの内容について説明してもらい、教員からの質疑応答や補足説明を通じて種々の言語現象を考察していく。					
【留意点・予備知識等】 種々の言語や言語学に関する知識を持っていることが望ましいが、実際に受講を希望してきた学生の予備知識によって授業内容等を調整することがある。					
【オフィスアワー】 木曜日：11:30から12:30					

授 業 科 目 名	欧米地域学				
担 当 教 員	奈蔵正之				
学 期	前期	曜日・時限	金曜 3・4 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 20世紀～21世紀におけるフランスの現代史・外交史・政治史について確実な理解を得るとともに、各時代における世界情勢やEUの状況などについても考察を行うこと。					
【授業の概要】 第二次世界大戦から2018年までに至る、フランスの現代史・外交史・政治史を多角的に学びます。同時に、各時代における世界情勢やヨーロッパ諸国の状況にも注意を払い、EUの成立・発展・抱え込んだ問題点などについても学びます					
【授業内容予定】 1) 受講生の持つ予備知識や、関心の所在などによって授業の組み立てや方向性を変化させますので、現時点で確定した予定はありません。 2) フランスを中心とした通時的な流れでは、概ね次のようになります。そしてそれぞれの時代ごとに、あわせて世界情勢とフランスの外交を考察します。 1. 第二次世界大戦とフランス 2. 戦後のフランスと第四共和政 3. アルジェリア危機とフランス第五共和制の誕生 4. ド・ゴール時代のフランス 5. ポンピドゥー、ジスカール・デスタン時代のフランス 6. ミッテラン時代のフランス 7. シラク時代のフランス 8.サルコジ、オランド時代のフランス 9. マクロン政権の誕生と、フランスおよびEUの現在					
【教材・テキスト】 現時点では特に決まっていません。受講生と相談して適宜テキストを選ぶこともあります。その場合も、日本語の文献になります。					
【参考文献】 授業中に適宜支持されます					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回の授業における発表、および中間レポート、最終レポートによる総合的評価となります。					
【授業形式・形態および授業方法】 受講生が多くないので、ゼミ形式に近くなります。毎回簡単な課題を提示し、それについて調べてきたことを次の授業で受講生が発表し、それを足がかりにディスカッションを行い、必要となる知識や情報を教員が補います。					
【留意点・予備知識等】 1) 受講生の持つ予備知識に応じて、授業内容の難易度、専門性を変化させます。かなり専門性の高い事柄について研究するような授業になることもあれば、基礎的な知識の習得をめざす平易な授業になるかもしれません。 2) 受講生全員がフランス語既修者の場合、フランス語の文献や新聞記事の抜粋が使用されることがあります。					
【オフィスアワー】 火曜 7・8 時限 それ以外の時間でも随時受け付けますので、まずメールによってアポイントメントを取って下さい。 nagura@hirosaki-u.ac.jp					

授 業 科 目 名	欧米文化論				
担 当 教 員	熊野真規子・澤田真一				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・9-10	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
欧米文化の理解を通じて、国際的に活躍できる教養や行動力を養成することを目標とします。					
【授業の概要】					
現代社会の基盤を形成しているヨーロッパ圏やアメリカなどの英語文化圏の歴史・文化の本質を、各地域の言語・文化・政治・社会を通じて探求します。今年は、ヨーロッパの映画（熊野真規子）フェミニズムと文学（澤田真一）について考察します。					
【授業内容予定】					
第1回 導入：映画から学ぶヨーロッパ（熊野）					
第2回 ヴィム・ヴェンダース（1）（熊野）					
第3回 ヴィム・ヴェンダース（2）（熊野）					
第4回 アニェス・ヴァルダ（1）（熊野）					
第5回 アニェス・ヴァルダ（2）（熊野）					
第6回 ケン・ローチ（1）（熊野）					
第7回 ケン・ローチ（2）（熊野）					
第8回 まとめ（熊野）					
第9回 フェミニズムと文学：理論1（澤田）					
第10回 フェミニズムと文学：理論2（澤田）					
第11回 女性作家1：シャーロット・ブロンテ（澤田）					
第12回 女性作家2：ヴァージニア・ウルフ（澤田）					
第13回 女性作家3：キャサリン・マンスフィールド（澤田）					
第14回 女性作家4：ジャネット・フレイム（澤田）					
第15回 女性作家5：ケリ・ヒューム（澤田）					
【教材・テキスト】					
【参考文献】					
講義の中で適宜紹介・あるいはプリント等を配布します。（熊野真規子・澤田真一）					
【成績評価の方法および採点基準】					
レポートによって評価します。（熊野真規子・澤田真一）					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義・演習（熊野真規子）及び演習とのミックス形式（澤田真一）					
【留意点・予備知識等】					
特にありません。					
【オフィスアワー】					
金曜日9・10（澤田真一）、火曜日17:30～18:00（熊野真規子）					

授 業 科 目 名	経済学				
担 当 教 員	池田憲隆・小谷田文彦・福田進治・飯島裕胤・山本康裕・桑波田浩之				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・9－10	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
経済学の基本的知見を確認するとともに、最新の研究動向と成果を理解することを目指します。					
【授業の概要】					
経済学各分野の最新情報を紹介し、その意義と問題点を考察します。					
【授業内容予定】					
第1回 ガイダンスとイントロダクション（4月9日、山本康裕）					
第2回 古典派経済学の展開（4月16日、福田進治）					
第3回 近代経済学の形成（4月23日、福田進治）					
第4回 市場理論の基礎（5月1日、小谷田文彦）					
第5回 消費者理論の基礎（5月7日、小谷田文彦）					
第6回 生産者理論の基礎（5月14日、小谷田文彦）					
第7回 45度線分析（5月21日、山本康裕）					
第8回 IS－LM分析（5月28日、山本康裕）					
第9回 経済発展に関する諸学説（6月4日、池田憲隆）					
第10回 資本主義の歴史的把握（6月11日、池田憲隆）					
第11回 比較優位と国際貿易（6月18日、桑波田浩之）					
第12回 生産要素の変化と国際貿易（6月25日、桑波田浩之）					
第13回 人々の状況把握と行動経済学（7月2日、飯島裕胤）					
第14回 人々の意思決定と行動経済学（7月8日、飯島裕胤）					
第15回 まとめと補遺（7月23日、山本康裕）					
【教材・テキスト】					
関連文献、論文等を適宜指示します。					
【参考文献】					
授業内容に応じて適宜指示するほか、プリントを配布する場合があります。					
【成績評価の方法および採点基準】					
発表内容および受講態度などにより総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
基本的には講義形式ですが、演習形式をとる場合もあります。					
【留意点・予備知識等】					
受講生と相談の上、曜日・開講時間を変更することがあります。					
【オフィスアワー】					
科目主任（山本）のオフィスアワー：水曜日12：40-14：10（人文社会科学部棟415号室）					

授 業 科 目 名	経営学				
担 当 教 員	高島克史				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日 5・6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義の目的は、経営学に関するリテラシーを習得することです。より具体的には、事例を通じて、その背後にあるメカニズムやロジックを自ら読み解き、議論することを通じて「知っている」という意味の知識の習得ではなく、「実践で活用できる」という意味の知識の習得を目指します。					
【授業の概要】 経営学で議論される問題として3つあげられます。1つ目は、モチベーション・リーダーシップ・人的資源管理といったヒトに関する問題です。2つ目は、組織の存続・成長に関する経営戦略に関する問題です。3つ目は、組織構造・組織文化・組織変革という組織全体にかかわる組織の問題です。本講義では、これら3つの問題について実践的な知識の習得を目指します。					
【授業内容予定】 第1回　オリエンテーション 第2回　モチベーション 第3回　リーダーシップ 第4回　日本の雇用制度 第5回　経営戦略 第6回　新製品・新規事業開発とイノベーション 第7回　市場構造と企業間競争 第8回　経営資源と独自能力 第9回　全社戦略とグローバル化 第10回　経営組織の設計 第11回　組織構造の発展 第12回　組織変革 第13回　組織文化 第14回　ベンチャービジネス 第15回　総括					
【教材・テキスト】 適宜講義内で紹介します。					
【参考文献】 適宜講義内で紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 議論参加（50％）、課題評価（50％）。					
【授業形式・形態および授業方法】 担当教員による講義，受講生とのディスカッション					
【留意点・予備知識等】 ・授業を受けるにあたり、受講開始時点で専門的な経営学の知識は求めない。その分を予習復習にあてて欲しい。講義の中では、専門的な分析ツールを理解することが求められるが、丁寧に解説していく。 ・受講希望者は、このシラバスを事前にしっかりと読み、必ず第1回授業を受講すること。					
【オフィスアワー】 木曜日8:40-10:10、その他応相談(柔軟に対応します)					

授 業 科 目 名	法学				
担 当 教 員	河合正雄・成田史子・平野潔・吉村顕真・長谷河亜希子				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・5-6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 重要な判例や論文を読むことで、研究を進めていくための基礎的能力を修得します。また、それを通じてリーガルリサーチができるようにします。					
【授業の概要】 主に社会人や法学未修者を念頭に置いた科目です。そのため、各法学分野の重要な判例や論文を読み、後の専門科目へと研究を展開させていくための基礎をつくります。					
【授業内容予定】 第1回：導入（河合） 第2回：社会法（成田） 第3回：社会法（成田） 第4回：社会法（成田） 第5回：刑事法（平野） 第6回：刑事法（平野） 第7回：刑事法（平野） 第8回：民事法（吉村） 第9回：民事法（吉村） 第10回：民事法（吉村） 第11回：商事法（長谷河） 第12回：商事法（長谷河） 第13回：商事法（長谷河） 第14回：憲法（河合） 第15回：憲法（河合）					
【教材・テキスト】 事前に購入していただく教材はありません。各担当者が用意いたします。					
【参考文献】 事前に購入していただく教材はありません。必要な場合は、担当者ごとに指定します。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点50点（10点×5人）＋レポート50点（ご自身の関心のある分野を1科目選択し、その分野の教員に提出します）					
【授業形式・形態および授業方法】 オムニバス形式の授業で行います。					
【留意点・予備知識等】 オムニバス形式ですので、常に掲示板等の連絡事項にご注意ください。					
【オフィスアワー】 河合正雄（水曜5・6限） 成田史子（火曜1・2限） 平野潔（木曜3・4限） 吉村顕真（火曜3・4時） 長谷河亜希子（火曜7・8限）					

授 業 科 目 名	地域雇用				
担 当 教 員	李 永俊				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義では、地域の雇用問題を多角的な実証分析を通して理解し、解決策を検討できること。また、地域の有為な人材を育てる条件について、実証分析を踏まえて検討できることを目標とする。					
【授業の概要】 労働経済学や人的資源管理に関する文献を中心に、地域雇用に関する現在の状況と将来の展望について、各講義担当教員の講義を行う。さらに、各受講者には地域雇用に関する研究発表を行ってもらう。					
【授業内容予定】 本講義の具体的な項目及び内容は以下の通りである。 1回 イントロダクション 2～3回 地域の労働市場の現状と問題点について 4～5回 さまざまな雇用政策 6～7回 人口減少と地域経済 8～9回 人口移動の現状と対策について 10～11回 地方回帰 12～14回 地域雇用問題と地域人材像に関するワークショップ 15～16回 受講者による研究報告会					
【教材・テキスト】 特にテキストを指定しない。					
【参考文献】 必要に応じて参考文献を紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 各々の発表内容ならびに質疑応答の内容で判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式の両方を用いる。					
【留意点・予備知識等】 特に予備知識は必要としない。					
【オフィスアワー】 毎週水曜日 午前10時00分～12時00分					

授 業 科 目 名	地域経済				
担 当 教 員	佐々木純一郎				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 地域経済とその展開にかかわる基本的な考えを理解するとともに、現代社会における地域経済・政策の背景となる要因を総合的に把握することを目標とします。					
【授業の概要】 グローバル化の進展する現代社会において地域経済・政策が抱える諸問題の背景要因を歴史的に検討・考察します。毎回、東北の事例を取り上げるので、必ず青森県も含まれます。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 東北という地域の形成 第3回 中央からの東北開発構想 第4回 東北開発の点と線 第5回 東北外資本の東北投資と東北の従属 第6回 東北振興と東北救済 第7回 昭和恐慌と東北振興 第8回 （中間評価） 第9回 国策としての東北振興 第10回 戦時経済と東北開発 第11回 敗戦後の東北開発 第12回 東北開発三法の制定と東北開発 第13回 全国総合開発計画策定以降の東北開発 第14回 巨大開発プロジェクトの帰趨 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 岩本由輝（2009）『東北開発120年（増補版）』刀水書房					
【参考文献】 適宜、紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 レポートの作成・報告や出席等の学習態度により総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式（レポート作成・報告、ディスカッション）とを適宜組合せて展開します。					
【留意点・予備知識等】 受講前に教科書の内容を一読してください。					
【オフィスアワー】 月～金曜日・午前8時30分～9時00分・教育学部4階（エレベーター右横の階段を上がって奥）。 来客が集中する場合も多いので、可能であれば事前にE-mailにてご予約いただければ幸いです。 sasajun@hirosaki-u.ac.jp					

授 業 科 目 名	地域企業				
担 当 教 員	保田宗良・黄孝春・大倉邦夫・熊田憲				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・1-2時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 地域企業の経営戦略を複数の視点で洞察する力を修得します。北東北の優良企業の事例から成功要因の法則性を把握できるようにします。					
【授業の概要】 地域企業の取り組みを、マーケティング、アジアでの展開、ソーシャル・ビジネスやコミュニティ・ビジネス、地域イノベーションの視点で検討します。成功要因の法則性を把握します。					
【授業内容予定】 ※ 地域企業は青森地域を意図しています。りんごは青森りんごを考慮します。 ① マーケティングの基礎理論 ② 地域企業のマーケティング活動 ③ 地域企業の流通戦略 ④ 小括（以上 保田担当） ⑤ 農産物(りんご)の流通 ⑥ 地方卸売市場と農協 ⑦ りんご商人とりんごの輸出 ⑧ りんごのブランド化(以上 黄担当) ⑨ 企業と社会の関係性に関する基礎理論 ⑩ ソーシャル・ビジネス ⑪ コミュニティ・ビジネス ⑫ 小括(以上 大倉担当) ⑬ 地域資源によるイノベーション ⑭ 地域農業におけるイノベーション ⑮ 小括(以上 熊田担当)					
【教材・テキスト】 受講時に指示します。					
【参考文献】 受講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 レポート6割、平常点4割 担当教員が出題したレポートのテーマ4題から2題を選択し、提出してください。平常点も加えます。					
【授業形式・形態および授業方法】 通常のゼミ形式で進めます。担当教員と受講者の双方向の議論が基本となります。					
【留意点・予備知識等】 北東北企業の動向を新聞等で把握していることが基本となります。					
【オフィスアワー】 保田 木曜日、金曜日 12時～12時30分 黄 水曜日 12時～13時 大倉 金曜日2コマ(10:20～11:50) 熊田 火曜日 11:50～12:40					

授 業 科 目 名	社会調査設計				
担 当 教 員	近藤 史				
学 期	前期	曜日・時限	月曜9・10限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 社会調査の方法を学び、私たちの社会を見抜く基本的な技術を身につけます。					
【授業の概要】 私たちの社会は多様で複雑です。これを理解するには、実際にフィールド（現場）に出て、人びととの関わりのなかで学ぶことが大切です。社会調査は、社会で起こっている様々な現象を明らかにするために、人と出会い、データを収集し、これを分析してまとめる方法です。本授業では社会調査の設計の仕方について体系的に学びます。					
【授業内容予定】 （１）社会調査について知る ①私たちの暮らしと社会調査 ②社会調査のプロセスとデザイン （２）情報を集める・先行研究を探す ③雑誌記事・論文、図書など ④新聞記事、統計データ、行政資料など ⑤まとめ （３）質的社会調査（フィールドワーク）の手法 ⑥フィールドワークはなぜ必要か ⑦誰に聞くか、どう頼むか ⑧記録術、聞いた話は「正しい」のか ⑨インタビューだけではない、立体的なフィールドワーク ⑩まとめ （４）調査データをまとめる ⑪データ整理、キーワードをみつける ⑫KJ法による体系化 ⑬タイトルとアウトラインの作成 ⑭論文作成の作法 ⑮まとめ					
【教材・テキスト】 宮内泰介『自分で調べる技術』岩波アクティブ文庫					
【参考文献】 大谷信介ほか編『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 ウヴェ・フリック著『新版 質的研究入門』春秋社					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加とエクササイズの提出レポートによる					
【授業形式・形態および授業方法】 講義と演習形式。教材に記されたエクササイズを実践してもらい、教員と討議します。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 初回授業でお知らせします					

授 業 科 目 名	量的調査分析				
担 当 教 員	古村健太郎				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日 3・4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 社会科学における実証研究で利用されるデータ解析手法や統計分析のためのソフトについて習熟することを目標とする。					
【授業の概要】 社会科学における実証研究で用いられるデータ解析手法について、統計分析ソフトRを用いて実際にデータ解析を行いながら学んでいきます。					
【授業内容予定】 第1回：オリエンテーション 第2回：データの入力と記述統計量 第3回：2つの変数の記述統計量 第4回：2変数の相関（1）：クロス集計表と ϕ 係数，クラメールの V 第5回：2変数の相関（2）：様々な相関係数 第6回：母集団と標本，統計的仮説検定 第7回：二つの平均値差の比較 第8回：分散分析 第9回：前半のまとめと復習 第10回：効果量 第11回：サンプルサイズの決定（1） 第12回：サンプルサイズの決定（2） 第13回：対応分析（1） 第14回：対応分析（2） 第15回：対応分析（3） *受講生の関心や理解状況によって内容を変更することがあります。					
【教材・テキスト】 山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎(2008). Rによるやさしい統計学 オーム社					
【参考文献】 授業で適宜紹介していく。					
【成績評価の方法および採点基準】 発表と議論の内容に基づいて評価を行う。					
【授業形式・形態および授業方法】 担当する学生が分析方法とRの使い方について発表し，それにもとにして展開してく。					
【留意点・予備知識等】 各自ノートパソコンを準備し，講義に持参してください。 また，学部卒業レベルの統計学の知識があるという前提で授業を行います。そのため，統計学の知識に不安のある受講生は，その部分を自習する必要があります。					
【オフィスアワー】 火曜日5・6時限とする。他の時間帯も問い合わせがあれば，可能な限り対応する。					

授 業 科 目 名	質的調査分析				
担 当 教 員	諏訪淳一郎・杉山祐子・白石壮一郎				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 社会調査の中の質的調査について、その目的、方法、考え方を理解する。それによって、社会のしくみを見ぬく基礎的な力、考える力を身につける。					
【授業の概要】 社会調査は、私たちの社会で起こっているさまざまな現象やしくみを明らかにするために、現場で実際に人と出会い、データを収集し、分析し、それをまとめていく科学的な方法です。本講義では、社会調査のうち質的な調査分析を中心に、その目的や方法、考え方について学びます。					
【授業内容予定】 1.社会調査における質的調査 2.質的調査の作法と倫理 3.調査のデザイン 4.観察と参与観察(1) 5.観察と参与観察(2) 6.フィールドノートと民族誌(1) 7.フィールドノートと民族誌(2) 8.インタビュー調査(1) 9.インタビュー調査(2) 10.ライフヒストリー法 11. 会話分析 12.コーディング 13. 内容分析(1) 14. 内容分析(2) 15. 質的調査と量的調査 *内容や順番については若干の変更がある場合もあります。					
【教材・テキスト】 『よくわかる質的調査〈技法編〉』谷富夫ほか編 ミネルヴァ書房					
【参考文献】 授業中に適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業参加とレポート評価を基本にします。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 授業の最初の回に連絡します。					

授 業 科 目 名	国際関係				
担 当 教 員	フールト・フォルカー				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 国際関係（論）の歴史、理論、構造と課題の科学的理解。					
【授業の概要】 授業内容の予定と形式・方法を参照。					
【授業内容予定】 1) 国際関係論への入門、テキストの紹介 第2回～第4回 国際関係の歴史 2) International Relations before the Second World War（第2次世界戦争以前の国際関係） 3) International Relations after the Second World War（第2次世界戦争以降の国際関係） 4) International Relations after the Cold War（冷戦以降の国際関係） 第5回～第8回 国際関係の理論 5) Realism（リアリズム / 現実主義） 6) Liberalism（リベラリズム / 国際協調主義） 7) Marxism and Neo-Marxism（マルクス主義とネオマルクス主義） 8) Neo-Realism and Neo-Liberalism（ネオリアリズムとネオリベラリズム） 第9回～第12回 国際関係の構造 9) International Organizations and NGOs（国際機関と NGO） 10) United Nations（国際連合） 11) International Law（国際法） 12) Regionalism（リージョナリズム / 地域統合） 第13回～第15回 グローバルな課題 13) International Security（国際社会の安全保障） 14) Nuclear Deterrence and Proliferation（核抑止論と核拡散） 15) Human Rights（人権）					
【教材・テキスト】 Jeffrey Haynes et al.: <i>World Politics, International Relations and Globalization in the 21st Century</i> (2 nd Edition, London et al.: Sage, 2017)					
【参考文献】 佐々木裕太『国際政治史・世界戦争の時代から21世紀へ』名古屋大学出版会 2011年 大芝亮『国際政治理論・パズル・概念・解釈』ミネルヴァ書房 2016年					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への積極的な参加とレポートの提出（2～3回）					
【授業形式・形態および授業方法】 対話形式（日本語）で専門的な英語文献分析。第2回から毎回の授業の前に15・20ページ程度の上記のテキストの部分を準備することが必須です。					
【留意点・予備知識等】 専門的な文献に対応できる程度の英語読解力が必須です。					

授 業 科 目 名	国際経済・経営				
担 当 教 員	小谷田文彦, 桑波田浩之, 細矢浩志, 内藤周子				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
国際経済に関する現状を理解し, その背後にある理論を理解できるようになること					
【授業の概要】					
国際経済や国際経営に関わる現状を理解したり, その背後にある基礎的な理論について, 英語で学ぶ授業です。オムニバスによる授業で, 担当教員の専門分野に関わるトピックを取り上げていく予定です。					
【授業内容予定】					
第1回 インTRODクシヨN(担当 森)					
第2回 The Concept of the International Trade Theory (担当 桑波田)					
第3回 International Trade Theory I : Ricard Model (担当 桑波田)					
第4回 International Trade Theory II : Heckscher-Ohlin Model (担当 桑波田)					
第5回 International Trade Policy (担当 桑波田)					
第6回 Questioning 'Globalization' (担当 細矢)					
第7回 Changing geographies of the global economy : the imprint of past geographies (担当 細矢)					
第8回 Changing geographies of the global Economy : shifting contours of the global Economy (担当 細矢)					
第9回 Global Production Networks (担当 細矢)					
第10回 Exchange Rate and Open-Economy Macroeconomics I (担当 小谷田)					
第11回 Exchange Rate and Open-Economy Macroeconomics II (担当 小谷田)					
第12回 International Macroeconomic Policy I (担当 小谷田)					
第13回 International Macroeconomic Policy II (担当 小谷田)					
第14回 International Accounting (担当 内藤)					
第15回 IFRS Conceptual Framework for Financial Reporting (担当 内藤)					
なお, 講義の順や内容については変更もあるので, 詳細はイントロダクションで確認してください。					
※第1回目のみ, 開講時間, 開講場所が異なることもありますので, 掲示等を注意しておいてください。					
【教材・テキスト】					
適宜, 資料を配付します					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】					
各担当教員ごとに提示する課題と授業への参加状況により評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
輪読, ディスカッションなど					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】					
木曜 17時40分～18時30分 (科目主任 森)					

授 業 科 目 名	海外事情(外国語モジュール)				
担 当 教 員	細矢浩志				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 現代の国際社会の経済的構造とその展開にかかわる基礎的な知識を獲得するとともに、世界経済を読み解くのに必要な問題設定や経済学的な思考がひととおりできるようになることを目標とします。					
【授業の概要】 アメリカ経済に関する最新刊の研究書を読むことをつうじて、20世紀以降今日に至るアメリカ経済の各分野における歴史的展開を検討し、現代アメリカ経済が抱える諸問題を多面・多角的に検討・考察します。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 「問題大国」アメリカ：繰り返される歴史―大恐慌と世界経済危機 第3回 決められない政治―政策形成プロセスの変容と経済政策 第4回 葛藤するエネルギー多消費社会―環境エネルギー政策の成立と模索 第5回 自由化と生産調整の狭間で―農業大国の展開 第6回 貿易自由化への懐疑―関税障壁から非関税障壁へ 第7回 変化する市場への対応―反トラスト政策の変遷 第8回 中間総括 第9回 金融の肥大化―金融市場の構造変化とファンド資本主義の展開 第10回 「競争的経営者資本主義」の盛衰 第11回 オフショア・アウトソーシングへ―IT多国籍企業の史的展開 第12回 「労使関係」の成熟と衰退 第13回 格差と貧困―アメリカ型福祉国家の形成と変容 第14回 “希少性”と“余剰”―経済学は経済成長をどのようにとらえてきたか 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 谷口明丈・須藤功編『現代アメリカ経済史』有斐閣、2017年、4,104円					
【参考文献】 適宜、紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 レポートの作成・報告や出席等の学習態度により総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式（レポート作成・報告、ディスカッション）					
【留意点・予備知識等】 現代アメリカ経済にかんする基礎的な素養と物事を議論する力を身につけていることが求められます。					
【オフィスアワー】 月曜日・午後4時30分～5時30分・人文社会科学部344研究室					

授 業 科 目 名	日本事情				
担 当 教 員	羽渕一代・小杉雅俊・尾崎名津子				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日 1・2 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 日本の地理・経済・宗教・歴史などの特色を踏まえながら、現在および将来の日本像について総合的な知見を深める。					
【授業の概要】 政治・経済・文化・制度等、日本における諸側面についての検討と考察。					
【授業内容予定】 第1回 日本の若者：消費文化 第2回 日本の若者：アイデンティティ論 第3回 日本の若者：イエ意識 第4回 日本の若者：恋愛 第5回 日本の若者：地元志向 第6回 会計学概説：日本における会計学諸分野の展開と発展を検討する 第7回 会計指標を分析するために：日本企業の財務データを分析するための考え方を学ぶ 第8回 日本の電気大手メーカーの隆盛とその後(1)：ソニー・シャープ 第9回 日本の電気大手メーカーの隆盛とその後(2)：東芝 第10回 会計監査を考える：東芝の不適切な会計処理により生じた影響について議論する 第11回 日本近現代文学史：言文一致体をめぐる運動 第12回 日本近現代文学史：日露戦争、大逆事件と文学 第13回 日本近現代文学史：マス・メディアの成立と文学 第14回 日本近現代文学史：大量消費社会と「文学」のイベント化 第15回 日本近現代文学史：3・11後の文学					
【教材・テキスト】 川崎賢一・浅野智彦編『〈若者〉の溶解』勁草書房（第1回から第5回） 第6回授業から第15回授業は、適宜プリントを配布する。					
【参考文献】 授業の中で紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席など平常点および小課題の内容に基づく。					
【授業形式・形態および授業方法】 オムニバスによるゼミナール形式。					
【留意点・予備知識等】 授業内容の順序などが入れ替わる可能性もある。なお、授業で利用する言語は原則的に日本語で行う。特別な対応が可能かどうかは科目登録時までに担当教員に確認のこと。					
【オフィスアワー】 羽渕：火曜日12:00-12:30、その他の時間でも、面談希望があれば予約していらしてください 小杉：火曜日12:00-12:30、この時間に限らず随時対応しますのでご相談ください 尾崎：火曜日12:00-12:30、その他は相談に応じる。					

授 業 科 目 名	日本社会				
担 当 教 員	成田史子・吉村顕真・平野 潔・河合正雄・児山正史				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・9－10時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
留学生が日本社会のさまざまな側面について理解を深めることを目標とします。					
【授業の概要】					
日本社会のさまざまな側面について、各分野を専門とする教員が、講義または演習を行います。					
【授業内容予定】					
第1回 イン트로ダクション（全担当教員）					
第2回 労働関係の成立と終了（成田史子）					
第3回 労働時間（同上）					
第4回 日本社会と財産法（吉村顕真）					
第5回 日本社会と家族法（同上）					
第6回 市民生活と刑事法（平野潔）					
第7回 国民の司法参加と裁判員制度（同上）					
第8回 刑務所の中（河合正雄）					
第9回 日本国憲法の基本：人権（同上）					
第10回 日本国憲法の基本：政治の仕組み（同上）					
第11回 日本の政治（児山正史）					
第12回 日本の行政（同上）					
第13回 日本の地方自治（同上）					
第14回 日本の少子化対策（同上）					
第15回 日本と外国の比較（同上）					
【教材・テキスト】					
各教員が指定します。					
【参考文献】					
各教員が指定します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
授業への参加やレポート等を総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義または演習の形式で行います。					
【留意点・予備知識等】					
留意点は各教員が伝えます。予備知識は特に必要ありません。					
【オフィスアワー】					
成田：火曜日 1・2 時限 吉村：火曜日 10：30～11：30 平野：木曜日 3・4 時限 河合：水曜日 5・6 時限 児山：金曜日 7・8 時限					

授 業 科 目 名	日本経済				
担 当 教 員	黄・福田・金目・山本・大倉				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本の経済・経営に関わるトピックに関する学界の最新研究動向を紹介して問題の所在を明らかにし、受講生自身の研究を展開するうえでの手がかりを得ることを目標とします。					
【授業の概要】 各担当者は自分の専門分野から日本の経済に関わるトピックを取り上げ、それに関する最新の研究情報の紹介と考察を行います。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンスとイントロダクション（黄） 第2回 日本経済の歩み（福田） 第3回 日本の雇用情勢（福田） 第4回 財政赤字と失業（福田） 第5回 国と地方の財政状況（金目） 第6回 税制の現状と課題（金目） 第7回 格差社会と社会保障改革（金目） 第8回 日本のマクロ経済変数（山本） 第9回 日本の金融市場1（山本） 第10回 日本の金融市場2（山本） 第11回 日本における企業と社会の関係性（大倉） 第12回 日本企業におけるCSR経営（大倉） 第13回 日本企業におけるソーシャル・ビジネスの展開（大倉） 第14回 日本農業の歩みと現状（黄） 第15回 地域経済と農業（黄）					
【教材・テキスト】 関連文献、論文等を適宜指示します。					
【参考文献】 授業内容に応じて適宜指示するほか、プリントを配布します。					
【成績評価の方法および採点基準】 基本的に平常点で評価しますが、与えられた課題（レポート等）による場合もあります。					
【授業形式・形態および授業方法】 基本的には講義形式ですが、演習形式をとることもあります。					
【留意点・予備知識等】 受講生と相談の上、曜日・開講時間の変更がありえます。					
【オフィスアワー】 月曜日12：00～13：00（黄）					

授 業 科 目 名	情報処理				
担 当 教 員	増山 篤・横地徳廣				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日 3－4 時限	単位	1単位
【授業としての具体的到達目標】 人文社会科学研究に必要となる数値処理の基本的技術を習得すると同時に、研究活動における情報の収集・管理・編集・発信に関する倫理を身につける。					
【授業の概要】 数値処理、情報倫理に関する知識や技術を具体的な事例を使って理解する。					
【授業内容予定】 1～4：数値処理（増山担当） 1：Excelによる数値計算・統計処理の基本 2：モンテカルロ・シミュレーションと中心極限定理 3：分析ツールによる相関分析、回帰分析 4：行列計算（行列式、行列の積、逆行列） 5～8：情報とメディアの倫理（横地担当） 5：情報とメディアの倫理とは何か 6：情報概念の歴史と社会 7：メディア概念の歴史とマクルーハン 8：情報空間とサイバネティクス					
【教材・テキスト】 授業時に指示する。					
【参考文献】 授業時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への準備状況、レポートなどの課題の成果を総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 授業は2名の教員（増山・横地）によるオムニバス形式の演習形式でおこなう。					
【留意点・予備知識等】 受講生との相談のうえ、授業内容予定を変更する場合がある。					
【オフィスアワー】 増山： 横地：西洋倫理思想史研究室（横地）を訪問するさいは、同研究室掲示板にあるメールアドレスでアポをとってください					

授 業 科 目 名	日本語・日本語論文作成技法				
担 当 教 員	奥野浩子・小山宣子・鹿嶋彰・川瀬卓・佐藤和之				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・7-8時限	単位	1 単位
【授業としての具体的到達目標】 受講者の関心のあるトピックに関するテーマを設定し、それについての小論文作成を通じて、アカデミックな活動に必要な日本語が書けるようになることを目標とします。					
【授業の概要】 受講生が今まで書いたレポート、小論文の検討を通じ、小論文について学ぶとともに、関心のあるテーマで実際に小論文を書き、口頭発表を行います。					
【授業内容予定】 授業は第一週目より開始し、隔週で行う予定です。各回の授業は下記のように進める予定ですが、受講生の数や日本語力に応じて、変更することもあります。					
1 回目 オリエンテーション、小論文について知る 2 回目 テーマを決めて構想を練る 3 回目 テーマについての事前調査、テーマの再検討 4 回目 資料の調査と整理 5 回目 文章構成の組み立て 6 回目 文章の書きかた 7 回目 文章の点検 8 回目 口頭発表・まとめ					
【教材・テキスト】 特に使用しません。					
【参考文献】 授業時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業参加、提出物、小論文、口頭発表を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式					
【留意点・予備知識等】 ・対象者は、外国人留学生、あるいは日本語が母語ではなく、日本語を教育言語として用いない中等教育機関および高等教育機関の出身者とします。また、受講には、弘前大学日本語コースで中上級に入れる日本語力が最低限必要です。 ・講義時間は、一回目の授業時に話し合って決めます。 ・一回目の授業には、今まで授業等で提出した小論文・レポートを持ってきてください。					
【オフィスアワー】 一回目の授業日に指示します。					

授 業 科 目 名	英語論文作成技法				
担 当 教 員	今井 正浩				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日 5・6時限	単位	1 単位
【授業としての具体的到達目標】 英語によるアカデミックライティングの手法を習得することによって、英語の論文を執筆する技術を身に付けます。					
【授業の概要】 英語で書かれた論文の構成や内容等を分析することによって、英語による論文を作成するために必要なスキルを身に付けます。					
【授業内容予定】 前期 8 回の授業（1単位）で、第一週目から隔週で実施します。 [第 1 回] イントロダクションー授業の概要の説明等 [第 2 回] 英語論文を執筆するにあたっての留意点 [第 3 回] 英語で書かれた論文の構成・内容等の分析（1） [第 4 回] 英語で書かれた論文の構成・内容等の分析（2） [第 5 回] 英語論文試作品の作成（1） [第 6 回] 英語論文試作品の作成（2） [第 7 回] 英語論文試作品の作成（3） [第 8 回] 総括					
【教材・テキスト】 授業開始時に指示をする予定です。					
【参考文献】 中谷安男『大学生のためのアカデミック英文ライティング』（大修館書店、2016年）					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点とレポートの評点をもとに総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 授業は人文社会科学部長室（人文社会科学部校舎 1 階）で実施します。教員の解説を交えた演習形式の授業です。					
【留意点・予備知識等】 毎回、入念な予習・復習が必要となります。					
【オフィスアワー】 毎週月曜日午後4時～6時の時間帯をオフィスアワーとして設定していますが、研究室（人文社会科学部校舎 4 階 4 1 1）に不在の場合には、人文社会科学部長室にお越し下さい。					

平成 30 年度後期 大学院共通科目 シラバス

授業科目名（英文名）	エネルギーと環境（Energy and Environment）
対 象 学 生	修士課程および博士前期課程 1, 2 年生
必修・選択の別	選択
単 位	2 単位
担 当 教 員 （所属研究科）	
学 期	
曜日・時限・講義室	
授 業 の 概 要	
授業の内容（予定）	授業計画が決定次第，掲示します。
教 材 ・ 教 科 書	
参 考 文 献	
成績評価の方法 及び採点基準	
授業形式・形態 及び授業の方法	
留意点・予備知識	
そ の 他	
E-mail アドレス・ オフィスアワー	

2. 2. 文化科学専攻 専門科目

※ 講義曜日・時間等変更になる可能性があるので、事前に担当教員に確認すること。

2. 2. 1 総合文化社会研究コース	2. 2. 2 地域人材育成コース	2. 2. 3 国際人材育成コース
日本歴史論 中国歴史論 中国思想文化論 西アジア史論 西洋歴史論 民俗学 西洋考古学 日本考古学 文化財調査・研究論 文化財科学 文化資源論 日本東洋美術史論 芸術史論 西洋古典学 西洋倫理思想史論 日本近代文学 日本古典文学 中国言語文化論 中国社会論 英文学B 英文学C 米文学 現代アメリカ論 フランス語言語・文化論 フランス文学 一般言語学 言語文書処理論 統語論 意味論 日本語史方法論 社会言語学 情緒社会学 生態人類学 社会心理学A 応用言語学 ドイツ論 文化人類学B 平和学	北東北歴史論 東北民俗学 東北考古学 文化財保存・活用論 地域文化財保存論 北日本環境史 芸術文化史論 日本古典文化論 地域言語論 文化社会学 ネットワーク社会心理学 フィールドワーク社会心理学 民族誌論	中国近世史論 東アジア思想文化論 イスラーム地域研究 グローバルヒストリー論 古代地中海文化論 ヨーロッパ古典文化論 現代倫理学 日本近現代文学 中国文化論 現代中国論 イギリス近代文化論A イギリス近代文化論B アメリカ近代文化論 アメリカ社会研究 ヨーロッパ現代文化論 フランス文芸論 言語類型論 国際文書規格論 言語文化論 語彙意味論 日本語史論 国際協力人類学 国際言語研究 現代フランス研究 ヨーロッパ文明論 ジェンダー人類学 平和構築論

授 業 科 目 名	日本歴史論				
担 当 教 員	武井 紀子				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日 3－4 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 文献の講読を通じて、日本の歴史を考える上での様々な視点を学ぶ。また、日本史研究の論点の見つけ方を身につける。					
【授業の概要】 石母田正『日本の古代国家』（岩波文庫）第二章「大化改新の史的意義」の講読を通じて、古代日本の歴史を考える上での諸問題について学ぶ。					
【授業内容予定】 1～2 ガイダンス 石母田正『日本の古代国家』、大化の改新について 3～5 第一節 「改新の課題 史料批判の問題」 6～8 第二節 「人民の地域的編成 王民制から公民制」 9～10 第三節 「改新と東国首長層」 11～13 第四節 「改新政権の軍事的性格」 14～15 第五節 「権力構造について」 各回とも、まず文献中に出てくる史料の原文を読みながら、文献の内容を読解し、議論していく。上記の大まかな計画をもとに、具体的に読み進めていくペースは参加者と相談しながら決めていく。					
【教材・テキスト】 石母田正『日本の古代国家』（岩波文庫、2017年） 文庫本で一冊持っていると便利である。					
【参考文献】 野村忠夫『研究史 大化改新〔増補版〕』（吉川弘文館、1973年） 市大樹「大化改新と改革の実像」（岩波講座『日本歴史』2、岩波書店、2014年） 石母田正『日本の古代国家』（岩波文庫、2017年）の第一章部分					
【成績評価の方法および採点基準】 出席と報告、学期末レポートにより評価する。報告は、史料読解や内容、討論への積極的参加を総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 担当者を決めて文献輪読と講義形式、関連論文の講読を組み合わせで行う。					
【留意点・予備知識等】 特になし。予備知識は必要としないが、やや難解な話も含まれるため、『日本歴史』などの通史をあわせて読むことをすすめる。					
【オフィスアワー】 火曜日の3・4時限。そのほか研究室（人文333）在室時には、いつでも来てかまわない。					

授 業 科 目 名	中国歴史論				
担 当 教 員	荷見守義				
学 期	前期	曜日・時限	月曜・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 中国明代史に関わる諸問題について、原典史料に基づいて議論できるようになることを授業の到達目標とする。					
【授業の概要】 中国明代史に関わる史料と研究論文を読み進める。					
【授業内容予定】 第1～16回 中国明代史に関わる史料と研究論文の読解					
【教材・テキスト】 授業時に指示する。					
【参考文献】 授業時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回の担当の精度によって判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 院生による輪読方式とする。					
【留意点・予備知識等】 中国史、特に明代史についての専門的知識と基礎的訓練を受けた者を対象とする。					
【オフィスアワー】 月曜・昼休み（12:00～12:40）					

授 業 科 目 名	中国思想文化論				
担 当 教 員	李 良				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 中国思想文化の流れを時系列に解説することによって、中国文明（思想文化）の全体像を捉えたうえ、その本質的特徴を吟味し、理解することを到達目標とする。					
【授業の概要】 中国思想史の概説とともに、精選された思想史関係のテキストまたは論文を精読します。					
【授業内容予定】 第一回 中国思想とはなにか 第二回～第三回 史的概観一；先秦から戦国まで 第三回～第四回 史的概観二；魏晋南北朝時代 第五回～第八回 史的概観三；隋唐時代 第九回～第十回 史的概観四；明清時代 第十一回～第十二回 史的概観五；民国時代 第十三回～第十四回 溝口雄三『中国の公と私』（研文出版、1996年）の国家実体についての論述問題） 第十五回～第十六回 国家における公と私という文脈について					
【教材・テキスト】 特定の教材を使用しません。プリントを頒布します。					
【参考文献】 開講時、紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席、授業準備状況および試験（レポート）					
【授業形式・形態および授業方法】 講義、輪読および討論などマルチ形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 欠席しないことです。予備知識が望ましいですが、必須ではありません。					

授 業 科 目 名	西アジア史論				
担 当 教 員	亀谷学				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日 7・8 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 西アジア史に関する歴史史料についての知識を深め、また史料を読んでそこから具体的なデータ・事実を引き出し、それに基づいて論じることができるようになる。					
【授業の概要】 主にイスラーム期以降のさまざまな文書史料を講読することを通じて、イスラーム世界の人々がどのような社会の中で活動していたのかについて考える。					
【授業内容予定】 原則として各時代・類型から数点ずつ文書を取りあげ、それを講読しながら当該の社会のあり方について考える。 第1回 イントロダクション 第2回 西アジア史の史料状況概説 第3回 初期イスラーム時代パピルス文書：ギリシャ語行政文書 第4回 初期イスラーム時代パピルス文書：アラビア語行政文書 第5回 初期イスラーム時代パピルス文書：アラビア語私文書 第6回 ファーティマ朝期文書：嘆願書 第7回 ファーティマ朝期文書：土地売買文書 第8回 ファーティマ朝期文書：キリスト教徒に関わる文書 第9回 ゲニザ文書：エジプト・マグリブ間交易文書 第10回 ゲニザ文書：インド・エジプト間交易文書 第11回 ゲニザ文書：中世イスラーム社会におけるユダヤ教徒の生活に関連する文書 第12回 近世近代イスラーム世界の文書：ワクフ文書 第13回 近世近代イスラーム世界の文書：遺産分割文書 第14回 近世近代イスラーム世界の文書：文書の継承とその様式 第15回 まとめ なお具体的にどのような文書を読むかについては受講者の関心にあわせて決定する。					
【教材・テキスト】 授業中にプリント等の形で配布する。					
【参考文献】 三浦徹編『イスラームを学ぶ：史資料と検索法』山川出版社、2013年。					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回の授業の参加度・理解度による平常点と期末課題により評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 講読とそれについての解説を織り交ぜる形で行う。					
【留意点・予備知識等】 中東・イスラーム地域に関する基礎的な知識があることが望ましい。					
【オフィスアワー】 水曜日12:40-14:10					

授 業 科 目 名	西洋歴史論				
担 当 教 員	中村 武司				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 西洋史研究に不可欠な外国語文献・史料の読解能力ならびに研究内容を明晰に伝えるプレゼンテーション能力の取得					
【授業の概要】 近年の西洋史研究の諸問題にかんする理解を深めるべく、受講生各自の研究分野をふまえて、修士論文作成に必要な外国語文献や史料を選択して報告し、討論をおこなう。					
【授業内容予定】 第1回：イントロダクション 第2回：先行研究の紹介① 第3回：先行研究の紹介② 第4回：先行研究の紹介③ 第5回：先行研究の紹介④ 第6回：一次史料の紹介① 第7回：一次史料の紹介② 第8回：一次史料の紹介③ 第9回：一次史料の紹介④ 第10回：一次史料の紹介⑤ 第11回：一次史料の紹介⑥ 第12回：修士論文研究報告① 第13回：修士論文研究報告② 第14回：修士論文研究報告③ 第15回：修士論文研究報告④ ※受講人数によっては、上記の計画を変更することがありうるので、留意されたい。					
【教材・テキスト】 受講生の関心におうじて、授業のさいに決定する。					
【参考文献】 適宜紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 報告内容の水準と討論への参加度、ならびに学期末のレポートから総合的に評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式					
【留意点・予備知識等】 履修にさいしては、研究で利用する外国語文献の読解能力が不可欠となる。					
【オフィスアワー】 毎週水曜日、13:00-13:45（人文学部校舎407号室：ヨーロッパ史研究室） 研究室を不在にしていることも多いので、面談を希望する場合は、事前にメールにて予約することを勧める。					

授 業 科 目 名	民俗学				
担 当 教 員	山田厳子				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・5・6限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本における人形に関わる信仰現象を理解する。					
【授業の概要】 ジェーンマリー・ローの『神舞い人形』を輪読し、日本における人形と関わる信仰を理解する。					
【授業内容予定】 1 イントロダクション 2・3 ヒトガタ 4・5 門付け 6・7 異形の神 8 式三番叟 9 えびす舞 10 人形劇映像鑑賞 11 フィールドワーク 12 イコン 13 ノスタルジア 14 地域アイデンティティ 15 まとめ					
【教材・テキスト】『神舞い人形』2012年 2190円＋税					
【参考文献】適宜指示します。					
【成績評価の方法および採点基】 議論への貢献と発表で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義＋演習＋実習					
【留意点・予備知識等】 簡単なフィールド・ワークを予定しています。受講生の興味、関心を考慮し、相談の上、内容の一部変更もあり得ます。					
【オフィスアワー】 火曜日12:00～13:00					

授 業 科 目 名	西洋考古学				
担 当 教 員	宮坂 朋				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3/4限目	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 交易とモチーフ伝播の関係について考える。					
【授業の概要】 古代末期におけるエジプト・モチーフの伝播について考察する。					
【授業内容予定】 第1回目 導入 第2～4回目 工芸品におけるエジプト・モチーフ 第5～8回目 壁画におけるエジプト・モチーフ 第9～15回目 モザイクにおけるエジプト・モチーフ 第16回目 まとめ					
【教材・テキスト】 開講時に指示する。					
【参考文献】 開講時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 発表と期末レポートによる。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式を織り交ぜる。発表の回では、予め指示したテキストを熟読の上、レジюмеを用意し、要領良く発表すること。					
【留意点・予備知識等】 積極的な参加が期待される。					
【オフィスアワー】 木曜日3.4限目					

授 業 科 目 名	日本考古学				
担 当 教 員	上條 信彦				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 考古資料の分析に必要な知識および分析視点や論理展開について習得する。					
【授業の概要】 考古資料を通じて、どのように生業や社会の復元を行っていくかといった方法論を実践的に学習します。					
【授業内容予定】 日本考古学を考えるうえで必要な、発掘法・実測法について実習します。また、モノを通じて研究するという学問的性質から、モノの見方について事実記載から解釈へ至るまでの過程を考えます。青森県の遺跡における発掘調査および発掘資料を題材にします。					
第1回 ガイダンスとテキストの選定 第2回 考古学理論（1）遺跡の発掘方法 第3回 考古学理論（2）遺物の資料化と報告書 第4回 考古学実践（1）土器の観察 第5回 考古学実践（2）石器の観察 第6回 考古学実践（3）遺物のデータ化 第7～13回 考古学実践（4）遺物の図化 第14回 報告書の執筆 第15回 考古学理論（6）レポートの発表					
【教材・テキスト】 授業前に担当者が選定します。実物を使います。					
【参考文献】 授業での発表内容に関連する文献を指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 発表内容（5割）・意見など授業に対する取り組み（5割）で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習・実習形式					
【留意点・予備知識等】 深い討議するためには論文を読むだけでなく、関連分野についての知識が要求されます。					
【オフィスアワー】 上條（215号室） 月10：00～17：00 水15：00～17：00					

授 業 科 目 名	文化財調査・研究論				
担 当 教 員	関根達人				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日 1・2時限目	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 多角的な視点から歴史事象を考察する力を養うことが目的です。					
【授業の概要】 下記の書籍の講読です。					
【授業内容予定】 第1～8回 関根達人2016『モノから見たアイヌ文化史』吉川弘文館 第9～15回 関根達人2018『墓石が語る江戸時代』吉川弘文館 歴史文化ライブラリー464					
【教材・テキスト】 関根達人2016『モノから見たアイヌ文化史』吉川弘文館 関根達人2018『墓石が語る江戸時代』吉川弘文館 歴史文化ライブラリー464					
【参考文献】 関根達人2014『中近世の蝦夷地と北方交易』吉川弘文館 朽木量2004『墓標の民族学・考古学』慶應義塾大学出版会					
【成績評価の方法および採点基準】 課題（要約）と意見・質問・感想など授業に対する姿勢で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 テキストを読みながらの授業です。					
【留意点・予備知識等】 毎回必ず意見・質問・感想などを求めます。					
【オフィスアワー】 水曜日 1・2時限目					

授 業 科 目 名	文化財科学				
担 当 教 員	片岡太郎				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日, 3・4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 文化財の自然科学的な分析方法の基礎理論を習得し、分析の方法論と分析結果を解釈する能力を身につけます。					
【授業の概要】 現代の文化財調査や保存では、自然科学的分析や観察の基礎知識や理論への理解が求められます。授業では、文化財科学の各専門領域の重要な論文を読み解くことで、文化財調査に関する本質を深く理解し、判断する能力を養います。					
【授業内容予定】 講義とともに、受講者は、毎回、文化財科学の研究分野（年代測定、産地同定、材質・技法、古環境、保存科学、探査、情報システム、防災など）からテーマを選択し、関連する論文1編についての発表をしていただきます。 第1回 ガイダンス ― 文化財科学の研究分野について ― 第2～3回 年代測定 第4～5回 産地同定 第6～7回 材質同定 第8～9回 技法研究 第10回 古環境 第11～12回 保存科学 第13回 探査 第14回 情報システム 第15回 防災と文化財レスキュー					
【教材・テキスト】 特定の教材・テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。					
【参考文献】 必要に応じて授業の中で提示。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席および授業に対する姿勢、発表を総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式で行ないます。毎回の受講者による発表は15分程度を予定しており、発表に基づくレジュメをA4サイズ1枚程度を準備していただきます。					
【留意点・予備知識等】 高校程度の化学と物理学の知識があれば、講義内容がより理解できます。					
【オフィスアワー】 水曜日 7・8時限目（14:30～16:00）					

授 業 科 目 名	文化資源論				
担 当 教 員	植月 学				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日 9・10時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 ・法制度で保護された文化財・文化遺産に重きを置いてきた従来の文化財行政について学ぶ。 ・有形・無形を含む多様な文化資料を資源として見直し、学術研究や人類文化の発展のために活用する文化資源論について学ぶ。 ・文化資源を保存しつつ、地域の課題解決のために活用する意義と方法について実践例により理解し、今後の展望を考える。					
【授業の概要】 以下の各テーマに沿った実践例や論文をもとに受講者が発表をおこない、講師が解説を加える。発表後には討論を通じて、課題や解決方法を考えていく。					
【授業内容予定】 第1～2回 イン트로ダクション 文化財保護の歴史 文化財と文化資源 第3～9回 文化資源の諸相 遺跡・考古資料、食文化、産業、祭礼、町並、文化的景観、生物 第10～14回 文化資源活用の未来 博物館、教育、観光、地域振興、保存と変容 第15回 まとめ 以上のテーマは参考例であり、受講生の関心に応じて変更することもあり得る。					
【教材・テキスト】					
【参考文献】 授業時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 発表および討論への参加姿勢、レポートにより総合的に評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 主に演習形式。分担を決めて準備し、担当者が発表をする。質疑・討論も行う。					
【留意点・予備知識等】 実際にフィールドに出て、様々な文化資源の保存と活用の現場に触れることで、討論に積極的に参加できるよう、日頃から留意してほしい。					
【オフィスアワー】 月・水 14:20～15:50					

授 業 科 目 名	日本東洋美術史論				
担 当 教 員	須藤 弘敏				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本及び東洋美術に関する本質的な課題を把握すること					
【授業の概要】 日本の造形の特徴について、制作と享受という二つの視点を元に具体的に考えていく できるだけ問いかけの形で、受講者自身に考えてもらう形式で進める					
【授業内容予定】 1 何が日本美術なのか 2 作品に基づく考察 1 3 作品に基づく考察 2 4 文献に基づく考察 1 5 文献に基づく考察 2 6 日本美術の評価 1 7 作品に基づく考察 3 8 作品に基づく考察 4 9 ヨーロッパ美術との比較 10 ヨーロッパ美術との比較 2 11 作品に基づく考察 5 12 東アジア美術との比較 13 美術史の対象とされない造形とは アフリカ・オセアニアの造形との比較 14 現代美術における日本美術 15 総括					
【教材・テキスト】 受講者と相談の上で指定する					
【参考文献】 受講者と相談の上で決定する					
【成績評価の方法および採点基準】 出席点およびレポート 授業に対する関心度と問題を把握したレベルによって評価する					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式					
【留意点・予備知識等】 大学の学部時代に美術史（日本・東洋・西洋や時代は問わない）をある程度学習してきていること。					

授 業 科 目 名	芸術史論				
担 当 教 員	足達薫				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日 7-8	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 芸術作品を研究する基礎的な方法と問題意識を理解し、修士論文の一部になりうるレベルのレポートを作成する。					
【授業の概要】 具体的なテーマに関して、参加大学院生それぞれが関心のある時代や地域の問題をとりあげ、文献資料の収集と読解、作品の解釈を行う。毎回、研究の進展について報告と議論をおこない、レポートとして完成させる。					
【授業内容予定】 1 「人間の顔」というテーマの設定 2～4 考察の手順の整理 芸術史の基本的な方法論について解説する。 5～10 各自の手間設定、基礎的調査、その報告 11 中間考察 12～15 発表。					
【教材・テキスト】 授業で指示する。					
【参考文献】 授業で指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席、発表、レポートから総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 課題について自分で資料を集め、検討し、レポートする。					
【留意点・予備知識等】 準備のための読書量は相当なものになります。ラテン語やイタリア語等の馴染みの薄い外国語の知識も必要となってきます。					
【オフィスアワー】 水曜日13～14時。					

授 業 科 目 名	西洋古典学				
担 当 教 員	今井 正浩				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 西洋古典学（Classics）の主要な分野に関する英文論考の読解をととして、ヨーロッパ文化の源流としての西洋古典古代の文化的特質について深く理解します。					
【授業の概要】 英文論考をととして、初期ギリシア思想からヘレニズム期・ローマ期にいたるまでの倫理思想（Ethics）の問題系譜を辿ります。					
【授業内容予定】 1) 導入（Introduction）－西洋古典古代における倫理思想へのいざない 2) ギリシア詩人たち－ホメロス（c.750 BC）から悲劇詩人たちまで 3) 初期ギリシアの思想家たち（1）ピュタゴラス学派 4) 初期ギリシアの思想家たち（2）ヘラクレイトス，エンペドクレス，アナクサゴラス 5) ソピスト思潮 6) ソクラテス（1） 7) ソクラテス（2） 8) プラトン（1） 9) プラトン（2） 10) アリストテレス（1） 11) アリストテレス（2） 12) ヘレニズム期の思想家たち－エピクロス学派とストア学派，懐疑派 13) プロティノスと新プラトン主義 14) キリスト教思想家アウグスティヌス 15) まとめ					
【教材・テキスト】（以下の英文論考のコピーを配布します） Gill, C.J., Classical Ethical Thought, Zeyl, D.J.(ed.), <i>Encyclopedia of Classical Philosophy</i> (Fitzroy Dearborn Publishers, 1997), pp.221-229.					
【参考文献】 授業中に、適宜指定する予定です。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点に加えて、学期末に提出されるレポートに重点をおいて、総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 少人数の学生諸君を対象とする演習形式の授業のため、教科書として指定された文献等の予習・復習が必要となります。					
【留意点・予備知識等】 好奇心旺盛で、やる気のある学生諸君の受講を期待します。					

授 業 科 目 名	西洋倫理思想史論				
担 当 教 員	横地 徳広				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 この授業で受講生のみなさんは、西洋倫理思想史の重要概念を学びながら、生命環境倫理学の諸テーマを考察していきます。この考察を通じて、われわれが生きる社会の諸事象を解釈する哲学的思考の習得がめざされます。					
【授業の概要】 <i>Schlussbericht der Enquete-Kommission "Recht und Ethik der modernen Medizin"</i> (2002)の担当者がレジュメを作成し、そのレジュメを手がかりに受講生が内容を検討します。					
【授業内容予定】 生命環境倫理学のテキストと映像を検討する。 1 ガイダンス テキスト決定とレジュメ担当決定 2～5 「生命倫理学」とは何か：テキスト&映像資料の検討とコメント作成 6～9 「環境倫理学」とは何か：テキスト&映像資料の検討とコメント作成 10～14 「生命環境倫理学」とは何か：テキスト&映像資料の検討とコメント作成 15 まとめ					
【教材・テキスト】 受講生にドイツ語未修得者がいる場合は、邦訳であるドイツ連邦共和国議会「現代医療の法と倫理」審議会『人間の尊厳と遺伝子情報——現代医療の法の倫理（上）』（松田純、中野真紀、小椋宗一郎訳、知泉書館、2004年）をテキストにもちいます。					
【参考文献】 授業中に適宜紹介されます。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常評価（レジュメ、コメント、発言、出席）：100%（全15回中10回以上の出席が必要） 追加評価（優秀なコメントや発言に加点）：+α					
【授業形式・形態および授業方法】 演習と講義の混交形式。					
【留意点・予備知識等】 授業への参加希望者は、横地まで 必ずメールすること 。 アドレスは西洋倫理思想研究室（人文414）に掲示してあります。					

授 業 科 目 名	日本近代文学				
担 当 教 員	尾崎 名津子				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日 5・6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
日本近代文学研究に必要な調査や読解の方法、知識を習得する。					
【授業の概要】					
「女性の語り」を実現しているとされる作品の分析を通して、内容の理解を深めると同時に、明治期から現代にかけてのジェンダーバイアスの変遷を学ぶ。					
【授業内容予定】					
第1回 「女性の語り」とは何か 第2回 「女性作家の文体」はあるのか 第3回 樋口一葉の文体 第4回 田村俊子『生血』の文体 第5回 『青鞥』の文体 第6回 岡本かの子の文体 第7回 林芙美子の文体 第8回 女性文芸雑誌の文体（1）―『女子文壇』の場合 第9回 女性文芸雑誌の文体（2）―『若草』の場合 第10回 少女雑誌の文体 第11回 文体という異性装 第12回 太宰治『葉桜と魔笛』 第13回 太宰治『女生徒』 第14回 太宰治『十二月八日』 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】					
樋口一葉『にぎりえ・たけくらべ』（岩波書店、1999年）など。より具体的には授業で紹介する。					
【参考文献】					
飯田祐子『彼女たちの文学』（名古屋大学出版会、2016年）など。その他の必要な文献については授業で紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】					
出席を含む平常点、授業への取り組み、発表内容などを総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
ゼミナール形式					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】					
水曜日 10：00～13：00 金曜日 13：00～16：00 その他応相談。					

授 業 科 目 名	日本古典文学				
担 当 教 員	渡辺麻里子				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・7－8限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ・変体仮名（仮名のくずし字）を読めるようになる。 ・『天狗の内裏』という作品を通じて、天狗、夢告、兵法伝授、地獄極楽訪問譚、未来記などといったモチーフを学び、日本古典文学の基礎知識を習得する。 ・津軽と義経伝承、津軽の藩医・渋江抽斎など、津軽の文化を学ぶ。 ・古典文学の調べ方を学び、自分なりに問題意識を持って掘り下げ、発表が出来るようになる。 ・質疑を通じて、議論の深め方を学ぶ。					
【授業の概要】 弘前市立図書館岩見文庫蔵『天狗の内裏』を中心に、室町時代の物語を考察する。『天狗の内裏』は、多くの伝承が盛り込まれた源義経の一代記である。発表は、『天狗の内裏』のくずし字を学習・翻刻するところからはじめ、語釈、解説を行う。発表後、参加者で討論し、読解を深める。古典の諸文献の扱い方、読解の仕方を学ぶ。また、発表や討論を通じて、室町時代の物語を読み味わい、古典世界の人々の生き方を学ぶ。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 『天狗の内裏』解説1―義経について― 第3回 『天狗の内裏』解説2―内容構成について― 第4回 『天狗の内裏』解説3―伝本について― 第5回 『天狗の内裏』解説4―渋江抽斎について― 第6回 くずし字について 第7回 演習1―上巻・冒頭― ・担当者が発表を行う。・受講者の間で質疑、ディスカッションを行う。解説を行う。 第8回 演習2―上巻・義経の発願― 第9回 演習3―上巻・毘沙門天の導き― 第10回 演習4―上巻・天狗の内裏到着― 第11回 演習5―上巻・天狗との確執― 第12回 演習6―上巻・大天狗の歓待― 第13回 演習7―上巻・天狗の神通力― 第14回 演習8―上巻・天狗と兵法― 第15回 『天狗の内裏』まとめ 第16回 試験・レポート					
【教材・テキスト】 ・『増補改訂 仮名変体集』（伊地知鉄男編、新典社） ・『天狗の内裏』については、資料を配布する。					
【参考文献】 授業時に紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 ・発表とレポート、試験を総合的に評価する。 ・発表は担当を決めて発表、試験は変体仮名を読む。					
【授業形式・形態および授業方法】 主に演習形式。分担を決めて準備し、担当者が発表をする。質疑・討論も行う。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。くずし字は、これまで学んだことがなく、全く知らなくても大丈夫です。内容及び開講時間は、受講者の希望等により、変更することもあります。					
【オフィスアワー】 随時。先にメール連絡をもらえると確実です。 連絡先 渡辺麻里子 mwata@hirosaki-u.ac.jp					

授 業 科 目 名	中国言語文化論				
担 当 教 員	植木 久行				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
1, 中国古典語の読解力を高め、訓読方式への理解を深めること。 2, 古い注釈の形態とその問題点を理解し、唐詩の読み方を習得すること。					
【授業の概要】					
江戸前期の熊谷立閑（くまがい りゅうかん）編輯『三体詩備考大成』（寛文12年〔1672〕序、延宝3年〔1675〕刊）を選読します。当該書は、南宋の周弼が編纂した唐詩の選集『三体詩』の増注本（元・天隠〔釈元〕注を主とし、元・季昌〔裴庚〕注の一部を増注として付加したもの）を基礎に据え、その注・増注の難解部分を説明しつつ、注釈の不足（特に詩人の伝記や事跡の不備）や参照すべき日本の旧注を「備考」として随所に補充し、現在もなお見るべきレベルを持つ。久保天髄は、本書を「簡冊浩漣、材料富贍、俗本の嫌あれども、尤も初学に便なり」（大正2年博文館刊・漢文叢書第4巻の解題）と評した。					
【授業内容予定】					
江戸前期の熊谷立閑（?～1695年、京都出身の儒者、号は荔斎・了庵）編輯『三体詩備考大成』20巻（序1巻、増注唐賢絶句三体詩法備考大成7巻、唐賢七言律詩三体家法備考大成6巻、増注唐賢五言律詩三体家法備考大成6巻）は、原文・原詩に返り点や送り仮名等の訓点を付して、かなり読みやすいが、訓読の誤りや誤字は当然ながら存在する。それを正しながら読み解く。 第1回～第4回 オリエンテーション、および「三体詩備考前序」（裴庚）。 第5回～第9回 七言絶句（錢起「帰雁」・李涉「竹枝詞」・趙嘏「靈巖寺」他）。 第10回～第12回 七言律詩（杜牧「九日齊山登高」・王維「輞川積雨」）。 第13回～第15回 五言律詩（李遠「送人入蜀」・孟浩然「晚泊潯陽望廬峰」）。					
【教材・テキスト】					
熊谷立閑編輯『三体詩備考大成』の選読箇所をコピー・配付する。					
【参考文献】					
村上哲見『三体詩』上下（朝日新聞社、1966・1967年、後に文庫版も刊行された）。					
【成績評価の方法および採点基準】					
授業の予習状況、出席状況、および授業終了時に提出してもらう簡単なレポートを、総合的に加味して判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
演習形式。受講生に少しずつ訓読と解釈を行ってもらい、問題点を検討します。					
【留意点・予備知識等】					
特にありません。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	中国社会論				
担 当 教 員	城本 るみ				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 中国社会の特質を客観的に分析することができ、中国社会の特徴を理解できること。 また問題を解決していくための有効な方法論について議論できること。					
【授業の概要】 中国共産党の特質をみていくことによって、中国社会の特徴やさまざまな問題の背景について考察していく。					
【授業内容予定】 第1回：導入 第2回：党と国家（1） 第3回：党と国家（2） 第4回：党とビジネス（1） 第5回：党とビジネス（2） 第6回：党と人事（1） 第7回：党と人事（2） 第8回：党と軍隊 第9回：党と腐敗 第10回：党と地方 第11回：党と資本主義（1） 第12回：党と資本主義（2） 第13回：党と歴史（1） 第14回：党と歴史（2） 第15回：総括					
【教材・テキスト】 リチャード・マクレガー『中国共産党』（草思社、2011）					
【参考文献】 適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点および課題提出状況を加味して総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講読を行いながら討論していく演習形式です。					
【留意点・予備知識等】 中国現代史（学部レベル）の知識があることを望みます。					
【オフィスアワー】 火曜・水曜12:00～12:30（事前に連絡があれば、これ以外の時間も設定可能です。）					

授 業 科 目 名		英文学B			
担 当 教 員		小野寺 進			
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・9-10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
文学作品を原書で読み、深く理解することを目標とします。					
【授業の概要】					
18世紀以降のイギリス文学では散文が急速に表現力を増し、その担い手である中産階級の実力伸張と相まって、新ジャンルとしての「近代小説」を誕生させることになる。この文学現象を「小説」を核に、関連する他のジャンルの文芸や社会現象をも考慮しながら、この時代の文学的特徴を明らかにします。					
【授業内容予定】					
今年度はJoseph Conradの <i>Heart of Darkness</i> を読みます。					
第1回 イントロダクション		第9回 45～50頁			
第2回 3～8頁		第10回 51～56頁			
第3回 9～14頁		第11回 57～62頁			
第4回 15～20頁		第12回 63～67頁			
第5回 21～26頁		第13回 68～73頁			
第6回 27～32頁		第14回 74～78頁			
第7回 33～38頁		第15回 79～96頁			
第8回 39～44頁					
【教材・テキスト】					
Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i> Penguin Classics ISBN 978-0-141-44167-2					
【参考文献】					
適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
毎回の授業での発表で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
演習形式。教材を輪読しながら問題点を確認していきます。					
【留意点・予備知識等】					
十分な予習が必要です。					
【オフィスアワー】					
水曜日5 - 6時限					

授 業 科 目 名	英文学C				
担 当 教 員	澤田 真一				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5・6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
ポストコロニアルの文学理論を学び、植民地主義の負の遺産を、旧植民地が払拭していく過程を、文学を通して理解できるようになることを目指します。					
【授業の概要】					
ニュージーランド文学を中心に、植民地としてのオセアニアの文学（オーストラリア、サモア等）を解説していきます。					
【授業内容予定】					
1840 年のワイタング条約により、英国の植民地として出発したニュージーランドは、1990 年に建国 150 周年を迎えました。先進福祉国家として理想的な二文化共存をうたうニュージーランドの歴史は、同時にマオリ的価値観とヨーロッパ的価値観の相克の歴史をも内包しています。当講義では、マオリ対パケハの対立の構図を中心に据えて、植民地文学としてのニュージーランド文学をポスト・コロニアルな観点から読み解いていきます。					
1.イントロダクション		9.アラン・ダフ(1)			
2.文学作品の映画鑑賞(1)		10.アラン・ダフ(2)			
3.文学作品の映画鑑賞(2)		11.パトリシア・グレイス			
4.作品の解説と批評		12.ウイティ・イヒマエラ(1)			
5.ポストコロニアル理論(1)		13.ウイティ・イヒマエラ(2)			
6.ポストコロニアル理論(2)		14.キャサリン・マンズフィールド(1)			
7.ケリ・ヒューム(1)		15.キャサリン・マンズフィールド(2)			
8.ケリ・ヒューム(2)		16.試験			
【教材・テキスト】 第一回の講義時に、学生と相談のうえ決定します。					
【参考文献】 講義の中で、その都度紹介していきます。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席状況、授業態度、及び期末試験（あるいはレポート）で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 学生側の積極的な参加を期待した、双方向的な授業になります。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。					
【オフィスアワー】 金曜日7・8時限					

授 業 科 目 名	米文学				
担 当 教 員	堀 智弘				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 アメリカ文学の短編小説を読むことを通して、米文学の代表的な作家に親しみつつ作家に関する基本的知識を身につけるとともに、英語で書かれた小説の読解力を向上させることを目標とします。					
【授業の概要】 19世紀から世紀転換期あたりまでの代表的なアメリカの小説家の短編小説を一回につき一人の割合で読み、各作家の作風に親しむとともに、作者を取り巻く歴史的社会的背景を考えます。					
【授業内容予定】 第1回 イン트로ダクション 第2回 Washington Irving, “Rip Van Winkle” 第3回 Nathaniel Hawthorne, “Young Goodman Brown” 第4回 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” 第5回 Herman Melville, “Bartleby” 第6回 Sarah Orne Jewett, “A White Heron” 第7回 Mary E. Wilkins Freeman, “A New England Nun” 第9回 Charlotte Perkins Gilman, “The Yellow Wallpaper” 第10回 Henry James, “The Real Thing” 第11回 Kate Chopin, “The Storm” 第12回 Willa Cather, “Paul’s Case” 第13回 Jack London, “To Build a Fire” 第14回 Edith Wharton, “Roman Fever” 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 第1回目の授業の時に指示します。					
【参考文献】 授業のなかで紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席状況、授業参加、レポートを総合的に判断して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式となります。					
【留意点・予備知識等】 毎回指定された作品を読んで授業に臨むことが求められます。					
【オフィスアワー】 木曜日 12:00 ～ 13:00					

授 業 科 目 名	現代アメリカ論				
担 当 教 員	南 修平				
学 期	前期	曜日・時限	金曜1・2 限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 第2次世界大戦以降のアメリカ合衆国の歩みを理解することで20世紀をグローバルに捉える視点を養います。それとともに、英語の専門書を読むことで読解力を高めます。					
【授業の概要】 20世紀アメリカ合衆国研究に関する最近の代表作を読み進め、戦後アメリカ史を学ぶ同時に、帝国論やグローバル・ヒストリーの影響について議論を行います。					
【授業内容予定】 第1回：Guidance 第2回：Introduction 第3回：Pax Americana (1945-1953): Power and Politics 第4回：Pax Americana (1945-1953): Cold War 第5回：Pax Americana (1945-1953): Stalemate in Washington, National Security State 第6回：The High Tide of Liberal Democracy (1954-1974): Suburban Nation 第7回：The High Tide of Liberal Democracy (1954-1974): The Democratic Revolution 第8回：The High Tide of Liberal Democracy (1954-1974): The End of the American Century 第9回：The Reconstruction of Corporate Capitalism (1975-1989): The Landscape of Decline 第10回：The Reconstruction of Corporate Capitalism (1975-1989): The Corporate Revolution 第11回：The Reconstruction of Corporate Capitalism (1975-1989): The Regan Revolution 第12回：The Reconstruction of Corporate Capitalism (1975-1989): Cold War Redux 第13回：The New World Order (1990-2000): Triangulation 第14回：The New World Order (1990-2000): Living Large 第15回：America After 9/11					
【教材・テキスト】 Joshua B. Freeman, <i>American Empire: The Rise of a Global Power, the Democratic Revolution at Home</i> (New York: Viking, 2012).					
【参考文献】 上記の文献の他、適宜関連するものを紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 予習と講義内でのパフォーマンス、最終レポートによる総合判断。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習（文献講読・発表）形式で進め、受講生が担当箇所の要旨を作成して毎回報告します。					
【留意点・予備知識等】 アメリカ関連の講義を受講済みであることが望ましいと思います。事前にアサイメントを精読し、報告担当者以外の人も議論できるように準備することが常に求められます。					
【オフィスアワー】 火曜日9・10 時限。不在の場合もあるため、事前に確認することをお勧めします。					

授 業 科 目 名	フランス言語語・文化論				
担 当 教 員	熊野 真規子				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ・文化研究の一アプローチをより深く理解すること ・フランス語文献の講読力を向上させること					
【授業の概要】 ソシュールの思想を中心に、現代言語論の原文の抜粋を講読形式で読み進め、翻訳では失われてしまうニュアンスを確認しながら、文化研究の一アプローチをより深く理解します。					
【授業内容予定】 ・ 導入：言語研究史概観 ・ ランゲージュ／ラング／パロール ・ 共時態／通時態 ・ 連辞／範列 ・ シニフィアン／シニフィエ ・ 第一次分節／第二次分節 ・ 恣意性 ・ 形相と実質 ・ 意味と価値					
【教材・テキスト】 プリントを配布します。					
【参考文献】 開講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 講読形式をとるため、出席回数、予習の準備度などを総合的に判断して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 導入＋講読形式14回					
【留意点・予備知識等】 フランス語既習者であること。予習済みであっても、授業には必ず仏和辞典を持参して下さい。					
【オフィスアワー】 火曜 17:30-18:00					

授 業 科 目 名	フランス文学				
担 当 教 員	泉谷 安規				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 授業内容そして作品の深い理解はもちろんですが、正確なフランス語の読解ができることをも目標とします。					
【授業の概要】 20世紀の哲学者・作家サルトルの初期哲学作品『存在と無』を読んで、第2次大戦前後のフランス哲学、あるいはその時代が抱えていた問題を今日、考察しなおしていきます。					
【授業内容予定】 1) イントロダクション 2) 今、サルトルとは？——その存在と遺産—— 3) サルトルをめぐる時代状況 4) 『存在と無』① 5) 『存在と無』② 6) 『存在と無』③ 7) 『存在と無』④ 8) 『存在と無』⑤ 9) 『存在と無』⑥ 10) 『存在と無』⑦ 11) 『存在と無』⑧ 12) 『存在と無』⑨ 13) 『存在と無』⑩ 14) 『存在と無』の暫定的まとめ 15) まとめ：サルトルとは誰だったのか？					
【教材・テキスト】 主にサルトルの哲学作品『存在と無』（1943）をテキストして読んでいきますが、翻訳はもちろん、フランス語の原書 <i>L'Être et le Néant</i> , Tel / Gallimard も使います。					
【参考文献】 開講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業に対する積極的な態度（出席、テキスト講読の準備具合等＝70%）とレポート（30%）で成績を評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 基本的には講義形式で行いますが、テキストを読む場合には講読形式になります。					
【留意点・予備知識等】 フランス語の既習者が望ましいでしょう。ただし、フランス語を学んでいない人、あるいは学んだが、あまり自信がない人はあらかじめ申し出てください。					

授 業 科 目 名	一般言語学				
担 当 教 員	山本 秀樹				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 特定の個別言語ではなく、すべての人類言語に共通する視点から言語を研究する一般言語学的な考え方を身につけることを目標とする。					
【授業の概要】 人類言語一般を研究するための基盤となる考え方や手法について考察する。					
【授業内容予定】 第1回 授業の概要説明および受講生との打ち合わせ 第2回 一般言語学的研究の概要 第3回 通言語的な概念 第4回 通言語的な概念の定義 第5回 人類言語に共通する特性の研究 第6回 人類言語に共通する特性の種類 第7回 人類言語に共通する特性に対する説明原理 第8回 他の視点による研究 第9回 人類言語一般を扱うための階層 第10回 人類言語の様々なタイプ 第11回 人類言語の音韻的タイプ 第12回 人類言語の形態的タイプ（古典的研究） 第13回 人類言語の形態的タイプ（現代の研究） 第14回 人類言語の統語的タイプ 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 プリントを使用する。					
【参考文献】 バーナード・コムリー著（松本克己・山本秀樹訳）『言語普遍性と言語類型論』（ひつじ書房） 山本秀樹著『世界諸言語の地理的・系統的語順分布とその変遷』（溪水社）					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点とレポート					
【授業形式・形態および授業方法】 研究室において、プリントを使いながら言語現象を考察していく。					
【留意点・予備知識等】 種々の言語や言語学の知識を持っていることが望ましいが、実際に受講を希望してきた学生の予備知識を考慮して授業内容等を調整することがある。					
【オフィスアワー】 木曜日：11:30から12:30					

授 業 科 目 名	言語文書処理論				
担 当 教 員	内海 淳				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 文字に関わる幅広い知識を身につけると同時に、IT時代における文字の利用の問題点を理解することを目指します。					
【授業の概要】 言語の重要な表現手段である文字を、音韻面およびコンピュータとの関わりからの二つの観点から考察します。					
【授業内容予定】 1：言語音声のシステムの基礎 2：音韻論の基礎 3：アルファベット(ローマ字・キリール文字など) 4：インド系文字 5：漢字 6：かな 7：ハングル 8：国際音声字母 9：文字集合規格とエンコーディング 10：ASCII 11：ISO8859 12：日本語の文字コード 13：諸外国の文字コード 14～15：UNICODE					
【教材・テキスト】 必要に応じてプリント等を配布します。					
【参考文献】 Florian Coulmas <u>Writing Systems</u> , Cambridge University Press ユニコードの Web Site (http://www.unicode.org/)					
【成績評価の方法および採点基準】 通常の授業での評価と、中間及び期末のレポートによって総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式に、演習形式を取り入れて行います。					
【留意点・予備知識等】 受講生の予備知識等に応じて、相談のうえ、授業内容予定を変更する場合があります。					
【オフィスアワー】 水曜日 12:00から12:40					

授 業 科 目 名	統語論 (Syntax)				
担 当 教 員	木村宣美				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日 5・6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
1. 構造と範疇を意識した精読を通じて、言語研究をする際に必要とされる読解力の向上を図る。 2. 統語論（英語学；生成文法理論；Minimalist Program）の基礎知識を身につける。 3. 英語焦点倒置の諸特性を学ぶ。					
【授業の概要】					
Culicover, Peter W. & Susanne Winkler. 2008. English Focus Inversion. <i>Journal of Linguistics</i> 44, 625-658 を精読する。					
【授業内容予定】					
第1回 Introduction 第2回 Comparative Inversion: CI is not SAI: VP ellipsis 第3回 Comparative Inversion: CI is not SAI: Predicate ellipsis 第4回 Comparative Inversion: The subject is 'low': Parasitic gaps 第5回 Comparative Inversion: The subject is 'low': Multiple <i>wh</i> -questions 第6回 Comparative Inversion: Licensing subject in situ 第7回 Comparative Inversion: British CI 第8回 The Information Structure of English Focus Inversion: The phonology of low subject in CI 第9回 The Information Structure of English Focus Inversion: Semantics of contrastive focus and CI 第10回 The Information Structure of English Focus Inversion: Contrastive focus requirement on subject in CI 第11回 The Information Structure of English Focus Inversion: Ellipsis in CI 第12回 More Focus Inversion Constructions: <i>So-goes</i> 第13回 More Focus Inversion Constructions: Inversion after <i>so</i> and <i>as</i> 第14回 More Focus Inversion Constructions: Locative Inversion and Apparent SAI 第15回 Summary and Conclusions					
【教材・テキスト】					
精読する学術論文は、授業用資料として配布する。					
【参考文献】					
神尾昭雄・高見健一 1998『談話と情報構造』研究社出版 久野 暉 1978『談話の文法』大修館書店 高見健一 1995『機能的構文論による日英語比較-受身文、後置文の分析-』くろしお出版 畠山雄二・本田謙介・田中江扶 2015『日英比較構文研究』開拓社 ※必要に応じて適宜紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】					
英文読解の正確さ・理解度・統語論（英語学；生成文法理論；Minimalist Program）の基礎知識の習熟度の観点から、出席状況・発表・レポートの結果を総合して、評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
演習形式（文献講読及び解説）					
【留意点・予備知識等】					
統語論（英語学；生成文法理論；Minimalist Program）の理解を深める上で、人文学部人間文化課程欧米文化コース開設の専門教育科目『英語学B』『英語学演習B』及び英語学・言語学関連専門教育科目を履修していることが望ましい。					
【オフィスアワー】					
木曜日 5・6 時限 [12:40-14:10]					

授 業 科 目 名	意味論				
担 当 教 員	奥野 浩子				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 動詞の意味構造を理解し、その動詞が使われている文の文法性を「予測」したり、「説明」ができるようになること。					
【授業の概要】 英語の動詞の意味構造の表し方を学び、その意味構造を用いて具体的な文の文法性をどのように説明するかを学びます。					
【授業内容予定】 第1回 導入 最近の意味理論 第2回 動詞の項表現の多様性 第3回 動詞の意味クラス 様態動詞と結果動詞 第4回 動詞の意味構造(1) 述語分解 第5回 動詞の意味構造(2) 定項 事象構造テンプレート 第6回 動詞の意味構造(3) canonical realization rules 第7回 意味の拡大 Template Augmentation 第8回 意味構造と統語構造(1) Well-formedness Conditions, Subevent Identification Condition 第9回 意味と統語構造(2) Argument Realization Condition 第10回 動詞の多義性 第11回 結果構文 第12回 除去動詞 第13回 所格交替 第14回 自他交替 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 プリントを使用します。					
【参考文献】 適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席状況、授業への取り組み姿勢、レポートで総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義と質疑応答で進めます。					
【留意点・予備知識等】 予備知識は求めませんが、英語の読解力と「ことばに対する好奇心」は必要です。					

授 業 科 目 名	日本語史方法論				
担 当 教 員	川瀬 卓				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本語の歴史を捉えるための方法を身に付ける。また、ある論に対して、過不足ない理解をしたうえで、問題点を指摘する思考法を身に付ける。					
【授業の概要】 大木一夫・多門靖容編（2016）『日本語史叙述の方法』（ひつじ書房）を読み進めていく。本書の議論をもとに、日本語の歴史をどのように叙述するのかという点について理解を深める。					
【授業内容予定】 1. 導入 2. 大木一夫「言語史叙述の構造」 3. 福島直恭「行為要求表現「～なさい」の成立に関する一考察—日本語史記述における「視座」の確認—」 4. 小柳智一「文法変化の方向と統語的条件」 5. 肥爪周二「音韻史—拗音をめぐる2つのストーリー—」 6. 高山知明「ハ行子音の脱唇音化—個別言語の特色と音韻史—」 7. 矢田勉「言語史叙述と文字・表記史叙述—その共通点と相違点—」 8. 乾善彦「古代日本語書記史の可能性」 9. 青木博史「日本語文法史の再構をめぐって—「二段活用的一段化」を例に—」 10. 矢島正浩「否定疑問文の検討を通じて考える近世語文法史研究」 11. 小野正弘「日本語史叙述の方法—語彙史—」 12. 鳴海伸一「語史研究の方法」 13. 山本真吾「文体史はいかに可能か」 14. 多門靖容「歌の表現史—萬葉集と古今集—」 15. まとめ					
【教材・テキスト】 大木一夫・多門靖容編（2016）『日本語史叙述の方法』ひつじ書房					
【参考文献】 随時紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 演習発表（50%）、期末レポート（50%）					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式を交えて行う。演習形式では、担当者が内容を簡潔に紹介し、批判的検討を行う。その後、参加者全員で討議を行う。					
【留意点・予備知識等】 日本語学、言語学に関する基本的知識があることが望ましい。 なお、受講者の興味に応じて、読む本を変更する可能性がある。					
【オフィスアワー】 金曜日12:00～13:00					

授 業 科 目 名	社会言語学				
担 当 教 員	佐藤 和之				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 方言と古語の関係を理解する。					
【授業の概要】 人間が集まるところに共通のことばが発生する。一方で、使われることばは集団によって違っている。Aという集団の言語とBという集団の言語は、同一言語内での違いならば、それらは、それぞれA方言、B方言と呼ばれる。それでは、連続する地域ABがあったとき、A方言とB方言の境界はどのようにして認めるのだろうか。また古典で習った「ナヅキ」がA方言で使われている理由や奈良時代の発音がB方言で話される理由をどう説明するのだろうか。方言圏論と方言区画論という術語をもとに、具体的な語例をもとに方言の成立過程と日本語の変化について講義する。					
【授業内容予定】 1. 生活環境と方言 2. 「滑るにいい」という言い方 3. 可能・自発の助動詞 4. 平安末に編まれた漢和辞典とアクセント 5. 術語の歴史の変遷－国語・標準語・共通語・方言 6. 方言と古語－ケカヂ・メンコイ・ショシイなど 7. ことばの伝播と区画 8. 「蝸牛」と方言圏論 9. 柳田国男と方言研究 10. 東西方言の対立 11. 国語調査委員会と標準語の制定 12. 方言区画論 13. 青森方言の区画－津軽方言と南部方言 14. ハンデとスケを考える 15. まとめ					
【教材・テキスト】 使いません。適宜プリントを配布します。					
【参考文献】 講義中に紹介します。					
【成績評価及び採点基準】 15回目の講義日に実施します。方言と古語の関係を正しく理解できたかについて評価します。					
【授業形式・形態及び授業方法】 おもに講義形式ですが、何度か宿題により文献調査や方言調査をしてもらうことがあります。					
【留意点・予備知識】 大学院の授業科目ですので、方言を楽しく知るという内容でなく、日本語の形成過程を言語学的に周知することを講義目的としています。そのためには古典を読んでもらったり、方言辞典を扱ってもらうことがあります。					
【オフィスアワー】 研究室在室時は常時大丈夫です					

授 業 科 目 名	情緒社会学				
担 当 教 員	羽渕 一代				
学 期	後期	曜日・時限	火曜 5・6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
対人関係やその構造に関する専門的知識の習得を目標とします。					
【授業の概要】					
情緒＝感情をてがかりとして、社会集団を理解する方法を修得します。とくに、「恋愛」感情と社会規範との連関を考察します。					
【授業内容予定】					
学生の関心によって、具体的な内容は変わってきますが、基本的には人間関係と、その構造が個人と集団のパフォーマンスにどのような効果を持つのかについて、海外の文献を原著で購読します。教材は、書籍の場合もあれば、単一の論文である場合もあります。 第1回 情緒社会学とは 第2回～第14回 下記の文献の中から選択し、講読。 第15回 考察 以下は講読対象の例ですが、履修学生の興味に応じて何を読むかは変わります。 Scott, J. (1991). Social network analysis: a handbook (2nd ed.). London: Sage Publications. Burt, S. (1992). Structural holes: the social structure of competition. London: Harvard University Press. Putnam, R. (2000). Bowling alone: the collapse and revival of American community. Simon & Schuster, NY.					
【教材・テキスト】					
随時、指定します。					
【参考文献】					
A.ギデنز、(1992=1995、訳書)『親密性の変容—セクシュアリティ、愛情、エロティシズム』而立書房					
【成績評価の方法および採点基準】					
授業中の発表、議論内容で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
学生の発表を主として、教官によるコメントと討議を行います。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】					
水曜日12時～12時50分					

授 業 科 目 名	生態人類学				
担 当 教 員	曾我 亨				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日3-4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 1.生態人類学が霊長類学と共有する独特の調査スタイルを理解すること。 2.現代的なテーマへのアプローチ方法を理解すること。 3.東アフリカの牧畜社会について理解すること。					
【授業の概要】 わが国独自の発展をとげてきた生態人類学を、具体的な研究事例に言及しながら講義します。					
【授業内容予定】 講義はつぎの3部から構成される。 - 生態人類学の成立と初期の成果 ①霊長類学から生態人類学へ、②狩猟採集社会の研究、③農耕社会の研究、④牧畜社会の研究、⑤コミュニケーションの諸相 - 現代的なテーマを生態人類学はどのように解明してきたか ⑥狩猟採集社会と定住化政策、⑦「所有」の諸相、⑧ヤムイモ論争、⑨構造調整とアフリカ農村、⑩社会変容と生業の論理 - 東アフリカ牧畜民の民族誌 ⑪境界の牧畜民、⑫牧畜社会のネットワーク、⑬国家への包摂、⑭牧畜社会と暴力、⑮生業の可能性					
【教材・テキスト】 講義はレジュメを配付しておこなう。					
【参考文献】 講義のなかで随時紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加（コメントや質問など議論への参加）から総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 水曜12時～12時50分					

授 業 科 目 名	社会心理学A				
担 当 教 員	日比野愛子				
学 期	前期	曜日・時限	金曜1-2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】テクノロジーデザインに関わる社会的表象／社会的受容に関する専門的知識の習得、ならびに、英語文献を十分に読解する能力の養成を目標とする。					
【授業の概要】テクノロジーデザインをめぐる社会心理・社会的受容の理解に向けた実証的研究に関わる書籍の輪読を行なう。海外の文献を原著で講読する。使用テキストのみならず、関連書籍・論文（英文）の講読も随時行なう。					
【授業内容予定】 1. Introduction 2. Visual discoveries in imagery (前) 3. Visual discoveries in imagery (後) 4. Creative mental synthesis (前) 5. Creative mental synthesis (後) 6. Creative inventions in imagery 7. Preinventive Object Forms 8. Personal inventions (前) 9. Personal inventions (後) 10. Creative concepts 11. Creative Concepts (前) 12. Creative Concepts (後) 13. Discussion 14. Discussion 15. Summary					
【教材・テキスト】 Finke, R. A. (2014). Creative imagery: Discoveries and inventions in visualization. Psychology press.					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 授業中の発表、議論内容を評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 学生の発表を主として、教員によるコメントと討議を行なう。英語での討議を実施する。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 火曜日 14時20分～15時50分 水曜日 12時～12時30分					

授 業 科 目 名	応用言語学				
担 当 教 員	Alastair Butler				
開 講 時 間	前期	曜日・時限	月曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 This course of applied linguistics will focus on the area of Corpus Linguistics. Corpus Linguistics is the study of linguistic phenomena through collections of machine-readable texts: corpora. These are used to investigate an extremely large number of issues. For example, historical developments of a language, the grammatical structures of a language, to assess second language learners' lexical proficiency, to investigate to what degree frequencies of words reflect differences between cultures, etc. This course aims to provide an introduction to methods for using existing corpora, e.g., search and processing techniques, as well as skills for providing corpus data with additional linguistic information, called 'annotation'.					
【授業の概要】 Since this is an applied linguistics course, lessons will be of a practical nature. This will involve practising the techniques and skills introduced. In the first half of the course, emphasis will be on exploring existing corpora. In the second half of the course, students will be tasked with developing their own (small-scale) corpus resource.					
【授業内容予定】 Week 1: Accessing existing corpora: the Brown Corpus, the BNC, CHILDES, the NPCMJ. Weeks 2-3: Exploring corpora with part-of-speech tagging/morphological analysis. Weeks 4-6: Exploring corpora with syntactic annotation. Weeks 7-8: Approaching corpus building. Weeks 9-16: Time for corpus construction.					
【教材・テキスト】 There is no set textbook. Reading material will be documentation for the corpora explored.					
【参考文献】 References will be provided during the course.					
【成績評価の方法および採点基準】 In course participation 20%, midterm test 30%, and corpus constructed 50%.					
【授業形式・形態および授業方法】 Classes will be given in English.					
【留意点・予備知識等】 毎回の受講前に十分に予習し、何を理解し、理解できなかったかを明確にしておくことが重要で、疑問点等は授業の中で明らかにするように努めましょう。					

授 業 科 目 名	ドイツ論				
担 当 教 員	齋藤 義彦				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・7・8時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 近代ドイツの歴史的展開を検討し、歴史的条件から現代ドイツを理解し、日独比較の視点を獲得すること					
【授業の概要】 近代ドイツの内政と外交					
【授業内容予定】 (1) 近代ドイツ史とドイツ連邦共和国 (2) 30年戦争と連邦制 (3) 英仏戦争とドイツ (4) フランス革命とドイツ (5) 王政復古とドイツ (6) 3月革命とドイツ (7) 普墺戦争とドイツ (8) ドイツ帝国 (9) オーストリア＝ハンガリー帝国 (10) 第1次世界大戦とドイツ (11) 第2次世界大戦とドイツ (12) 二つのドイツ国家とオーストリア (13) アデナウアーとドイツ (14) ブラントとドイツ (15) 現代ドイツ					
【教材・テキスト】 開講時に決定します					
【参考文献】 必要なときに紹介します					
【成績評価の方法および採点基準】 授業での成果とレポートを総合的に評価します					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 金曜5・6時限					

授 業 科 目 名	文化人類学B				
担 当 教 員	諏訪淳一郎				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日 5・6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 院生個人の学術的興味と合わせながら、人々の日常を「生きられた」ものにする文化的諸条件について考えます。					
【授業の概要】 文化人類学の下部領域のうち、祭礼、芸能、音楽に関する最新成果を精読しながら、それらを理解するための理論的可能性を探ります。					
【授業内容予定】 1. 序論（1回） 2. 祭礼（3回） 3. 芸能（4回） 4. 音楽（4回） 5. まとめ（1回）					
【教材・テキスト】 『パフォーマンスの音楽人類学』勁草書房					
【参考文献】 授業中に適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席及びレジュメ作成による発表と討論を評価の基準にします。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 水曜日 5・6 時限または予約					

授 業 科 目 名	平和学				
担 当 教 員	フールト・フォルカー				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・1-2時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 国際関係論の1分野としての平和学の主な理論と方法の科学的理解。					
【授業の概要】 授業内容の予定と形式・方法を参照。					
【授業内容予定】 1) 平和学への入門、テキストの紹介 2) What Is Peace? (平和とは何か) 第3回～第7回 国際紛争の理解と平和への転換 3) Negotiation and international conflict (交渉と国際紛争) 4) Mediation (仲介・居中調停・調停) 5) Conflict mismanagement: Former Yugoslavia and Iraq (紛争解決の失敗：元ユーゴスラビアとイラク) 6) Disarmament (軍縮 – 一般論) 7) Nuclear Disarmament (核兵器の軍縮) 第8回～第10回 平和学への学際的なアプローチ 8) Peace studies as a transdisciplinary project (学際的なプロジェクトとしての平和学) 9) Understanding the role of religion (宗教の役割を理解する) 10) International Law: amid power, order and justice (権力、秩序と正義のなかの国際法) 第10回～第11回 平和の思想家 11) Mahatma Gandhi's concept of peace (マハトマ・ガンディーの平和コンセプト) 12) Johan Galtung's Transcend method (ヨハン・ガルトウングの超越法) 第13回～第15回 平和を支える社会のために 13) Gender and peace (ジェンダーと平和) 14) Peace business (平和ビジネス) 15) Rethinking peace education (平和教育を考え直す)					
【教材・テキスト】 Charles Webel, Johan Galtung (ed.): <i>Handbook of Peace and Conflict Studies</i> (Abingdon et al.: Routledge, 2007) Wolfgang Dietrich et al. (ed.): <i>Peace Studies. A Cultural Perspective</i> (Houndmills et al.: Palgrave Macmillan, 2011)					
【参考文献】 ヨハン・ガルトウング / 藤田明史 (編著) 『ガルトウング平和学入門』 法律文化社 (京都) 2003年 ヨハン・ガルトウング 『ガルトウングの平和理論』 法律文化社 (京都) 2006年 君島東彦 (編) 『平和学を学ぶ人のために』 世界思想社 (京都) 2009年					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への積極的な参加とレポートの提出 (2～3回)					
【授業形式・形態および授業方法】 対話形式 (日本語) で専門的な英語文献分析。第2回から毎回の授業の前に15-20ページ程度の上記のテキストの部分の準備することが必須です。					
【留意点・予備知識等】 専門的な文献に対応できる程度の英語読解力が必須です。					

授 業 科 目 名	北東北歴史論				
担 当 教 員	武井 紀子				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日 3－4 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
史料の輪読を通じて、北東北（津軽地方）の歴史について理解を深めます。					
【授業の概要】					
菅江真澄の随筆を年代順に追いながら、寛政年間の津軽地方の様相について、関連文献も含めながら、読解していきます。					
【授業内容予定】					
(但し、授業の進度と読む具体的な内容については受講者と相談しながら決める)					
津軽地方に逗留した菅江真澄の随筆の記載をてがかりに、津軽地方の歴史文化について考察する。					
1. ガイダンス ― 授業の進め方 ―					
2～8 寛政九年三月（十五日条）～六月（『都介路迺遠地』）					
9～15 寛政九年五月～七月（『邇辞貴栖波末』ほか）					
15. まとめ					
【教材・テキスト】					
菅江真澄全集第二巻。第1回授業の時にまとめて配付する。					
【参考文献】					
授業中に適宜紹介していく。					
【成績評価の方法および採点基準】					
出席と報告、学期末レポートにより評価する。報告は、史料読解や内容、討論への積極的参加を総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
担当者を決めての史料輪読と講義形式、関連論文の講読を組み合わせで行う。					
【留意点・予備知識等】					
特になし。予備知識は特に必要としないが、読解の上で、辞書や地図などで内容を調べていく必要がある。					
【オフィスアワー】					
火曜日の3・4時限。そのほか研究室（人文333）在室時にはいつ来ても構わない。					

授 業 科 目 名	東北民俗学				
担 当 教 員	山田厳子				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・5・6限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
鬼と山人に関わる資料を読み、山人に関わる言説史を理解する。					
【授業の概要】					
鬼と山人に関わる資料を読み、山人はどのように語られてきたのかを理解する。					
【授業内容予告】					
1 ガイダンス 2・3 「山人外伝資料」 4・5 「遠野物語」 6・7 「山人外伝資料」 外伝 8・9 「山の神話」 10・11 「狩猟伝承論」 12・13・14 フィールドワーク 15 討議・まとめ					
【教材・テキスト】話し合って決めます。					
【参考文献】適宜指示します。					
【成績評価の方法および採点基】					
議論への貢献と発表で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義＋演習＋実習					
【留意点・予備知識等】					
簡単なフィールド・ワークを予定しています。 受講生の興味、関心、理解度を考慮し、相談の上、内容の一部変更もあり得ます。					
【オフィスアワー】					
火曜日12:00～13:00					

授 業 科 目 名	東北考古学				
担 当 教 員	上條 信彦				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 東北における考古学の話題を中心に、歴史のどのような課題と関連するのか、どのような解明法があるのか、資料に対する分析能力を養う。					
【授業の概要】 考古資料を通じて、どのように生業や社会の復元を行っていくかといった方法論を実践的に学習します。					
【授業内容予定】 今年のテーマは、現在発掘をおこなっている青森県内の遺跡のデータ化と資料化について実習形式で学びます。その中において東北に関連する考古学研究のなかから、受講者が関心のあるテーマを選択し、論文・報告書などを調査したうえで、報告書に必要な文章を完成させます。					
第1回 ガイダンスとテーマの選定 第11回 レポート発表・1 第13回 レポート発表・3 第15回 モノから社会を読み解く・2 第2～10回 各テーマの発表 第12回 レポート発表・2 第14回 モノから社会を読み解く・1					
【教材・テキスト】 第1回目に研究テーマを選定します。					
【参考文献】 授業での発表内容に関連する文献を指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席（3割）・授業に対する取り組み・態度（7割）で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習・実習形式					
【留意点・予備知識等】 深い討議するためには論文を読むだけでなく、関連分野についての知識が要求されます。					
【オフィスアワー】 上條（215号室） 月9：00～17：00 水15：00～17：00					

授 業 科 目 名	文化財保存・活用論				
担 当 教 員	関根達人				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日 1・2時限目	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 文化財の指定・選定・登録に関する審議から保存管理計画や史跡整備事業計画の策定までの流れを理解することで、文化財の保存と活用に関する考え方や施策を学びます。					
【授業の概要】 青森県内の史跡を中心に、具体的な事例に基づき、文化財の指定・選定・登録に関する審議から保存管理計画や史跡整備事業計画の策定までの流れを講義します。					
【授業内容予定】 1回目 ガイダンス 2・3回目 弘前市における文化財の指定・選定・登録 4・5回目 保存管理計画の策定（史跡上之国館跡の場合） 6・7回目 保存管理計画の策定（史跡亀ヶ岡遺跡の場合） 8・9回目 保存管理計画の策定（史跡大森勝山遺跡の場合） 10・11回目 史跡整備計画の策定（史跡津軽氏城跡堀越城跡の場合） 12・13回目 史跡整備計画の策定（史跡大森勝山遺跡の場合） 14・15回目 史跡津軽氏城跡弘前城跡本丸石垣の改修と整備計画					
【教材・テキスト】 授業の中で指示します。					
【参考文献】 授業の中で指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 意見・質問・感想など授業に対する姿勢（3割）とレポート（7割）で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式の授業です。毎回必ず意見・質問・感想などを求めます。					
【留意点・予備知識等】 レポートを書くためには、授業で取り上げる史跡の現地見学をする必要があります。					
【オフィスアワー】 水曜日 1・2時限目					

授 業 科 目 名	地域文化財保存論				
担 当 教 員	片岡太郎				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日3・4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 考古資料の材質と劣化状態を判断する能力を習得し、これらに応じた保存方針の策定、保存科学的な基礎理論と技術の習得を目指します。					
【授業の概要】 地域文化財の保存方法論に関する講義を行ないます。また、毎回、受講者に文化財の保存実践例を取り上げて、保存の方針と倫理、理論と技術について発表していただきます。授業では、毎回、意見や感想を求めます。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 受講者の専門と関心に応じて、授業で扱う重点的なテーマを決めます。 毎回、受講者の発表と以下の講義を行ないます。 第2回 文化財科学の歴史と文化財保存の倫理 第3～4回 有機材料で構成されている考古資料の劣化診断方法論 第5～7回 有機材料で構成されている考古資料の保存科学的研究 発掘現場における対処と保存処理方法、保管・展示環境について 第8～9回 無機材料で構成されている考古資料の劣化診断方法論 第10～12回 無機材料で構成されている考古資料の保存科学的研究 発掘現場における対処と保存処理方法、保管・展示環境について 第13～14回 遺跡保存の方法論 第15回 地域文化財保存に関する総合討論					
【教材・テキスト】 必要に応じて授業の中で指示します。					
【参考文献】 沢田正昭『文化財保存科学ノート』近未来社1997、沢田正昭『遺物の保存と調査』クバプロ2003					
【成績評価の方法および採点基準】 出席および授業に対する姿勢、発表を総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式で行ないます。毎回の受講者による発表は15分程度を予定しており、発表に基づくレジュメをA4サイズ1枚程度を準備していただきます。					
【留意点・予備知識等】 高校程度の化学と物理学の知識があれば、講義内容がより理解できます。					
【オフィスアワー】 水曜日 7・8時限目（14:30～16:00）					

授 業 科 目 名	北日本環境史				
担 当 教 員	植月 学				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日 9・10時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 ・北日本に人類が定着して以降を対象に、人と自然の相互作用の歴史を学ぶ。 ・自然科学、考古、歴史、民俗など様々な分野の成果を統合していかに古環境を復元するかを学ぶ。 ・北日本固有の環境を人々がどのように利用してきたか、そしてその変動にどのように向かい合ってきたかを理解し、環境との共存を考える。					
【授業の概要】 前半は環境史に関する論文を購読し、方法論について学ぶ。後半は実際に青森県内の遺跡から出土した動物遺体の分析と解釈を経験してもらい、人と環境の関係を議論する方法を実践的に学ぶ。					
【授業内容予定】 第1回 イン트로ダクション 第2～7回 方法論 自然科学 年代学、同位体化学 環境考古学 動物考古学、植物考古学 文献史学 古気候学、災害史 第8～14回 実践 遺跡出土動物遺体の同定、計測など データの入力と整理 データの解釈 関連遺跡、古環境データとの比較 考察 第15回 まとめ 以上のテーマは参考例であり、受講生の関心に応じて変更することもあり得る。					
【教材・テキスト】 授業時に指示する。					
【参考文献】 平川南編 2012 『環境の日本史1 日本史と環境―人と自然』 吉川弘文館（他同シリーズ） 湯本 貴和ほか（編）2011 『環境史とは何か』（シリーズ日本列島の三万五千年―人と自然の環境史） 文一総合出版 （他同シリーズ）					
【成績評価の方法および採点基準】 発表および討論への参加姿勢、レポートにより総合的に評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 主に演習形式。分担を決めて準備し、担当者が発表をする。質疑・討論も行う。					
【留意点・予備知識等】 自分なりの専門、関心を核として持ちつつ、異分野との協業に関心を持つことが求められる。					
【オフィスアワー】 月・水 14:20～15:50					

授 業 科 目 名	芸術文化史論				
担 当 教 員	足達薫				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日7-8	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 弘前近辺で見ることができる芸術作品の研究を通して、大学院修士論文の一部になりうるレポートを作成する。					
【授業の概要】 具体的な研究（来歴の調査・文献資料・美術史的分析・作品観察）を行い、レポートを作成して発表する。					
【授業内容予定】 1 計画の設定 2～4 美術史の基本的方法論の解説 5～11 作品の決定、基本文献調査、報告 12 中間考察 13～15 発表					
【教材・テキスト】 授業で指示する。					
【参考文献】 授業で指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席とレポート。					
【授業形式・形態および授業方法】 課題について自分で資料を集め、検討し、レポートする。					
【留意点・予備知識等】 準備のための調査活動・文献批判に多くの時間をかけようと思います。休日に見学会をすることもあります。					
【オフィスアワー】 水曜日13～14時。					

授 業 科 目 名	日本古典文化論				
担 当 教 員	渡辺麻里子				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・7－8限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ・変体仮名（平仮名のくずし字）を読めるようになる。 ・『善光寺縁起』を通じて、日本の仏教文化の知識を身につける。 ・津軽の善光寺信仰を学ぶ。 ・古典文学世界の人々の生き方を知る。 ・自分なりの問題意識で、課題を掘り下げて調べ、発表出来るようになる。 ・問題を立て、調査し、考察し、まとめるという過程を通じて、古典文学研究の方法を身につける。 ・質疑を通じて、他の受講者とともに、議論を深めていく方法を身につける。					
【授業の概要】 『善光寺縁起』を題材にして、古典文学の世界を考える。『善光寺縁起』は、日本の仏教伝来や仏教史、阿弥陀信仰と霊験譚でつづられている。古典文学及び仏教や寺院社会についての基礎知識を身につけ、人々の信仰を学ぶ。また原文を翻刻し、くずし字解説の手法も学ぶ。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 『善光寺縁起』解説1―善光寺について― 第3回 『善光寺縁起』解説2―内容構成について― 第4回 『善光寺縁起』解説3―善光寺について― 第5回 『善光寺縁起』解説4―阿弥陀信仰について― 第6回 くずし字について 第7回 演習1―上巻・冒頭― ・担当者が発表を行う。受講者の間で質疑、ディスカッションを行う。解説を行う。 第8回 演習2―上巻・龍宮― 第9回 演習3―上巻・仏像のはじめ― 第10回 演習4―上巻・中国への文法伝来― 第11回 演習5―上巻・日本への伝来― 第12回 演習6―上巻・欽明天皇と仏法― 第13回 演習7―日本での仏教排斥― 第14回 演習8―上巻・聖徳太子と仏法― 第15回 『善光寺縁起』まとめ 第16回 試験・レポート					
【教材・テキスト】 ・『増補改訂 仮名変体集』（伊地知鉄男編、新典社） ・『善光寺縁起』については、授業時に説明し、資料プリントを配布する。					
【参考文献】 ・小林計一郎『善光寺史研究』（信濃毎日新聞社、2000年） ・倉田邦雄・倉田治夫『善光寺縁起集成』第一巻（龍鳳書房、2001年） ・倉田邦雄・倉田治夫『善光寺縁起絵巻』（龍鳳書房、2003年）					
【成績評価の方法および採点基準】 ・発表とレポート、試験を総合的に評価する。・発表は担当を決めて発表、試験は変体仮名を読む。					
【授業形式・形態および授業方法】 主に演習形式で行う。分担を決めて準備し、担当者が発表をする。質疑・討論も行う。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。くずし字は、これまで学んだことがなくても大丈夫です。内容及び開講時間は、受講者の希望等により、変更することもあります。					
【オフィスアワー】 随時。メール連絡をもらえると確実です。連絡先 mwata@hirosaki-u.ac.jp					

授 業 科 目 名	地域言語論				
担 当 教 員	佐藤 和之				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 現代日本語を対象として、その運用実態や地域構成員の言語意識、言語行動を通して、地域のことばや日本語が抱える諸問題について考えられるようにする。 非母語話者に用いる日本語話者の日本語について扱う者は、教育の基礎的な知識を踏まえた議論が行えるようになること。					
【授業の概要】 現代日本語の表現、語彙、文法に関する言語事象を対象としてその実態を記述し、話し手と聞き手の年代差・性差・地域差等の位相の相違に応じて、どのように交替・変化するか、その際両者の言語意識と行動の相違によって言語運用がどのようになされるかを究明する。また、非母語話者に対する日本語教育の見地から、非母語話者の言語運用を踏まえ、日本語の表現、語彙、文法をどのように記述すればよいか検討する。					
【授業内容予定】 1. はじめに 2. 言語における記述とはなにか。 3. 言語教育学からみた言語の記述とは何か。 4. 位相について 5. 6. 世代差・性差・地域差等について 7. 学習者と学習目的の異なりについて 8. 9. 言語意識と言語行動について 10. 資料の収集、データ処理について 11. 具体的なテーマの選定 12. 調査と分析について 13. 学習者の言語場面の分析について 14. 今後の課題 15. まとめ					
【教材・テキスト】 教科書は用いません。教材・資料は随時コピーして配布します。					
【参考文献】 授業時に随時紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 通常の授業における事前調査報告（50%）、期末のレポート（50%）の合計によります。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式のなかに講読形式を取り入れて進めます。					
【留意点・予備知識等】 日本語学全般にわたっての基礎知識を持っていることが望ましい。					
【オフィスアワー】 研究室に在室時は常時大丈夫です					

授 業 科 目 名	文化社会学				
担 当 教 員	羽渕 一代				
学 期	前期	曜日・時限	火曜 5・6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 ジェンダーに関する社会学的思考を深化させ、現代社会におけるジェンダー・セクシュアリティ論の理解を目標とする。					
【授業の概要】 メディア論の文献をもとに、コミュニケーション論、文化比較論、政治力学、理論などを体系的に学びます。					
【授業内容予定】 主に、シェリー・タークルの研究を中心に扱います。 第1回 メディア論の概要 第2回～7回 シェリー・タークル『一緒にいてもスマホ』購読 第8回～15回 羽渕他編『メディアのフィールドワーク』購読 第16回 メディア文化の実証的研究について					
【教材・テキスト】 シェリー・タークル著／日暮雅通（訳）『一緒にいてもスマホ SNSとFTF』（青土社） 羽渕一代ほか編『メディアのフィールドワーク』（北樹出版）					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 授業中の発表、議論内容で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 学生の発表を主として、教官によるコメントと討議を行います。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 水曜日12時～12時50分					

授 業 科 目 名	ネットワーク社会心理学				
担 当 教 員	日比野愛子				
学 期	前期	曜日・時限	水曜1－2時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 対人関係やその構造に関する専門的知識の習得、ならびに、英語文献を十分に読解する能力の養成を目標とする。					
【授業の概要】 対人関係やその構造の理解に向けた実証的研究の方法論に関わる書籍の輪読を行なう。海外の文献を原著で講読する。使用テキストのみならず、関連書籍・論文（英文）の講読も随時行なう。					
【授業内容予定】 1. The Developmental Impact of Communicative Interaction 2. Dialogue, Critical Consciousness, and Praxis 3. Nonverbal Communication in Everyday Multicultural Life 4. Social Influence: Modes and Modalities 5. Pragmatic Theory and Social Relations 6. Communicative Action and the Dialogical Imagination 7. Representations, Identity, and Resistance in Communication 8. Rumours and Gossip as Genres of Communication 9. Empty and Full Speech 10. Communication as Rhetoric and Argumentation 11. Evolution and Communication 12. Religion as Communication 13. Mediated Health Campaigns: From Information to Social Change 14. The Social Psychology of Political Communication 15. Science Communication					
【教材・テキスト】 Hook, D., Franks, B., & Bauer, M. (Eds.). (2016). The social psychology of communication. Springer.					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 授業中の発表、議論内容を評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 学生の発表を主として、教官によるコメントと討議を行なう。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 火曜日 14時20分～15時50分 水曜日 12時～12時30分					

授 業 科 目 名	フィールドワーク社会心理学				
担 当 教 員	古村健太郎				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日 3・4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 質問紙法や行動観察法によって得られたデータを分析するための手法に関する基礎知識を身に付け、それらの手法を用いた実証的論文を理解できるようになることを目的とする。また、それらの分析を実際に行えるようになる。					
【授業の概要】 心理学や社会学などの社会科学では、変数と変数の関連を検討するための分析手法が用いられる。本授業では、それらの手法に関する専門書や論文を講読し、理解を深める。					
【授業内容予定】 第1回：オリエンテーション 第2回：MplusとRによる構造方程式モデリング入門：探索的因子分析，確証的因子分析 第3回：論文講読（1）：探索的因子分析，確証的因子分析 第4回：データ解析の練習（1）：探索的因子分析，確証的因子分析 第5回：MplusとRによる構造方程式モデリング入門：回帰分析，パス解析，媒介分析 第6回：論文講読（2）：回帰分析，パス解析，媒介分析 第7回：データ解析の練習（2）：回帰分析，パス解析，媒介分析 第8回：MplusとRによる構造方程式モデリング入門：多母集団同時分析 第9回：論文講読（3）：多母集団同時分析 第10回：データ解析の練習（3）：多母集団同時分析 第11回：Dyadic Data Analysis : Analyzing Mixed Independent Variables. The Actor-Partner Interdependence Model 第12回：論文講読（4）：Actor-Partner Interdependence Model 第13回：データ解析の練習（4）：Actor-Partner Interdependence Model 第14回：MplusとRによる構造方程式モデリング入門：階層線形モデル，マルチレベル構造方程式モデル 第15回：論文講読（5）：階層線形モデル，マルチレベル構造方程式モデル					
【教材・テキスト】 小杉 考司・清水 裕士 (2014). MplusとRによる構造方程式モデリング入門 北大路書房 Kenny, D. A., Kashy, D. A., Cook, W. L. (2006). <i>Dyadic data analysis</i> . New York: Guilford.					
【参考文献】 適宜紹介していく。					
【成績評価の方法および採点基準】 発表と議論の内容に基づいて評価を行う。					
【授業形式・形態および授業方法】 各自ノートパソコンを準備し、講義に持参してください。 また、学部卒業レベルの統計学の知識があるという前提で授業を行います。そのため、統計学の知識に不安のある受講生は、その部分を自習する必要があります。					
【留意点・予備知識等】 特になし。					
【オフィスアワー】 火曜日5・6時限とする。他の時間帯も問い合わせがあれば、可能な限り対応する。					

授 業 科 目 名	民族誌論				
担 当 教 員	諏訪淳一郎				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日 9・10時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 民族誌的手法への理解を深めることによって、質的調査を志向する院生個人の研究に役立てることを目指します。					
【授業の概要】 文化人類学、民俗学、社会学等の領域で書かれたモノグラフを選び、記述の形式、構成、表現法などの角度から毎回分析していきます。モノグラフの分析の一部は、青森県内地域を対象とします。					
【授業内容予定】 1. 序論（1回） 2. 構造機能主義的な民族誌の分析（4回） 3. 解釈学、現象論、ポスト構造主義などを反映した民族誌の分析（4回） 4. オートエスノグラフィー分析（3回） 5. まとめ（1回）					
【教材・テキスト】 授業で紹介します。また履修生自身で選定することも状況によっては可能です。					
【参考文献】 授業で適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席及びレジュメ作成による発表と討論を評価の基準にします。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習					
【留意点・予備知識等】 履修生のニーズによって一部内容が変わることがあります。					
【オフィスアワー】 水曜日 3・4 時限または予約					

授 業 科 目 名	中国近世史論				
担 当 教 員	荷見 守義				
学 期	後期	曜日・時限	月曜・7－8時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 中国明代史に関わる日本の研究史について把握することを到達目標とする。					
【授業の概要】 中国明代史に関わる論点について、日本の研究を主に取り上げて論ずる。					
【授業内容予定】 第1回～第16回 中国明代の諸問題					
【教材・テキスト】 授業時に指示する。					
【参考文献】 授業時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回の担当について評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 院生による輪読とする。					
【留意点・予備知識等】 中国明代史に関する基礎研究について訓練を受けた者を対象とする。					
【オフィスアワー】 月曜・昼休み（12:00～12:40）					

授 業 科 目 名	東アジア思想文化論				
担 当 教 員	李 良				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 朱子学を基軸に、近世東アジア三国（日中朝）の伝統「知」（伝統教養）における同一性と差異性を多角的に理解し、その今日的意義を明らかにすることを到達目標とする。					
【授業の概要】 日中における本草学の伝統と近代科学との関係を受講者とともに、考えていく内容です。					
【授業内容予定】 第一回 授業全体的説明 第二回 李 時珍『本草綱目』成立まで 第三回～五六回 吉益東洞の『薬徴』と『医事或問』 第七回～第十回 後藤良山『師説筆記』 第十一回～第十四回 引き続き上述したテキストの本草伝統との関連部分を精読し、討論します。 第十五回 東アジアの本草学伝統と近代科学(イエズス会による宣教との関連において) 第十六回 試験					
【教材・テキスト】 特定の教材を使用しません。プリントを頒布します。					
【参考文献】 開講時、その都度、紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席、授業準備状況および試験（レポート）					
【授業形式・形態および授業方法】 講義、輪読および討論など多様な形式で展開します。					
【留意点・予備知識等】 欠席しないことです。予備知識が望ましいですが、必須ではありません。					

授 業 科 目 名	イスラーム地域研究				
担 当 教 員	亀谷学				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日 5・6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 近世・近代のイスラーム地域におけるイスラーム以前の古代史への視角や、西欧諸国がどのように中東地域の古代的事物を扱ったかについて、具体的な知識を身につけるとともに、その地域を分析するための方法について考察する。					
【授業の概要】 エリオット・コッラ『相反する複数の古代：エジプト学、エジプトマニア、エジプトの近代』（Elliott Colla, <i>Conflicted Antiquities: Egyptology, Egyptmania, Egyptian Modernity</i> , Duke University Press, 2007.）の講読を中心としつつ、あわせてイスラーム社会に関連する文献を読み、議論を行う。					
【授業内容予定】 上記の文献の講読を中心に、中世イスラーム時代から現代に至るまでの中東におけるイスラーム以前の古代的事物の扱いについての展開を追いつつ、近代西洋の「考古学」や「オリエンタリズム」がどのような影響を与えてきたか、またその中でイスラーム地域の人々がどのようにそれに巻き込まれ、あるいはそれを利用してきたかについて考察する。 第1回 イントロダクション 第2回 クルアーンと古代 第3回 中世イスラーム世界における古代学 第4回 大英博物館のエジプト彫像室 第5回 「メムノンの頭の装飾」 第6回 「オジマンディアス」 第7回 相反する複数の古代 第8回 イスラーム的ファラオとエジプト学の出現 第9回 アンティカハーネ 第10回 ファラオとしての自分たち 第11回 二人のファラオ 第12回 ツタンカーメン墓の発見：考古学、政治、文学 第13回 「アラブの目覚め」 第14回 ファラオ主義の後のファラオ主義：クトゥブとマフフーズ 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 Elliott Colla, <i>Conflicted Antiquities: Egyptology, Egyptmania, Egyptian Modernity</i> , Duke University Press, 2007.					
【参考文献】 山中由里子編『<驚異>の文化史』（名古屋大学出版会、2015年）					
【成績評価の方法および採点基準】 授業における報告・参加度・理解度による平常点と期末課題により評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 文献の講読とそれについての解説を織り交ぜる形で行う。					
【留意点・予備知識等】 中東・イスラーム地域に関する基礎的な知識があることが望ましい。					
【オフィスアワー】 水曜日12:40-14:10					

授 業 科 目 名	グローバルヒストリー論				
担 当 教 員	中村 武司				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 グローバルヒストリーや世界史研究に関する主要な概念や論点、考え方を理解すること。					
【授業の概要】 近年の世界システム論もしくはグローバルヒストリー研究において、近世以降（15世紀～18世紀）の歴史像の見直しと再構築が急速に進展しつつある。とりわけ、(1)世界規模の商業ネットワークの形成、(2)移民や奴隷などの大規模な労働力移動、(3)それらにともなう生態系・環境の劇的な変化、(4)知識や技術の普及と受容という4点にかんして、いわゆる「大航海時代」以降のヒト・モノ・カネ・情報などのグローバルな規模での移動・交流の実態とそれらにともなう世界の各地域の変化をめぐって研究や議論が活発に展開している。本授業は、こうした近年の世界システム論やグローバルヒストリーの研究動向や学説を紹介すると同時に、環境や疫病、交易などのトピックからグローバルヒストリーの実践について検討するものである。					
【授業内容予定】 第1回：ガイダンス 第2回：ウォーラーステインの世界システム論とその問題点 第3回：近代世界システムとヘゲモニー国家(1)：17世紀のオランダ 第4回：近代世界システムとヘゲモニー国家(2)：19世紀のイギリス 第5回：近代世界システムとヘゲモニー国家(3)：20世紀のアメリカ 第6回：近代世界システムとアジア交易圏 第7回：ユーラシア世界システムの構想(1) 第8回：ユーラシア世界システムの構想(2) 第9回：グローバル化の歴史的類型論について 第10回：「大いなる分岐」論争 第11回：産業革命論の再検討 第11回：交易の世界史／グローバルヒストリー 第12回：疫病の世界史／グローバルヒストリー 第13回：環境の世界史／グローバルヒストリー 第14回：世界史の世界史 第15回：総合討論					
【教材・テキスト】 教科書は指定しない。授業中、適宜資料を配付する。					
【参考文献】 川北稔編『知の教科書 ウォーラーステイン』（講談社選書メチエ、2001年） 水島司『グローバル・ヒストリー入門』（山川出版社、2010年）					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への出席やレスポンス・ペーパーの提出、課題レポートの内容から総合的に評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式					
【留意点・予備知識等】 履修にあたり、高校世界史教科書を熟読しておくこと。					
【オフィスアワー】 毎週水曜日、13:00-13:45（人文学部校舎407号室：ヨーロッパ史研究室） 研究室を不在にしていることも多いので、面談を希望する場合は、事前にメールにて予約することを勧める。					

授 業 科 目 名	古代地中海文化論				
担 当 教 員	宮坂 朋				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・3/4限目	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 古代地中海世界における宗教や魔術の道具としての鏡について考える。					
【授業の概要】 前半は関係する図書を読み、後半は画像を分析する。					
【授業内容予定】 導入 第2～6回目 テキスト解釈 第7～15回目 画像分析 第16回目 まとめ					
【教材・テキスト】 Taylor, Rabun. The Moral Mirror of Roman Art, Cambridge Univ. Press, 2008. 他					
【参考文献】 開講時に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 発表と期末レポートによる。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式を織り交ぜる。発表の回では、予め指示したテキストを熟読の上、レジюмеを用意し、要領良く発表すること。					
【留意点・予備知識等】 積極的な参加が期待される。					
【オフィスアワー】 木曜日3.4限目					

授 業 科 目 名	ヨーロッパ古典文化論				
担 当 教 員	今井 正浩				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 文学・哲学・歴史学・自然科学などのさまざまな観点から、ヨーロッパ文化の源流としての西洋古典古代についての理解を深めることが、この授業の主眼です。					
【授業の概要】 ホメロス (c. 750 BC) の時代からヘレニズム期 (323~51 BC) にいたる古代ギリシア文化の展開を、文学・哲学・歴史学・自然科学などの観点に立って、多面的に解説します。					
【授業内容予定】 1) 導入ーヨーロッパ文化の源流としての西洋古典古代 2) ホメロスとギリシア人の伝統的人間観 (1) 3) ホメロスとギリシア人の伝統的人間観 (2) 4) 哲学の誕生ー最初の哲学者タレスとミレトス学派 5) 初期ギリシア哲学の展開ー一元論から多元論へ 6) ギリシア悲劇の人間観 (1)ーアイスキュロス「オ레스ティア三部作」 7) ギリシア悲劇の人間観 (2)ーソポクレス『オイディプス王』 8) ギリシア悲劇の人間観 (3)ーエウリピデス『ヒッポリュトス』 9) 歴史記述と人間 (1)ー「西洋歴史学の父」ヘロドトス 10) 歴史記述と人間 (2)ートゥキディデス『戦史』にみる人間の本性 11) ギリシアの政治哲学 (1)ープラトン『国家』篇 12) ギリシアの政治哲学 (2)ーアリストテレス『政治学』 13) ギリシアの医学思想 (1)ー「医学の父」ヒッポクラテスの登場 14) ギリシアの医学思想 (2)ー初期アレクサンドリア医学の展開 15) ギリシアの医学思想 (3)ー人体の中樞器官をめぐる論争史					
【教材・テキスト】 教科書は指定しませんが、適宜、関係資料等を配布します。					
【参考文献】 『哲学の歴史』第1巻・第2巻 (2007/2008, 中央公論新社刊)					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点に加えて、学期末に提出されるレポートに重点をおいて、総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 少人数の学生諸君を対象とする演習形式の授業となりますので、関係資料の精読など、事前の準備がかならず必要となります。					
【留意点・予備知識等】 古典ギリシア語・ラテン語の知識は問いませんが、ぜひ挑戦してみてください。					

授 業 科 目 名	現代倫理学				
担 当 教 員	横地 徳広				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 受講生のみなさんは「現代倫理学」に関連するテキストを読み解き、この読解を通じて、生命、医療、環境にかんする〈倫理学的思考〉を学びます。					
【授業の概要】 今年度の授業では、生命倫理学の英語テキストを訳読し、 「ヒトゲノムは『生命の聖書』ではない」という観点から、 生命と医療をめぐる哲学的思考とその社会的基盤を考察します。					
【授業内容予定】 毎回、レジュメ担当者を中心に、受講者のみなさんがその内容を検討していく。 授業予定は、以下のとおり。変更の場合は授業で事前に知らせます。 1 ガイダンス（読解箇所と担当の決定） 2 テキスト読解と解説 （1） 3 テキスト読解と解説 （2） 4 テキスト読解と解説 （3） 5 映像資料をもちいた社会状況の説明（生命倫理学）その1 6 映像資料をもちいた社会状況の説明（生命倫理学）その2 7 テキスト読解と解説 （4） 8 テキスト読解と解説 （5） 9 テキスト読解と解説 （6） 10 映像資料をもちいた社会状況の説明（医療倫理学）その1 11 映像資料をもちいた社会状況の説明（医療倫理学）その2 12 テキスト読解と解説 （7） 13 テキスト読解と解説 （8） 14 映像資料をもちいた社会状況の説明（生命環境倫理学） 15 まとめ					
【教材・テキスト】 Lily E. Kay, <i>Who Wrote the Book of Life?: A History of the Genetic Code</i> , Stanford Univ. Press, 2000 ※コピーを配布します。					
【参考文献】 適宜、紹介される。					
【成績評価の方法および採点基準】 ゼミでのレジュメ担当評価と平常評価。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習と講義の混交形式。毎回、担当者がレジュメを作成し、受講生がその検討を行ないます。					
【留意点・予備知識等】 授業への参加希望者は、横地まで 必ずメール すること。 アドレスは西洋倫理思想研究室（人文414）に掲示してあります。					

授 業 科 目 名	日本近現代文学				
担 当 教 員	尾崎 名津子				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日 5・6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 日本近現代文学研究に関わる問題設定の方法を学ぶ。また、その解決のために必要な手続き（調査方法、読解方法）を習得する。					
【授業の概要】 太宰治の作品を読解する作業を通して内容の理解を深めると同時に、昭和期以降の文学・文化状況、社会状況を学ぶ。					
【授業内容予定】 第1回 太宰治作品の読まれ方（1）―伝記的事実と作品の評価 第2回 太宰治作品の読まれ方（2）―テキスト分析導入後の評価 第3回 問題設定の方法（1）―先行研究の踏まえ方 第4回 問題設定の方法（2）―オリジナリティとは何か 第5回 旧制弘前高校在学中の作品 第6回 「前期・中期・後期」という枠組み 第7回 1930年代後半の作品 第8回 1940年代前半の作品 第9回 敗戦後から1948年までの作品 第10回 女性独白体小説 第11回 〈文壇〉との関係 第12回 津軽との関係（1）―葛西善蔵 第13回 津軽との関係（2）―『津軽』を読む 第14回 検閲による処分 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 『太宰治全集』（筑摩書房、1998年）など。より具体的には授業で紹介する。					
【参考文献】 木村小夜『太宰治の虚構』（和泉書院、2015年）など。その他の必要な文献については授業で紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席を含む平常点、授業への取り組み、発表内容などを総合的に判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミナール形式					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 水曜日 10：00～13：00 金曜日 13：00～16：00 その他応相談。					

授 業 科 目 名	中国文化論				
担 当 教 員	植木 久行				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 1. 中国古典詩文の読解力を高め、訓読の方式を習得すること。 2. 著名な詩跡（詩人たちに詠みつながれて著名になり、詩情に点火して作品へと結晶させる力をたたえた地名）・廬山（現・江西省九江市の南）に対する理解を深めること。					
【授業の概要】 北宋の陳舜俞（字令舉、1026～1076）は熙寧5年（1072）の後半期に、廬山とその周辺に関する地理と文化の案内書（山岳地志）『廬山記』5巻8篇本を編纂した。当該書は、美しい詩で彩られた詩跡・廬山を具体的に例証した、現存最初の著作であり、わが国立公文書館（旧・内閣文庫）は12世紀後半、南宋の初期に刊行された貴重な完本（重要文化財）を所蔵する（1957年、影印本の刊行）。 『廬山記』5巻8篇本は、わが江戸時代の元禄10年（1697）、訓点を付して刊行された。ただし、この和刻本は所収の図（「俯視之図」一葉を欠き、代わりに「廬山十八賢図」八葉を収める）を異にするほか、譌脱も多いが、付された訓点は読解の参考になる。授業では、和刻本を選読しつつ、絶えず宋版と校勘して読み解きます。					
【授業内容予定】 第1回～第2回 オリエンテーション、および李常・劉渙の「廬山記序」。 第3回～第4回 総叙山篇第一。 第5回～第7回 叙山北篇第二。 第8回～第9回 叙山南篇第三。 第10回～第15回 古人留題篇第六、古人題名篇第八。 いずれの篇も、篇中の一部のみを選読します。					
【教材・テキスト】 教材の『廬山記』（和刻本・宋版）に関しては、選読箇所をコピー・配付する。					
【参考文献】 岩間湛良による、脚注を付した訓読本『廬山記』（国訳一切経和漢撰述部、史伝部十七所収、平成2年〔1990〕改訂二刷、大東出版社発行、弘前大学付属図書館所蔵〔開架図書〕）。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業の予習状況、出席状況、および授業終了時に提出してもらう簡単なレポートを、総合的に加味して判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式。受講生に少しずつ訓読と解釈を行ってもらい、問題点を検討します。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	現代中国論				
担 当 教 員	城本 るみ				
学 期	前期	曜日・時限	水曜 5－6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
中国現代史におけるアメリカ、ソ連、中国の三国関係を理解し、現代中国の政治や外交の背景を理解できるようになること。					
【授業の概要】					
テキストにそって中華人民共和国建国前後からのアメリカやソ連との協調や対決の軌跡をたどり、中国現代史を米・中・ソ三国の動向から読み解いていく。					
【授業内容予定】					
第1回：導入					
第2回：建国までの背景（1）					
第3回：建国までの背景（2）					
第4回：大戦後の米ソ関係（1）					
第5回：大戦後の米ソ関係（2）					
第6回：共産党政権の誕生と中ソ関係（1）					
第7回：共産党政権の誕生と中ソ関係（2）					
第8回：中ソ関係の決裂（1）					
第9回：中ソ関係の決裂（2）					
第10回：1960年代の中ソ・中米関係（1）					
第11回：1960年代の中ソ・中米関係（2）					
第12回：米中関係の新たな展開（1）					
第13回：米中関係の新たな展開（2）					
第14回：改革開放時代（1）					
第15回：改革開放時代（2）					
【教材・テキスト】					
小林弘二『グローバル化時代の中国現代史（1917-2005）』（筑摩書房，2013）					
【参考文献】					
必要に応じて適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
平常点および課題提出状況を加味して総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
文献講読を行いながら討論していく演習形式です。					
【留意点・予備知識等】					
中国現代史（学部レベル）の知識があることを望みます。					
【オフィスアワー】					
火曜・水曜12:00～12:30（事前に連絡があれば、これ以外の時間も設定可能です。）					

授 業 科 目 名	イギリス近代文化論A				
担 当 教 員	小野寺 進				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・9-10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 近代イギリスの文学や文化を理解し、造詣を深めることを目標とします。					
【授業の概要】 19世紀のイギリス文学や文化を通して、イギリス国民と時代の特徴を明らかにしていきます。 文献を丹念に読み、理解・分析し、幅広い知識を習得します。					
【授業内容予定】 今回は19世紀のイギリスを代表する小説家チャールズ・ディケンズの <i>Hard Times</i> を読みます。 1回 Book the First Chapter 1 - 3 2回 Book the First Chapter 4 - 6 3回 Book the First Chapter 7 - 9 4回 Book the First Chapter 10 - 12 5回 Book the First Chapter 13 - 14 6回 Book the First Chapter 15 - 16 7回 Book the Second Chapter 1 8回 Book the Second Chapter 2 - 3 9回 Book the Second Chapter 4 - 6 10回 Book the Second Chapter 7 - 8 11回 Book the Second Chapter 9 - 10 12回 Book the Second Chapter 11 - 12 13回 Book the Third Chapter 1 - 3 14回 Book the Third Chapter 4 - 6 15回 Book the Third Chapter 7 - 9					
【教材・テキスト】 Charles Dickens, <i>Hard Times</i> (Norton Critical Edition)					
【参考文献】 適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回の授業とレポートで評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式になります。					
【留意点・予備知識等】 十分な予習が要求されます。					
【オフィスアワー】 水曜日5 - 6時限					

授 業 科 目 名	イギリス近代文化論B				
担 当 教 員	澤田 真一				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5・6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 イギリスやその植民地であったニュージーランドの文学作品を丹念に読み、その内容を深く理解するとともに、新しい視点からの解釈を試みることを目標とします。					
【授業の概要】 19世紀にイギリスの植民地として出発したニュージーランドの、主に先住民族マオリの文学を扱います。四大作家ウイティ・イヒマエラ、ケリ・ヒューム、パトリシア・グレイス、アラン・ダフらの作品に触れながら、独自の文化の継承、また、白人文化との共存の問題について考えていきます。彼らの視点からイギリスをとらえ返します。					
【授業内容予定】 1.イントロダクション 2.文学作品の映画鑑賞(1) 3.文学作品の映画鑑賞(2) 4.作品の解説と批評 5-7.読解:ウイティ・イヒマエラ 8-10.読解:ケリ・ヒューム 11-13.読解:パトリシア・グレイス 14-15.読解:アラン・ダフ 16.試験					
【教材・テキスト】 1 回目の講義時に、学生と相談の上で決定します。					
【参考文献】 講義時にその都度紹介していきます。					
【成績評価の方法および採点基準】 期末試験(あるいはレポート)及び出席状況を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 双方向的な講義形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。					
【オフィスアワー】 金曜日7・8時限					

授 業 科 目 名	アメリカ近代文化論				
担 当 教 員	堀 智弘				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 逃亡奴隷が書いた代表的なslave narrativeを読むことを通して、アメリカの奴隷制文化とそれがアメリカ文化全体へ与えた影響について学ぶことを目標とします。					
【授業の概要】 代表的なslave narrativeであるFrederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> (1855年)を読解していきます。					
【授業内容予定】 第1回 イン트로ダクション 第2回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 1 第3回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 2 第4回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 3 第5回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 4 第6回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 5 第7回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 6 第8回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 7 第9回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 8 第10回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 9 第11回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 10 第12回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 11 第13回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 12 第14回 Frederick Douglassの <i>My Bondage and My Freedom</i> , Chapter 13 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 第1回目の授業の時に指示します。					
【参考文献】 授業のなかで紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 学生担当の発表、授業参加、期末レポートを総合的に判断して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式となります。					
【留意点・予備知識等】 毎回指定された部分を読んで授業に臨むことが求められます。					
【オフィスアワー】 木曜日 12:00 ～ 13:00					

授 業 科 目 名	アメリカ社会研究				
担 当 教 員	南 修平				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日1・2 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 工場の出現とその拡大の世界史的意義についてアメリカを中心に様々な角度から検証し、グローバルかつローカルな視点で世界史を捉える視点を身につけます。修士論文作成に必要な英語文献の読解力や文献資料の調査・批判スキルの獲得を目指します。					
【授業の概要】 19世紀後半のイギリスに産業革命をもたらした工場群は20世紀から現在までその規模と影響力を様々な拡大し続けています。本講義では歴史における工場の役割やその多方面にわたる影響について、古典的作品から最新の研究成果に至るまで多くの文献を読み、検証していきます。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 古典的文献から読み解く工場の世界史 第3回 イギリス労働者階級の状態—19世紀のロンドン、マンチェスター 第4回 『資本論』と工場 第5回 近代日本と工場 第6回 ノンフィクションから読みとく工場—近代から第2次世界大戦後の工場 第7回 ノンフィクションから読み解く工場—現代 第8回 工場のある風景—映像の中の工場、視覚の中の工場 第9回 ジョシュア・B・フリーマン Behemoth を読む① 第10回 ジョシュア・B・フリーマン Behemoth を読む② 第11回 ジョシュア・B・フリーマン Behemoth を読む③ 第12回 ジョシュア・B・フリーマン Behemoth を読む④ 第13回 ジョシュア・B・フリーマン Behemoth を読む⑤ 第14回 ジョシュア・B・フリーマン Behemoth を読む⑥ 第15回 総括—工場で働くということ					
【教材・テキスト】 Joshua B Freeman, <i>Behemoth: A History of the Factory and the Making of the Modern World</i> (New York: W. W. Norton & Company, 2018).					
【参考文献】 エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』（岩波書店、1990年）など、適宜講義中に紹介します。これらも講義内で扱うことになります。					
【成績評価の方法および採点基準】 事前の準備、課題への取り組み、講義中での議論、期末レポートによる総合評価となります。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式で進め、文献購読や作品鑑賞をしながら議論を行います。後半は英語の文献購読を行い、毎回担当者が与えられた範囲の要旨を報告し、それをもとに議論を深めます。					
【留意点・予備知識等】 講義前にアサメントを精読し、事前課題に取り組むことは必須です。後半は大部の英語文献を購読するため、毎週指定された範囲を精読することが求められます。					
【オフィスアワー】 火曜日9・10 時限。不在の場合もあるため、事前に確認することをお勧めします。					

授 業 科 目 名	ヨーロッパ現代文化論				
担 当 教 員	熊野 真規子				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ・ヨーロッパ現代映画を分析的に見ること ・フランス語文献の講読力を向上させること					
【授業の概要】 ヨーロッパ現代映画に分析的にアプローチするため、現代映画論（フランス語）の抜粋を講読形式で読みます。分析・討論を行って、ヨーロッパ現代文化についての理解も深めます。					
【授業内容予定】 ・ 導入（受講生に応じて分析作品・文献を決定します） ・ 文献講読① 3回 ・ 分析・討論① 2回 ・ 文献講読② 3回 ・ 分析・討論② 2回 ・ 文献講読③ 3回 ・ 分析・討論③ 2回					
【教材・テキスト】 プリントを配布します。					
【参考文献】 開講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 講読・討論形式をとるため、出席回数、予習の準備度などを総合的に判断して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 導入＋講読形式 9回＋分析・討論 6回					
【留意点・予備知識等】 フランス語既習者であること。予習済みであっても、授業には必ず仏和辞典を持参して下さい。					
【オフィスアワー】 火曜日 17:30-18:00					

授 業 科 目 名	フランス文芸論				
担 当 教 員	泉谷 安規				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 授業内容そして作品の深い理解はもちろんですが、正確なフランス語の読解ができることをも目標とします。					
【授業の概要】 前期の「フランス文学」に引き続き、サルトルの『存在と無』を読みながら、サルトル哲学、そして第2次世界大戦前後のフランスの社会や思想について、考察を加えていき来たいと思います。					
【授業内容予定】 1) イントロダクション 2) サルトル『存在と無』復習 3) サルトルをめぐる哲学的問題を時代 4) 『存在と無』① 5) 『存在と無』② 6) 『存在と無』③ 7) 『存在と無』④ 8) 『存在と無』⑤ 9) 『存在と無』⑥ 10) 『存在と無』⑦ 11) 『存在と無』⑧ 12) 『存在と無』⑨ 13) 『存在と無』⑩ 14) 『存在と無』から読み取れるとりあえずの結論 15) まとめ：『存在と無』が残したものとは？					
【教材・テキスト】 サルトルの『存在と無』を読んでいきますが、ただ作品だけを読み進めるのではなく、この作品を生む契機となった諸問題、哲学的影響関係、そしてこの作品が残した意味を探っていきます。					
【参考文献】 開講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業に対する積極的な態度（出席、テキスト講読の準備具合等＝70%）とレポート（30%）で成績を評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 基本的には講義形式で行いますが、テキストを読む場合には講読形式になります。					
【留意点・予備知識等】 フランス語の既習者が望ましいでしょう。ただし、フランス語を学んでいない人、あるいは学んだが、あまり自信がない人はあらかじめ申し出てください。					

授 業 科 目 名	言語類型論				
担 当 教 員	山本 秀樹				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 言語類型論（世界諸言語の資料を基に、言語の普遍性と変異のあり方を探求する分野）による具体的な研究に触れ、一言語内部の研究では明らかにならないような、種々の普遍特性、変異のあり方を探究する手法を身につけることを目標にする。					
【授業の概要】 種々の言語特性に関して、ある特定の個別言語よりもむしろ世界諸言語全般に見られる普遍特性及び多様性のあり方を探求し、さらに、それらに対す説明原理を追求していく。それによって、世界の言語には、種々の普遍性が存在し、多様性が見られる場合にも、恣意的に異なっているわけではなく、ある一定の普遍的な法則に従って変異していることを論じる。					
【授業内容予定】 第1回 授業の概要説明および受講生との打ち合わせ 第2回 言語普遍性について 第3回 言語類型論について 第4回 基本的概念 第5回 語順類型論 第6回 語順の地理的・系統的分布 第7回 語順の再建と変遷 第8回 主語 第9回 格標示 第10回 関係節 第11回 使役構文 第12回 有生性 第13回 言語類型論と歴史言語学との関連 第14回 類型論的に見た言語の遠い類縁関係 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 プリントを使用する。					
【参考文献】 バーナード・コムリー著（松本克己・山本秀樹訳）『言語普遍性と言語類型論』（ひつじ書房） 山本秀樹著『世界諸言語の地理的・系統的語順分布とその変遷』（溪水社）					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点とレポート					
【授業形式・形態および授業方法】 研究室において、プリントを使いながら言語現象を考察していく。					
【留意点・予備知識等】 種々の言語や言語学の知識を持っていることが望ましいが、実際に受講を希望してきた学生の予備知識を考慮して授業内容等を調整することがある。					
【オフィスアワー】 金曜日：12時から13時					

授 業 科 目 名	国際文書規格論				
担 当 教 員	内海 淳				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 様々な文書規格における多言語処理の基本的な仕組みを概観し、その規格に基づく多言語の文書を実際に処理・作成することを通じてその規格への理解を深めます。					
【授業の概要】 XMLを中心とした多言語での文書作成を可能にする文書規格を考察し、その処理技術を、実践を通して、理解します。					
【授業内容予定】 1：多言語処理とは何か 2～3：ワープロ文書における多言語処理の基本と実践 4～5：TeX文書における多言語処理の基本と実践 6～7：PDF文書における多言語処理の基本と実践 8～9：XML文書における多言語処理の基本と実践 10～11：DITA文書における多言語処理の基本と実践 12～13：DocBook文書における多言語処理の基本と実践 14～15：TEI文書における多言語処理の基本と実践					
【教材・テキスト】 必要に応じてプリント等を配布します。					
【参考文献】 授業時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 通常の授業での評価と、中間及び期末のレポートによって総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式に、演習形式を取り入れて行います。					
【留意点・予備知識等】 受講生の予備知識等に応じて、相談のうえ、授業内容予定を変更する場合があります。					
【オフィスアワー】 水曜日 12:00から12:40					

授 業 科 目 名	言語文化論 (Language and its Structure)				
担 当 教 員	木村宣美				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日 9・10 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
1. 構造と範疇を意識した精読を通じて、言語研究をする際に必要とされる読解力の向上を図る。 2. 言語文化論（英語学；統語論；言語構造論）の基礎知識を身につける。 3. 英語の information-packaging constructions の諸特性を学ぶ。					
【授業の概要】					
Huddleston, Rodney & Geoffrey K. Pullum (2002) <i>The Cambridge Grammar of the English Language</i> . (Cambridge University Press) の第16章 Information packaging [pp. 1363-1447] を精読する。					
【授業内容予定】					
第1回 Syntactic overview 第2回 Information packaging: concepts and general principles 第3回 Complement preposing (1) 第4回 Complement preposing (2) 第5回 Postposing 第6回 Subject-dependent inversion 第7回 Existential and presentational clauses (1) 第8回 Existential and presentational clauses (2) 第9回 Extraposition 第10回 Dislocation (1) 第11回 Dislocation (2) 第12回 Clefts (1) 第13回 Clefts (2) 第14回 Passive voice (1) 第15回 Passive voice (2)					
【教材・テキスト】					
講読する学術論文は、授業用資料として配布する。					
【参考文献】					
神尾昭雄・高見健一 1998『談話と情報構造』研究社出版 久野 暉 1978『談話の文法』大修館書店 高見健一 1995『機能的構文論による日英語比較-受身文、後置文の分析-』くろしお出版 畠山雄二・本田謙介・田中江扶 2015『日英比較構文研究』開拓社 福地 肇 1985『談話の構造』大修館書店 ※ 必要に応じて適宜紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】					
英文読解の正確さ・文献の内容の理解度・言語文化論（英語学；統語論；言語構造論）の基礎知識の習熟度の観点から、出席状況・発表・レポートの結果を総合して、評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
演習形式（文献講読及び解説）					
【留意点・予備知識等】					
言語文化論（英語学；統語論；言語構造論）の理解を深める上で、人文学部人間文化課程欧米文化コース開設の専門教育科目『英語学B』『英語学演習B』及び英語学・言語学関連専門教育科目を履修していることが望ましい。					
【オフィスアワー】					
木曜日 5・6 時限 [12:40-14:10]					

授 業 科 目 名	語彙意味論				
担 当 教 員	奥野 浩子				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 動詞の意味分類を理解し、意味構造の表示の仕方を学び、動詞の意味に基づいて文の文法性を「予測」したり「説明」ができるようになること。					
【授業の概要】 英語の5文型の問題点を考え、意味に基づいて文を分析する方法を、具体例を用いて学びます。					
【授業内容予定】 第1回 導入 ことばの規則性 第2回 英語5文型 第3回 英語5文型と補文 第4回 英語5文型と副詞要素 第5回 動詞の意味（1） 述語分解 第6回 動詞の意味（2） 継続と完了 第7回 語彙概念構造（1） 述語と項 第8回 語彙意味構造（2） 定項と変項 第9回 位置変化と状態変化 第10回 位置変化と移動 第11回 行為連鎖と動詞の意味分類 第12回 英語の結果構文（1） 結果構文とは？ 第13回 英語の結果構文（2） 結果構文に対する制限 第14回 英語の結果構文（3） 自動詞と結果構文 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 プリントを配布します。					
【参考文献】 適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 出席状況、授業への取り組み姿勢、レポートで総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義と質疑応答で進めます。					
【留意点・予備知識等】 予備知識は求めませんが、「ことばに対する好奇心」を求めます。					

授 業 科 目 名	日本語史論				
担 当 教 員	川瀬 卓				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3—4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本語の歴史を捉えるための方法を身に付ける。また、ある論に対して、過不足ない理解をしたうえで、問題点を指摘する思考法を身に付ける。					
【授業の概要】 ことばの歴史を明らかにする方法について、多面的、総合的に概説した大木一夫（2013）『ガイドブック日本語史』ひつじ書房を読み進めていく。また、言語変化や文献の扱いに関わるその他の論文も数本読む。					
【授業内容予定】 1. 第1章 ことばは変化する——歴史言語学序説 2. 第2章 ことばはなぜ変化するのか 3. 小柳智一（2013）「言語変化の段階と要因」『学芸国語国文学』45 4. 第3章 信頼できるテキストを求めて 5. 第4章 文献にあらわれた言語の性格（1）——作品成立時の言語の姿にせまる 6. 第5章 文献にあらわれた言語の性格（2）——言語の位相差と地域差 7. 第6章 文献による言語の歴史 8. 吉田永弘（2012）「平家物語と日本語史」『愛知県立大学説林』60 9. 第7章 文献以前の言語の姿をさぐる 10. 第8章 言語の地域差と言語の歴史（1）——比較方言学とその方法 11. 第9章 言語の地域差と言語の歴史（2）——言語地理学とその方法 12. 第10章 方言による言語史と文献による言語史 13. 第11章 言語の体系性と言語の歴史——内的再建 14. 第12章 社会のなかの言語と言語変化 15. 日高水穂（2006）「第5章 文法化」『シリーズ方言学2 方言の文法』岩波書店					
【教材・テキスト】 大木一夫（2013）『ガイドブック日本語史』ひつじ書房					
【参考文献】 随時紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 演習発表（50%）、期末レポート（50%）					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式を交えて行う。演習形式では、担当者が内容を簡潔に紹介し、批判的検討を行う。その後、参加者全員で討議を行う。					
【留意点・予備知識等】 日本語学、言語学に関する基本的知識があることが望ましい。					
【オフィスアワー】 金曜日12:00～13:00					

授 業 科 目 名	国際協力人類学				
担 当 教 員	曾我 亨				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・3-4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 開発プロジェクトを進める際に、人類学がどのような局面において必要となるのかを理解する。					
【授業の概要】 この授業では、開発をめぐる人類学の論文や著作の講読を通して、人類学が開発プロジェクトに対して果たす役割を検討します。					
【授業内容予定】 人類学は、これまで地域社会に固有の文化や考え方について明らかにしてきました。その蓄積が、今、開発援助のプランニングや現場において必要とされてきています。この授業では、開発をめぐる人類学的な眼差しについて解説します。扱う内容は以下の通りです。前半は理論中心、後半は事例研究が中心ですが、前半については、各テーマについて2回の授業時間を用い、関連する文献についても渉猟しながら、議論を深めていきます。					
1. 人類学と開発問題 ① 開発援助と人類学の関係、②論文探求、③開発人類学の展開、④論文探求、⑤開発人類学の認識論、⑥論文探求、⑦文化人類学と国際医療協力のつながりとへだたり、⑧論文探求					
2. 実践の現場から ⑨エミクな視点から見えるトイレの問題、⑩開発援助実践のフィールドワーク、⑪「人々のことば」と「開発のことば」をつなぐ試み、⑫ローカルな文脈とジェンダーの接点を求めて、⑬開発実践における「プロセスの記述」、⑭開発の「正義」と見えない代価のはざま、⑮健康と病をどう捉えるか。					
【教材・テキスト】 授業のなかで指定します。					
【参考文献】 プロジェクトPLA編『続 入門社会開発』国際開発ジャーナル社 佐藤寛・藤掛洋子共編 2011『開発援助と人類学—冷戦・蜜月・パートナーシップ—』明石書店 マイケル・チェルエア編『開発は誰のために：援助の社会学・人類学』日本林業技術協会					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加（レジュメの完成度、コメントや質問など議論への参加）から総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式。受講者は予習し、レジュメを用意して参加する。授業では内容を確認した後、その内容を議論する。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 水曜12時～12時50分					

科 目 名	国際言語研究				
担 当 教 員	Alastair Butler				
開 講 時 間	後期	曜日・時限	月曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 Undertaking research work into international language studies can involve spending a lot of time doing simple, mechanical data manipulation – collecting data, checking its validity, finding items with some property, viewing words in context, and the like. This course will show you how to mechanise such tasks. This will save you hours of time and empower you to take your research work into language further than is otherwise possible.					
【授業の概要】 Computers have become ever more essential for all aspects of life and have transformed what is now possible in all areas, including language studies. The power computers bring stems from their ability to process data with scale and consistency. This course aims to provide students with core skills in data processing. In particular the course will focus on what is possible from the UNIX command line and with the AWK programming language. You will be studying example programs and writing programs of your own.					
【授業内容予定】 Weeks 1-3: Basic UNIX programming. Learning to use the command line. Weeks 4-5: The AWK programming language. Weeks 6-7: Data Processing Weeks 8-9: Reports and Databases Weeks 10-11: Processing Words Weeks 12-13: Little Languages Weeks 14-15: XML Week 16: Conclusion					
【教材・テキスト】 A・エイホ、B・カーニハン・P・ワインバーガー 『プログラミング言語AWK』 足立高德訳、ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所、2010年1月。ISBN 978-4-904807-00-2。 - ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所から3度目の復刊がなされた。					
【参考文献】 References will be provided during the course.					
【成績評価の方法および採点基準】 授業準備状況、議論への貢献度、理解の深さ、レポート、試験等の結果等を総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 上記テキストを読み、その内容の理解を深めるために、質疑応答も含め議論します。授業は英語で行います。履修生も積極的に英語での意思疎通に努めるようにしてください。					
【留意点・予備知識等】 毎回の受講前に十分に予習し、何を理解し、理解できなかったかを明確にしておくことが重要で、疑問点等は授業の中で明らかにするように努めましょう。					

授 業 科 目 名	現代フランス研究				
担 当 教 員	奈蔵正之				
学 期	後期	曜日・時限	水曜 3・4 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 20世紀～21世紀におけるフランスの現代史・外交史・政治史について確実な理解を得るとともに、各時代における世界情勢やEUの状況などについても考察を行うこと。					
【授業の概要】 第二次世界大戦から2018年までに至る、フランスの現代史・外交史・政治史を多角的に学びます。同時に、各時代における世界情勢やヨーロッパ諸国の状況にも注意を払い、EUの成立・発展・抱え込んだ問題点などについても学びます					
【授業内容予定】 1) 受講生の持つ予備知識や、関心の所在などによって授業の組み立てや方向性を変化させますので、現時点で確定した予定はありません。 2) フランスを中心とした通時的な流れでは、概ね次のようになります。そしてそれぞれの時代ごとに、あわせて世界情勢とフランスの外交を考察します。 1. 第二次世界大戦とフランス 2. 戦後のフランスと第四共和政 3. アルジェリア危機とフランス第五共和制の誕生 4. ド・ゴール時代のフランス 5. ポンピドゥー、ジスカール・デスタン時代のフランス 6. ミッテラン時代のフランス 7. シラク時代のフランス 8.サルコジ、オランド時代のフランス 9. マクロン政権の誕生と、フランスおよびEUの現在					
【教材・テキスト】 現時点では特に決まっていません。受講生と相談して適宜テキストを選ぶこともあります。その場合も、日本語の文献になります。					
【参考文献】 授業中に適宜支持されます					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回の授業における発表，および中間レポート，最終レポートによる総合的評価となります。					
【授業形式・形態および授業方法】 受講生が多くないので、ゼミ形式に近くなります。毎回簡単な課題を提示し、それについて調べてきたことを次の授業で受講生が発表し、それを足がかりにディスカッションを行い、必要となる知識や情報を教員が補います。					
【留意点・予備知識等】 1) 受講生の持つ予備知識に応じて、授業内容の難易度，専門性を変化させます。かなり専門性の高い事柄について研究するような授業になることもあれば，基礎的な知識の習得をめざす平易な授業になるかもしれません。 2) 受講生全員がフランス語既修者の場合，フランス語の文献や新聞記事の抜粋が使用されることがあります。					
【オフィスアワー】 火曜 7・8 時限 それ以外の時間でも随時受け付けますので，まずメールによってアポイントメントを取って下さい。 nagura@hirosaki-u.ac.jp					

授 業 科 目 名	ヨーロッパ文明論				
担 当 教 員	齋藤 義彦				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・9・10時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 近代文明をもたらしたヨーロッパ文明の普遍性をその歴史的特殊性から理解する					
【授業の概要】 アルファベット、欧州諸語、活版印刷術、新聞、ラジオ、テレビ、デジタル機器などのメディア史に留意して近代の普遍文明としてヨーロッパが自己主張するに至ったプロセスを検証する。					
【授業内容予定】 (1) ヨーロッパ文明とは何か (2) アルファベットとヨーロッパ (3) 古代ギリシャ文明とヨーロッパ (4) 古代ローマ文明とヨーロッパ (5) フランク帝国とヨーロッパ (6) 欧州諸語とヨーロッパ (7) 活版印刷術とヨーロッパ (8) 新聞とヨーロッパ (9) ラジオとヨーロッパ (10) テレビとヨーロッパ (11) デジタル時代のヨーロッパ (12) ヨーロッパとアメリカ (13) ヨーロッパと日本 (14) ヨーロッパと世界 (15) 総括					
【教材・テキスト】 開講時に決定します。					
【参考文献】 マクルーハン『メディア論』					
【成績評価の方法および採点基準】 授業での成果とレポートを総合的に評価します					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 金曜日5・6時限					

授 業 科 目 名	ジェンダー人類学				
担 当 教 員	杉山 祐子				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 1) ジェンダーの視点を組み込んだ諸研究の流れを理解する 2) 人類学研究におけるジェンダー視点の可能性と課題を知る 3) 自身の研究を展開する上での手がかりを得る					
【授業の概要】 この授業ではさまざまな「差異」の文化性・社会性を考える手がかりとして、ジェンダーを取り上げます。ジェンダーの視点を組み込んだ諸研究を概観することによって、人間の社会や文化の多様性を知るとともに、ジェンダー視点による研究の可能性と課題について考えます。今年度はとくに、開発の日常化した現代 ジェンダーとその他の差異について検討します。					
【授業内容予定】 (1) 概論 1回 イントロダクション 2回 ジェンダーをめぐる議論の展開 (1): 前史 3回 ジェンダーをめぐる議論の展開 (2): 生成 4回 ジェンダーをめぐる議論の展開 (3): 展開 (2) 社会とジェンダー、セクシュアリティ 5回 組織化と帰属 6回 権利と継承、地位をめぐる議論 7回 生産と再生産？ 8回 中間まとめ (3) 文化を語ることとジェンダー、セクシュアリティ 9回～10回 事例紹介1と検討 11回～12回 事例紹介2と検討 13回～14回 事例紹介3と検討 15回 まとめと総合討論 ＊受講者の基礎知識や関心等によって、順序や内容を大きく変更することもあります。					
【教材・テキスト】 授業時に関連文献を紹介します。文献リストは授業進行に伴い、適宜配布します。英語文献を使用することもあります。					
【参考文献】 宇田川妙子・中谷文美編『ジェンダー人類学を読む』世界思想社、田中雅一・中谷文美編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』（世界思想社）『性の文脈』その他、授業進行に伴い、適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加と発表、ディスカッションの内容等を総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式で行います。映像資料を用いることもあります。					
【留意点・予備知識等】					

授 業 科 目 名	平和構築論				
担 当 教 員	フールト・フォルカー				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 紛争の解決手段としての平和構築の科学的なアプローチ、実績と問題点を理解すること。					
【授業の概要】 授業内容の予定と形式・方法を参照。					
【授業内容予定】 1) 平和構築への入門、テキストの紹介 第2回～第6回 平和構築の概要と理論的なアプローチ 2) The evolution of peacebuilding (平和構築の発展) 3) International relations theory and peacebuilding (国際関係理論と平和構築) 4) Social psychology and peacebuilding (社会心理学と平和構築) 5) Sociology and peacebuilding (社会学と平和構築) 6) History and peacebuilding (歴史学と平和構築) 第7回～第11回 平和構築のコンセプトと方法 7) Securitization and peacebuilding (安全保障化と平和構築) 8) Peacekeeping and humanitarian intervention (平和構築と人道的介入) 9) Security sector reform (治安部門改革) 10) DDR (disarmament, demobilization and reintegration) (武装解除・動員解除・社会復帰) 11) Peacebuilding, law and human rights (平和構築・法・人権) 第12回～第15回 平和構築のインフラストラクチャー 12) The international architecture of peacebuilding (平和構築の国際構造) 13) The political economy of peacebuilding (平和構築の政治経済学) 14) Statebuilding (国家建設) 15) Civil society (市民社会)					
【教材・テキスト】 Roger Mac Ginty (ed.): <i>Routledge Handbook of Peacebuilding</i> (Abingdon et al.: Routledge, 2013) Jeffrey Haynes et al.: <i>World Politics, International Relations and Globalization in the 21st Century</i> (2 nd Edition, London et al.: Sage, 2017)					
【参考文献】 篠田英朗『平和構築入門 その思想と方法を問い直す』筑摩書房2013年 藤原帰一他（編）『平和構築・入門』有斐閣2011年					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への積極的な参加とレポートの提出（2～3回）					
【授業形式・形態および授業方法】 対話形式（日本語）で専門的な英語文献分析。第2回から毎回の授業の前に15-20ページ程度の上記のテキストの部分を準備することが必須です。					
【留意点・予備知識等】 専門的な文献に対応できる程度の英語読解力が必須です。					

2. 3. 応用社会科学専攻 専門科目

※ 講義曜日・時間等変更になる可能性があるので、事前に担当教員に確認すること。

2. 3. 1 総合文化社会研究コース	2. 3. 2 地域人材育成コース	2. 3. 3 国際人材育成コース
地域社会学 環境社会学 応用社会学 地域経済論 財政学 日本経済論 国際経済学 労働法 憲法 行政学 工業経済学 労働経済学 刑法 マクロ経済学 ミクロ経済学 経済学史論 日本経済史論 経営統計学 金融論 地域科学 地理情報科学 マーケティング論 イノベーション論 経営管理論 商法 民法 グローバル経営論 経営組織論 実証会計学 財務報告論 原価計算論	農村社会史 地域活動論 合意形成論 開発政策論 地方財政論 社会保障法 人権論 地方自治論 北東北雇用政策論 刑事司法論 マクロ経済分析論 産業組織論 経済思想論 応用経営統計論 地域金融論 地域政策評価論 都市・地域情報分析論 北東北商業政策論 起業論 地域イノベーション論 経済法制論 民事司法論 会計システム論	アジア経済論 産業立地論 産業発展論 比較経済論 国際ビジネス論 企業社会論 国際管理会計論 国際会計論

授 業 科 目 名	地域社会学				
担 当 教 員	白石 壮一郎				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・3-4 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 論文6-7本分ほどの内容を基礎知識とともに平易に噛み砕きながら学び、そこから議論する力、まとめて書く力をつけていく。					
【授業の概要】 後期近代以降に顕著となったUターン・Jターンなどの人口還流。現在に至るまでのその質的転換と、近年言われる若年層の地元志向について学ぶ。					
【授業内容予定】 01. 導入：近代性と移動 02. 人口の変動と都市化 03. Uターンはどう定義されてきたか 04. 高度成長後の産業構造の変化 05. 戦後Uターン傾向の推移 06. 高卒者の移動 07. 大卒者の移動 08. 女性の移動（1） 09. 女性の移動（2） 10. 事例：下北半島調査（1） 11. 事例：下北半島調査（2） 12. 地方農村部の郊外化 13. 若年層の地方滞留傾向 14. 半ヨソ者としてのUターン者 15. まとめ					
【教材・テキスト】 テキストはとくになし。資料・文献は講義時に適宜配布・紹介する。					
【参考文献】 適宜紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 講義への参加、議論、短いレポート					
【授業形式・形態および授業方法】 文献内容をもとにした講義が6割、それをふまえた議論が4割					
【留意点・予備知識等】 参考文献を各自が予習し（レジュメ担当での講読はなし）、講義と議論をする。					
【オフィスアワー】 水曜日昼休み～14:00。なお、履修希望者は事前に白石研究室（人文331）まで。					

授 業 科 目 名	環境社会学				
担 当 教 員	近藤 史				
学 期	後期	曜日・時限	火曜1・2限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 環境という視点から現代の地域社会をとらえた諸研究について学び、それを自らの研究に生かす。					
【授業の概要】 環境社会学とは、環境問題を社会問題ととらえて、人間の活動と環境との関係性を社会的な側面から問う学問です。具体的な事例研究に基づいて、環境問題へのアプローチの方法を学び、問題解決にむけた取り組みについて考えます。					
【授業内容予定】 【授業内容予定】 （１）概論 第1回 インTRODクシヨン （２）環境問題と私たちの生活 第2回 事例紹介1 公害問題 第3回 事例1をふまえた検討 第4回 事例紹介2 有機農業運動 第5回 事例2をふまえた検討 第6回 事例紹介3 エネルギー問題 第7回 事例3をふまえた検討 第8回 事例紹介4 獣害と野生動物保護 第9回 事例4をふまえた検討 （３）課題研究 第10回～第12回 青森県の環境と社会 第13回～第15回 大学生の生活と環境					
【教材・テキスト】 授業時に適宜、資料や文献を配布・紹介します。					
【参考文献】 飯島伸子・鳥越皓之他編『講座 環境社会学 1～5』（有斐閣、2001年）					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加と発表、ディスカッションの内容などを総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式でおこないます。					
【留意点・予備知識等】 受講者の基礎知識や関心等に応じて、相談のうえ授業内容予定を変更する場合があります。					
【オフィスアワー】 火曜日2・3時限、人文234号室（その他の時間帯も事前にアポイントメントをとれば対応可能）					

授 業 科 目 名	応用社会学				
担 当 教 員	平井太郎				
学 期	前	曜日・時限	火 5	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 現実社会の改善に不可欠な社会学理論・方法論を獲得し研究成果の自己検証の視点を習得する。					
【授業の概要】 社会学の理論・方法論・知見に対する貢献と現実社会の改善に対する寄与を同時に目指す視点から、自らを含む研究成果を評価・討議する。					
【授業内容予定】 第1回 研究内容の相互紹介 第2回 教員の研究成果の検証(1) 青森県での実践 第3回 『社会学の方法』(1) デュルケム 第4回 『社会学の方法』(2) ウェーバー 第5回 『社会学の方法』(3) ジンメル 第6回 『社会学の方法』(4) マートン 第7回 『社会学の方法』(5) ルーマン 第8回 『社会学の方法』(6) オートポイエーシス 第9回 『社会学の方法』(7) オートロジー 第10回 受講生の研究成果の検証(1) 第11回 受講生の研究成果の検証(2) 第12回 教員の研究成果の検証(2) 青森県での実践 第13回 受講生の研究成果の検証(3) 第14回 総括					
【教材・テキスト】 佐藤俊樹『社会学の方法』					
【参考文献】 R・K・マートン『社会理論と社会構造』、N・ルーマン『道德の社会学』					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加					
【授業形式・形態および授業方法】 討議形式					
【留意点・予備知識等】 特になし					
【オフィスアワー】 of-hirai@nifty.comに随時確認すること。					

授 業 科 目 名	地域経済論				
担 当 教 員	北島 誓子				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・9-10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
知識資源の地域的展開に関する理論的課題と現状を理解すること。					
【授業の概要】					
知識・情報、技術力、開発力などの知識資源は、地方経済においても重要な役割を担っています。当授業は、昨今関心がもたれている知識資源の地域的展開に関する問題を、理論的側面と政策的観点から検証していきます。					
【授業内容予定】					
はじめに					
産業のサービス化と知識経済					
知識の地域的枠組み					
3. 形式知と暗黙知					
4. 技術移転					
5. 熟練技術の蓄積と衰退					
6. 産業集積と知識資源					
技術革新／イノベーション					
7. イノベーションとは何か					
8. イノベーションネットワーク					
9. RIS：イノベーションと地域					
10. RISとイノベーションネットワークの批判的検証					
科学技術政策と産業・地域振興					
11. 科学技術政策と産業政策					
12. 産学連携のしくみ					
13. 産学連携の地域的展開					
14. 産学連携の諸問題					
まとめとディスカッション					
【教材・テキスト】					
Jennifer Clark. <i>Working Regions: Reconnecting Innovation and Production in the Knowledge Economy</i> , 2014.					
Cooke, Philip et al. <i>Regional Knowledge Economies: Markets, Clusters and Innovation</i> . Edward Elgar Pub. 2009.					
Westland, Hans. <i>Social Capital in the Knowledge Economy: Theory and Empirics</i> . Springer, 2006.					
その他、著書、論文					
【参考文献】					
適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】					
レジュメ、プレゼンテーション、討論参加により総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】					
演習方式で行います。学生が1論文または著書1章分のレジュメを作成し、それにもとづく発表と討論ですすめていきます。授業のペースは毎回、論文1-2論文、あるいは著書1-2章となります。					
【留意点・予備知識等】					
テキストは原則英文となります。					
受講希望者は、初回講義の前日までに担当教員とコンタクトを取って下さい（資料準備のため）。					
【オフィスアワー】					
火曜日：17:40～18:30p.m.					

授 業 科 目 名	財政学				
担 当 教 員	金目 哲郎				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 財政システムにおける研究課題の所在を受講生が独力で発見し、課題を解決するための資料やデータに基づく検証を自ら行うことができます。これにより、各人が設定する研究課題を論文として再構築する素地が身に付けられます。					
【授業の概要】 現代財政をめぐる諸論点について、理論・制度・実証の視角から検討します。財政学に関連するテキストを手がかりに、現代社会が直面する諸問題の現状分析と将来展望をしていきます。下記の授業内容は、現代財政につき総論的・包括的に検討するテキストを選定したときの予定です。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンスおよび講義、現代財政を学ぶ視点 第2回 受講生による報告と討論、現代財政の課題と特徴 第3回 受講生による報告と討論、財政思想と財政社会学 第4回 受講生による報告と討論、近現代財政の展開 第5回 受講生による報告と討論、財政の政策決定過程—予算と税制改革 第6回 受講生による報告と討論、経費 第7回 受講生による報告と討論、租税の理論 第8回 受講生による報告と討論、税制の国際比較と日本税制 第9回 受講生による報告と討論、公債 第10回 受講生による報告と討論、政府間財政関係 第11回 受講生による報告と討論、日本の地方財政 第12回 受講生による報告と討論、公企業と財政投融资 第13回 受講生による報告と討論、社会保障と教育の財政制度 第14回 受講生による報告と討論、経済政策と財政金融 第15回 受講生による報告と討論、グローバル化と財政					
【教材・テキスト】 池上岳彦編（2015）『現代財政を学ぶ』有斐閣ブックス					
【参考文献】 井手英策(2015)『経済の時代の終焉』岩波書店					
【成績評価の方法および採点基準】 レジュメの報告、討論の内容、受講状況を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読方式。受講者によるレジュメ報告に基づき、討論します。					
【留意点・予備知識等】 財政学の基礎的知識があることが望ましいです。受講生の関心に基づいて、上記の参考文献や他のテキストを購読することも可能です。初回ガイダンス時に相談のうえテキストを選定します。					
【オフィスアワー】 水曜日の9:30-10:30					

授 業 科 目 名	日本経済論				
担 当 教 員	黄 孝春				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日 7・8	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 農業は産出高、就業者数などの面において日本経済に占める比重が小さいです。しかし、農業は食の安全、環境保全、地域の活性化と深く関わり、政治的にも経済的にも重要な意味を持っています。この授業は青森産りんごの輸出に関する考察を通じて農業の在り方について理解を深めることを目指しています。					
【授業の概要】 「攻めの農業」が叫ばれ、農林水産物の輸出が推進されています。青森産りんごは日本の農産物輸出に占める比重が大きいです。この授業では、青森産りんごの輸出はどのように拡大してきたのか、またどのような課題を抱えているのか、について考察する予定です。					
【授業内容予定】 第1回 イン트로ダクション 第2回 農水産物の生産と流通 第3回 農水産物の貿易 第4回 東アジア経済共同体と農業 第5回 世界のりんご産業（生産・流通・貿易）（1） 第6回 世界のりんご産業（生産・流通・貿易）（2） 第7回 日本のりんご産業（1） 第8回 日本のりんご産業（2） 第9回 戦後日本の農水産物貿易とりんご 第10回 台湾向けりんご輸出（1） 第11回 台湾向けりんご輸出（2） 第12回 中国大陸市場への取り組み 第13回 東南アジア市場への取り組み 第14回 りんご産業の今後 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 黄孝春・平本和博『りんごをアップルとは呼ばせない』弘前大学出版会					
【参考文献】 授業中で適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への取組とレポートによって評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 討議方式を中心とします。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 水曜日 12:00 - 13:00					

授 業 科 目 名	国際経済学				
担 当 教 員	桑波田浩之				
学 期	前期	曜日・時限	金曜 9・10限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 近年の国際貿易論の研究テーマを理解するために基礎となる国際貿易理論を理解し、同分野の論文を読みこなせるようになることを目標とする。					
【授業の概要】 国際貿易論の分野で近年の研究テーマを理解するために必要となる、基礎的な国際貿易理論を学ぶ。具体的には、リカード・モデル、ヘクシャー＝オーリン・モデル、新(々)貿易理論、グラビティ・モデル及び、貿易政策等について扱う。					
【授業内容予定】 第1回 講義概要 第2回 リカード・モデル (1) 第3回 同上 (2) 第4回 同上 (3) 第5回 ヘクシャー＝オーリン・モデル (1) 第6回 同上 (2) 第7回 同上 (3) 第8回 新貿易理論 第9回 新々貿易理論 第10回 空間経済学 第11回 グラビティ・モデル 第12回 貿易政策 (1) 第13回 同上 (2) 第14回 同上 (3) 第15回 まとめ					
【教材・テキスト】 『国際経済学 第3版』 若杉隆平 岩波書店 『現代日本企業の国際化 パネルデータ分析』 若杉隆平編 岩波書店 『都市と地域の経済学』 黒田達朗・田淵隆俊・中村良平 有斐閣					
【参考文献】 『実証から学ぶ国際経済』 清田耕造・神事直人 有斐閣 『Advanced International Trade: Theory and Evidence』 R.Feenstra Princeton Univ. Press					
【成績評価の方法および採点基準】 期末試験 80% 平常点(小テスト・受講態度・授業への貢献) 20%					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式とする。					
【留意点・予備知識等】 学部レベルのミクロ経済学の知識があることが望ましい。					
【オフィスアワー】 月曜3・4・5・6限 事前にメールを貰えれば上記時間帯以外でも可能。					

授 業 科 目 名	労働法				
担 当 教 員	成田史子				
学 期	後	曜日・時限	火曜 5・6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 日本の労働法の各テーマについて、その論点、学説、判例を整理し、外国法との比較を行うことで、日本の現在の規制を客観的に捉え、今後の立法政策について検討を行うことを目標とします。					
【授業の概要】 各テーマについて、日本法の検討を中心に行い、必要に応じて外国法、とりわけドイツ法との比較検討を行います。					
【授業内容予定】 第1回：ガイダンス 第2回：個別的労働関係法① 第3回：個別的労働関係法② 第4回：個別的労働関係法③ 第5回：個別的労働関係法④ 第6回：個別的労働関係法⑤ 第7回：個別的労働関係法⑥ 第8回：労働市場法① 第9回：労働市場法② 第10回：労働市場法③ 第11回：集团的労働関係法① 第12回：集团的労働関係法② 第13回：集团的労働関係法③ 第13回：日独比較検討① 第14回：日独比較検討② 第15回：予備日					
【教材・テキスト】 開講時に指示。					
【参考文献】 開講時に指示。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業態度および学期末のレポートにより評価。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式。					
【留意点・予備知識等】 毎回の予習をしっかりと行ってください。					
【オフィスアワー】 火曜日 1・2 限。					

授 業 科 目 名	憲法				
担 当 教 員	河合 正雄				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・5-6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 1. 日本国憲法を解釈するにあたって、英米独仏の憲法学を参照する意義を理解できる。 2. 比較憲法の視点を取り入れた上で日本国憲法を解釈できる。					
【授業の概要】 日本を代表する憲法研究者の著書を輪読します。英米法・ドイツ法・フランス法の概念が数多く出てきますが、一緒に学んでいきましょう。					
【授業内容予定】 第1回：日本の憲法学と比較憲法の意義（河合）、今後の方針決め 第2回：広義の人権と狭義の「人」権（7-24頁） 第3回：歴史のなかの人権（25-42頁） 第4回：「人」権一個人が解放されることの意味（43-53頁） 第5回：「人」権一個人が放出されることの意味（54-69頁） 第6回：「人」権と文化の多元性（70-80頁） 第7回：権利の諸類型、基本権論の言説空間—アメリカ（83-99頁） 第8回：基本権論の言説空間—フランス、ドイツ（100-114頁） 第9回：私的自治 v. 憲法価値—基本権の私人間適用を中心に（115-132頁） 第10回：市場 v. 公序—営業の自由、労働基本権、メディアの多元性（133-144頁） 第11回：家族 v. 公序—私事としての家族と公共社会の基礎としての家族（145-148頁） 第12回：宗教 v. 公共社会—政教分離と公教育（149-157頁） 第13回：マイノリティ v. 個人—Affirmative Action をめぐる選択（158-169頁） 第14回：制度 v. 個人権—「制度的保障」と制度保障（170-175頁） 第15回：全体のまとめ					
【教材・テキスト】 樋口陽一『国法学 人権原論（補訂）』（有斐閣、2007年）3,500円＋税					
【参考文献】 奥平康弘『憲法Ⅲ—憲法が保障する権利—』（有斐閣、1993年）10,800円＋税（オンデマンド）					
【成績評価の方法および採点基準】 報告内容や授業への貢献、受講状況によって評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 担当者による20分程度の報告（テキストの要約と検討）の後に、皆で議論をするゼミ形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 テキストはやや難解ですが、比較憲法学に興味関心がある方を歓迎します。					
【オフィスアワー】 水曜日5-6限ですが、オフィスアワーに限らず在室時であれば対応します。					

授 業 科 目 名	行政学				
担 当 教 員	児山 正史				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・9－10時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 行政に関する基礎的な知識と基本的な見方を身につけた上で、行政の諸問題について論じられるようになることを目標とします。					
【授業の概要】 行政に関わる諸問題について検討します。受講者の関心に応じて、行政に関する概説書、研究書、資料など、さまざまな文献を講読し、討論します。					
【授業内容予定】 詳細については受講者の関心に応じて決定します。 参考までに、例えば、下記のような内容で行います。 （D. オズボーン他『行政革命』を主な教材とする場合。） 第1回 インTRODakション 第2回 アメリカの行政改革 第3回 触媒としての行政 第4回 地域社会が所有する行政 第5回 競争する行政 第6回 使命重視の行政 第7回 成果重視の行政 第8回 顧客重視の行政 第9回 企業化する行政 第10回 先を見通す行政 第11回 分権化する行政 第12回 市場志向の行政 第13回 日本の行政改革 第14回 日本の総合計画 第15回 日本の行政評価					
【教材・テキスト】 受講者の関心に応じて決定します。					
【参考文献】 授業内容と受講者の関心に応じて紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加を中心に、総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。					
【オフィスアワー】 金曜日 7・8 時限					

授 業 科 目 名	工業経済学				
担 当 教 員	細矢 浩志				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 資本主義工業にかんする基礎知識の習得，経済社会を読み解くための問題設定と経済学的な思考・アプローチにかんする基礎的訓練，文章表現力の養成を目標とします。					
【授業の概要】 資本主義システムにおける工業活動の法則的・体系的把握に関する諸問題を，主要文献・資料の講読・討論をつうじて，理論と実証の両面から分析・検討します。					
【授業内容予定】 第1回：イントロダクション：授業内容の紹介 第2回：現代工業と工業経済論 第3回：産業革命と工業化の進展(1)～イギリス産業革命と工業化の進展 第4回：産業革命と工業化の進展(2)～アメリカ産業革命と工業化の進展 第5回：資本主義的工業の基礎理論(1)～労働過程と価値増殖過程，剰余価値率と労働日 第6回：資本主義的工業の基礎理論(2)～資本主義的生産様式，協業と分業，機械と大工業 第7回：独占段階の工業と資本蓄積(1)～資本の集中・集積と独占の形成 第8回：独占段階の工業と資本蓄積(2)～独占的結合の諸形態・カルテル，トラスト 第9回：独占段階の工業と資本蓄積(3)～独占的結合の諸形態・金融資本 第10回：独占段階の工業と資本蓄積(4)～独占による市場支配＝競争制限 第11回：独占段階の工業と資本蓄積(5)～独占的蓄積の社会的性格・フォードシステム 第12回：独占段階の工業と資本蓄積(6)～独占的蓄積の社会的性格・独占利潤と支配利潤 第13回：現代日本の工業経済 第14回：グローバル化とアジア工業化 第15回：小括と展望					
【教材・テキスト】 金田重喜編『親版・現代工業経済論』創風社，2000年					
【参考文献】 仲村静治『現代工業経済論』汐文社，1973年 坂本和一『現代工業経済論』有斐閣，1988年 マルクス，カール（資本論翻訳委員会訳）『資本論』，新日本出版社					
【成績評価の方法および採点基準】 レポートの作成・報告や出席等の学習態度を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式（レポート作成・報告，ディスカッション）					
【留意点・予備知識等】 標準的な経済学(政治経済学，マクロ・ミクロ経済学)にかんする基礎知識を修得していることが前提となります。					
【オフィスアワー】 月曜日・午後4時～5時・人文社会科学部344室					

授 業 科 目 名	労働経済学				
担 当 教 員	李 永俊				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 労働経済学の基礎的な理論の枠組みを理解し、労働政策の経済学的な評価ができるようになる。					
【授業の概要】 本講義では、労働市場の諸問題について文献の輪読と討論を通して検討することを目的とする。日本の労働市場が抱える諸問題の中で、人口減少問題に焦点を当てて講義を進める予定である。また、人口減少に対する対策を経済学の視点で多角的に評価することを試みる。より詳細な内容は開講時に担当教員に確認すること。					
【授業内容予定】 1回 イントロダクション 2回 労働経済学とは 3回 労働供給理論 4回 労働供給理論 5回 労働市場の均衡 6～8回 人口減少の実態 9～10回 若年者の労働移動の実態とその理由 11～13回 青森県の労働市場 14～15回 人口減少に対する対策案を考える					
【教材・テキスト】 特にテキストは指定しない。					
【参考文献】 太田聰一（2010）『若年者就業の経済学』日本経済新聞出版社 石黒・李・杉浦・山口（2012）『「東京」に出る若者たち－仕事・社会関係・地域間格差』ミネルヴァ 書房 増田寛也（2014）『地方消滅－東京一極集中が招く人口急減』中公新書 川口大司（2017）『労働経済学－理論と実証をつなぐ』有斐閣					
【成績評価の方法および採点基準】 レポートの作成，報告や出席等の学習態度を総合して評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式の両方を用いる。					
【留意点・予備知識等】 特に予備知識は必要としない。					
【オフィスアワー】 毎週水曜日 午前10時00分～12時00分					

授 業 科 目 名	刑法				
担 当 教 員	平野 潔				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ・刑法の基礎理論を理解し、その知識に基づいて判例の分析などが出来る。 ・刑法上の様々な問題に対して、自らの考えを、理論的根拠に基づいて示すことが出来る。					
【授業の概要】 刑法の最新的话题に関する論文・判例を素材として、理論的観点から検討を加えていきます。					
【授業内容予定】 詳細は第1回の授業時に説明しますが、以下のような内容で進めます。 （なお、内容は一部変更になる場合があります） 1. ガイダンス 2. 因果関係論と客観的帰属論 3. 不真正不作为犯における作為義務 4. 故意と錯誤 5. 過失犯に関する諸問題 6. 正当防衛・過剰防衛をめぐる最近の状況 7. 責任能力をめぐる諸問題 8. 未遂犯と不能犯 9. 共同正犯の成立要件 10. 安楽死・尊厳死 11. 性犯罪に関する刑法改正 12. 財産犯の諸問題 13. 文書偽造罪における名義人概念 14. 放火罪めぐる諸問題 15. 賄賂罪における職務の意義					
【教材・テキスト】 とく指定しません。					
【参考文献】 川端博『集中講義 刑法総論 第2版』（1997年、成文堂） 川端博『集中講義 刑法各論』（1999年、成文堂） 山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選①総論 第7版』（2014年、有斐閣） 山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選②各論 第7版』（2014年、有斐閣）					
【成績評価の方法および採点基準】 授業における報告および発言（80％）と期末レポート（20％）によって評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 第1回の講義時に担当者を決めて、その担当者の報告に基づいて参加者全員で議論します。					
【留意点・予備知識等】 少なくとも学部における刑法総論・各論の基本的な知識は必要です。					
【オフィスアワー】 木曜日 3－4時限（それ以外の時間でも事前にアポイントをとってもらえれば対応します）					

授 業 科 目 名	マクロ経済学				
担 当 教 員	山本康裕				
学 期	前	曜日・時限	火曜日・3,4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 中級のマクロ経済学の理論を修得することを目指す。 特にミクロ経済学的基礎を前提とするマクロ経済学の理論に「慣れる」事を重視する。					
【授業の概要】 中級のマクロ経済学の教科書を輪読する。					
【授業内容予定】 第1回 IS-LM分析 第2回 静学的総需要・総供給分析 第3回 経済成長論Ⅰ…人口成長と技術進歩を考慮しないケースのソローモデル 第4回 経済成長論Ⅱ…人口成長と技術進歩を考慮するケースのソローモデル 第5回 内生的成長論 第6回 マクロ経済政策は、受動的であるべきか積極的であるべきか 第7回 政府負債が経済に及ぼす影響 第8回 消費関数論争 第9回 投資 第10回 金融政策のミクロ的基礎 第11回 動学的総需要・総供給曲線分析Ⅰ…モデルの組み立て 第12回 動学的総需要・総供給曲線分析Ⅱ…モデルの応用 第13回—15回 実証分析入門…EViewsによるデータ分析 などを学習する					
【教材・テキスト】 マンキュー(2012)『マンキュー マクロ経済学Ⅱ 応用篇』東洋経済新報社					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 講義における報告が誠実に行われているかで判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 教科書の輪読					
【留意点・予備知識等】 学部レベルのマクロ経済学の知識を前提とする。					
【オフィスアワー】 水曜日 12:40-14:10					

授 業 科 目 名	ミクロ経済学				
担 当 教 員	小谷田文彦				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日 3-4 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 ミクロ経済学の基礎理論である消費者の効用最大化、企業の利潤最大化行動を理解したうえで、ミクロ経済学の理論に基づいた経済問題に対する考え方を理解すること。					
【授業の概要】 八田達夫著『ミクロ経済学 Express』を用いて基礎的なミクロ経済学と経済問題への応用を学ぶ。					
【授業内容予定】 第 1 回 市場と政府の役割分担 第 2 回 経済の全体像 第 3 回 需要と供給 第 4 回 供給曲線 第 5 回 生産者余剰、可変費用、帰属所得 第 6 回 需要曲線の導出と総余剰 第 7 回 参入規制 第 8 回 市場介入 第 9 回 外部不経済 第 10 回 規模の経済：独占 第 11 回 外部経済と公共財 第 12 回 道路と市場の失敗 第 13 回 労働市場 第 14 回 社会的厚生 第 15 回 効率化原則					
【教材・テキスト】 八田達夫著『ミクロ経済学 Express』東洋経済新報社（2013年）					
【参考文献】 武隈慎一著『ミクロ経済学』新世社（1999年）					
【成績評価の方法および採点基準】 講義における発表から判断される理解の程度に応じて評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読形式					
【留意点・予備知識等】 特になし					
【オフィスアワー】 金曜日 9・10 時限					

授 業 科 目 名	経済学史論				
担 当 教 員	福田 進治				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・9－10	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 経済学史領域（経済理論・経済思想・経済政策の歴史）の研究方法を身に付けながら、経済問題について理論的・歴史的に検討する能力を養うことを目的とする。					
【授業の概要】 近世～20世紀後半の西ヨーロッパの経済と経済学の歴史を研究し、この期間の主要な経済問題とそれに関連する経済理論・経済思想・経済政策を検討する。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 重商主義の時代 第3回 市場メカニズム 第4回 夜警国家の理論 第5回 産業革命の時代 第6回 国際貿易の原理 第7回 階級闘争の時代 第8回 資本主義の本質 第9回 資本主義の盛衰 第10回 ヴィクトリア時代 第11回 市場均衡の理論 第12回 大恐慌の時代 第13回 景気循環と失業 第14回 福祉国家の形成 第15回 補足説明・質疑応答					
【教材・テキスト】 ガイダンスの際、受講者と相談し、受講者の学問的関心に基づいて決定する。					
【参考文献】 小畑二郎『経済学の歴史』慶應義塾大学出版会、2014年					
【成績評価の方法および採点基準】 平常の出席態度・課題報告（50点）および期末のレポート課題（50点）による。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式とする。					
【留意点・予備知識等】 学部専門レベルの経済学史の内容を理解していることを前提とする。					
【オフィスアワー】 月曜日～金曜日 12時～13時（人文社会科学部棟413号室）					

授 業 科 目 名	日本経済史論				
担 当 教 員	池田 憲隆				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本経済史に関する基本的知見を確認するとともに、最新の研究動向と成果を理解すること。					
【授業の概要】 日本経済を歴史的観点から考察する。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンスとイントロダクション 第2回 日本近世の世界史的位置 第3回 明治維新 第4回 制度変革 第5回 近代的工業化の過程 第6回 日清・日露戦争期 第7回 第1次大戦期 第8回 戦間期 第9回 昭和恐慌 第10回 高橋財政 第11回 戦時経済 第12回 戦後復興期 第13回 高度成長期 第14回 1970～80年代半ば 第15回 バブル経済とその崩壊					
【教材・テキスト】 受講生と相談の上、決定する。					
【参考文献】 授業内容に応じて適宜指示するほか、プリントを配布する場合がある。					
【成績評価の方法および採点基準】 発表内容や勉学態度などにより総合的に評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式を併用する。					
【留意点・予備知識等】 受講生と相談の上、曜日・開講時間を変更がすることがある。					
【オフィスアワー】 木曜日14：00～15：00					

授 業 科 目 名	経営統計学				
担 当 教 員	花田 真一				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日7・8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
①統計学の基礎を復習する					
②統計学を経済学・経営学の分析に生かせるようになる					
【授業の概要】					
理論的に学んだ経営学や経済学を、現実の企業や社会の分析に生かすための統計学の基礎について解説する。統計学は実験室等で取得されたデータの解析にその主眼があり、いわば「きれいな」データを精緻に扱うことに重点が置かれている。しかし、経営学や経済学で利用されるデータは実社会において取得されるものであるため、誤差やノイズが含まれたデータとなる。本講義では、その点を考慮し、誤差を取り除いたうえで分析を行う計量経済学の基礎的な内容を解説する。なお、名称は計量「経済」学であるが、分析手法は経営学の企業分析においても広く用いられているため、経営学を研究する上でも重要なものとなる。					
【授業内容予定】					
受講者の理解度等に応じて内容を変更する場合があります					
第1回：ガイダンス					
第2回：統計学の復習①：記述統計を用いたデータの整理					
第3回：統計学の復習②：確率統計を用いた検定					
第4回：統計学の復習③：区間推定と点推定					
第5回：単回帰①：線形回帰式と推定					
第6回：単回帰②：推定結果の検定・決定係数					
第7回：単回帰③：最小二乗法の諸性質					
第8回：演習①					
第9回：重回帰①：多変数回帰の回帰式と推定、結果の検定					
第10回：重回帰②：説明変数の変換、ダミー変数を用いた質的尺度の定量化					
第11回：重回帰③：多重共線性、分散不均一、系列相関					
第12回：操作変数法					
第13回：パネル推定					
第14回：演習②					
第15回：講義の復習					
【教材・テキスト】 特に指定しない					
【参考文献】 講義中に指示する					
【成績評価の方法および採点基準】					
毎回の講義での活動：10%					
小レポート：30%					
期末レポート：60%					
【授業形式・形態および授業方法】 主に講義形式で行うが、可能であれば数回PC演習も行う					
【留意点・予備知識等】					
学部レベルの統計学の知識があることが望ましい。学部において統計学や計量経済学に関する講義を履修したことが全くない場合は、統計学入門もしくは統計データ分析Aの並行履修を勧める。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	金融論				
担 当 教 員	飯島 裕胤				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 企業における金融活動、つまり資金を調達し、将来に向けてさまざまな資本を形成し、収益を償還・分配する一連の流れを理解する。					
【授業の概要】 岩村充『企業金融講義』東洋経済新報社を輪読する。					
【授業内容予定】 1. 金融とは 2. 金融市場 3. 株式市場とその資金調達 4. 企業価値の財務的表現 5. リスクの測り方 6. 資産選択 7. MMの無関係性命題 8. 資本構成決定の実際 9. 企業金融における情報の役割① 10. 企業金融における情報の役割② 11. オプション理論と企業金融① 12. オプション理論と企業金融② 13. 倒産と金融支援① 14. 倒産と金融支援② 15. まとめ					
【教材・テキスト】 岩村充『企業金融講義』東洋経済新報社					
【参考文献】 適宜紹介する					
【成績評価の方法および採点基準】 講義での議論 60%、最終レポート 40%					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読と院生間の議論を行う					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 月曜日、16：00-17：00					

授 業 科 目 名	地域科学				
担 当 教 員	大橋 忠宏				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 青森を含む地方都市や東京などの大都市，あるいは地域の問題を社会科学的に理解すること．					
【授業の概要】 青森を含む地方都市や東京などの大都市，あるいは地域の諸問題を経済学的に理解するために，都市の存在理由や都市システム，都市交通問題などについて青森等の事例を交えつつ議論する．					
【授業内容予定】 予定している内容は以下の通り． 第1回：地域科学とは 第2回：都市はなぜ形成されるか 第3回：都市はどこに形成されるか 第4回：都市内の土地市場 第5回：都市内土地市場と地代の決定：単一中心都市 第6回：サブセンターの形成 第7回：都市の外部性と土地利用の規制 第8回：都市規模と都市システムー市場都市と中心地理論 第9回：工業生産における集積の経済と都市システム 第10回：企業間コミュニケーションと都市規模分布 第11回：都市における交通問題ー交通需要と便益 第12回：都市における交通問題ー交通混雑と道路利用，混雑対策など 第13回：都市における公共サービスー都市経済と政府 第14回：都市における公共サービスー地方政府における公共財の供給，など． 第15回：地域間交易と空間経済学					
【教材・テキスト】 黒田達明・田淵隆俊・中村良平：『都市と地域の経済学(新版)』，有斐閣．佐々木公明・文世一：『都市経済学の基礎』，有斐閣． の上記項目に関連する部分及び関連書籍・論文・報告書など．					
【参考文献】 大井尚司・後藤孝夫『交通政策入門』．佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣． など． 適宜紹介する．					
【成績評価の方法および採点基準】 成績の評価は，報告内容及び質疑応答の内容を基に行う．					
【授業形式・形態および授業方法】 主に輪読形式（資料作成・報告・議論）とする．					
【留意点・予備知識等】 学部レベルのミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学の知識が必要である．					
【オフィスアワー】 木曜日・午前10時30分～11時30分・人文社会科学部222研究室					

授 業 科 目 名	地理情報科学				
担 当 教 員	増山 篤				
学 期	後期	曜日・時限	水曜3・4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 空間分析のための基本的手法全般に習熟する。					
【授業の概要】 英文テキストによって、空間分析のための基本的手法全般を学ぶ。					
【授業内容予定】 第1回 導入（空間データ、属性） 第2回 空間データに関する留意点 第3回 空間データの持つ可能性 第4回 伝統的な地図学とジオビジュアライゼーション 第5回 ポイント、ポリゴン、フィールドの視覚化 第6回 空間に関する確率的プロセス 第7回 点パターンの記述 第8回 点パターンの統計的評価の枠組み 第9回 大局的点分布パターンに関する分析 第10回 ポイントの集積箇所を見出す分析 第11回 ポリゴンデータと空間的自己相関 第12回 局所的パターンに関する統計量（Getis-Ord統計量など） 第13回 フィールドタイプデータの分析の基礎 第14回 空間的補間（傾向面分析、クリギングなど） 第15回 オーバーレイ					
【教材・テキスト】 O'Sullivan, D. and Unwin, D. (2010) Geographic Information Analysis, 2nd Edition, Wiley.					
【参考文献】 必要に応じて、授業時間内に紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 受講生の報告の水準によって採点する。					
【授業形式・形態および授業方法】 まずは、受講生が報告を行う。それに対し、担当教員が補足説明およびコメントを加えていく。					
【留意点・予備知識等】 学部レベルの統計学・微積分・線形代数の知識、地理情報科学に関する基礎知識が必要である。					
【オフィスアワー】 水5・6時限、人文408研究室					

授 業 科 目 名	マーケティング論				
担 当 教 員	保田宗良				
学 期	前期	曜日・時限	金曜日・3-4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 マーケティングの基礎理論、新たに注目されている理論を文献研究によって学修します。研究の進め方の方法論を確立し、マーケティングの論点を明確に整理することを求めます。					
【授業の概要】 ジャーナル、学術雑誌に掲載された論文の文献研究により、地域の優良企業のマーケティング活動の取り組みを考察します。欧米の地域ブランドとまちづくりの研究動向を参照します。					
【授業内容予定】 ① マーケティングの歴史、定義 ② コトラー、アーカーの文献から学ぶ ③ サービス・マーケティング研究(観光) ④ サービス・マーケティング研究(医療) ⑤ 経営戦略とマーケティング戦略 ⑥ ウェブ・マーケティング活動の動向 ⑦ 青森地域の流通業のマーケティング戦略 ⑧ 青森地域の有力商店街のマーケティング戦略 ⑨ 青森地域の観光業のマーケティング戦略 ⑩ 青森県地域の消費者問題 ⑪ 青森地域の長寿企業のマーケティング活動 ⑫ マーケティング戦略とイノベーション ⑬ 地域ブランドを活用したまちづくり ⑭ SDロジックの最新研究 ⑮ 半期の総括					
【教材・テキスト】 邦文、英文のコピーを配布します。学術雑誌の論文が中心です。					
【参考文献】 保田宗良「消費者のためのマーケティング・エッセンス」2015年、日本教育訓練センター					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点＋レポート					
【授業形式・形態および授業方法】 通常のゼミ形式です。					
【留意点・予備知識等】 企業の内部環境、外部環境は激変しています。問いの立て方、問いの検証を重要視します。					
【オフィスアワー】 木曜日、金曜日 12時～12時30分					

授 業 科 目 名	イノベーション論				
担 当 教 員	熊田 憲				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義では、イノベーションを理論的・実践的なレベルで理解するための知識の獲得を目的とし、イノベーション・マネジメントに向けたインテリジェンスの醸成を目指します。					
【授業の概要】 イノベーションという現象が生み出されるシステムやメカニズム、マネジメントを体系的に学び、複雑化したイノベーション・プロセスにおいて発生する諸課題について理論的・実践的に考察します。					
【授業内容予定】 第 1回：ガイダンス 第 2回：イノベーション・マネジメントの主要な課題 第 3回：マネジメント・プロセスとしてのイノベーション 第 4回：イノベーション戦略のためのフレームワークの開発 第 5回：国の環境および競争環境における企業のポジション 第 6回：経路：技術軌道を利用する 第 7回：プロセス：戦略的学習のための統合 第 8回：市場から学習する 第 9回：アライアンスを通じて学習する 第10回：内部プロセスをマネージする 第11回：社内ベンチャーから学習する 第12回：イノベティブな組織を構築する 第13回：イノベティブな新企業を創造する 第14回：イノベーション・マネジメントへの統合的アプローチ 第15回：イノベーション論まとめ					
【教材・テキスト】 教科書は特に指定しません。					
【参考文献】 ・ジョー・ティッド他(2004), イノベーションの経営学 技術・市場・組織の統合的マネジメント, NTT出版 ・一橋大学イノベーション研究センター編(2001), イノベーション・マネジメント入門, 日本経済新聞社 ・その他, 講義の中で適宜, 紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 報告と発言の内容で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミ形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 経営学に関する基礎的な知識が必要です。					
【オフィスアワー】 ・火曜日：11:50～12:40 ・事前にメールにてコンタクトを取ってください。					

授 業 科 目 名		経営管理論				
担 当 教 員		高島克史				
学	期	前期	曜日・時限	月曜日3・4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】						
本講義の目的としては、経営戦略の概念や考え方が実践においてどのように活用できるのか、新聞記事やビジネス記事などを通じて考察できるための素養を養うことを目的としています。						
【授業の概要】						
経営管理で扱う主たる問題は、「人の問題」「組織の問題」「経営戦略の問題」の3つです。その中でも本講義では、「経営戦略の問題」に焦点をあてて講義を行います。そして、経営戦略における概念や考え方が実践でどのように活かすことができるのか考えていきます。						
【授業内容予定】						
指定のテキストを1章ずつ読んでいきます。具体的には次の通りです。						
第1回		オリエンテーション		第2回		経営戦略とは
第3回		競争優位の実現と維持		第4回		業界の構造分析
第5回		差別化		第6回		コスト・リーダーシップ
第7回		顧客価値		第8回		競争ポジション
第9回		製品ライフサイクル		第10回		事業の定義と企業ドメイン
第11回		多角化		第12回		多角化企業の資源配分
第13回		垂直統合		第14回		企業活動領域の設定と再構成
第15回		経営戦略の策定				
【教材・テキスト】						
網倉久永・新宅純二郎（2011）『経営戦略入門』日本経済新聞社						
【参考文献】						
講義中に指示します。						
【成績評価の方法および採点基準】						
毎回行う報告内容で評価します						
【授業形式・形態および授業方法】						
事前に読んできた担当部分をレジюмеにまとめ、報告を行ってもらいます。						
【留意点・予備知識等】						
経営学に関する基礎的な知識が必要です。						
【オフィスアワー】						
月曜日8時40分～10時10分						

授 業 科 目 名	商法				
担 当 教 員	長谷河 亜希子				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日 5・6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 商事法分野の問題に関して、基礎的知識の修得に留まらず、研究論文を読みこなしたうえで分析し、私見を述べる能力を身につける。					
【授業の概要】 商事法分野の問題について学びます。					
【授業内容予定】 商事法分野の法律について、論文や判例等（場合によっては外国語文献を含む）を読みつつ理解を深めていきたいと思います。最終的には、受講生の皆さんと相談のうえ、決定したいと思います が、現時点では以下が候補です。					
「フランチャイズ判例を読む」 コンビニなどのフランチャイズ(FC)問題に関連する判例等を読み、検討する。 以下のような諸問題に関連する判例を取り上げる。 ・ 本部の情報開示義務違反 ・ 本部の指導援助義務違反 ・ 本部の品質確保義務違反 ・ 本部によるFC契約の更新拒絶 ・ FC契約の解約を巡る諸問題 ・ コンビニのチャージ(ロイヤリティ)訴訟 ・ 本部の仕入れ代金報告義務 ・ 見切販売の制限に関する損害賠償訴訟 ・ コンビニの深夜間営業の強制差止訴訟 ・ FC契約終了後の競業避止義務訴訟 ・ コンビニ加盟者(店長等として実際に店舗勤務している加盟者)の労働者性 など					
【教材・テキスト】 その都度指示します。					
【参考文献】 その都度指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への出席、報告、発言等による。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミ形式					
【留意点・予備知識等】 毎日、新聞を読むこと。					
【オフィスアワー】 火曜日 7・8時限					

授 業 科 目 名	民法				
担 当 教 員	吉村顕真				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・5-6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 民法典第1編「総則」及び第3編「債権」における契約関係の規定を「契約の成立から終了まで」という一連の流れにそって再構成し、契約法に関する理解を深めていく。					
【授業の概要】 契約法に関する文献及び関連判例を読んだうえで、それについて検討する。 具体的な内容や順番などは、受講生との話し合いによって決める。					
【授業内容予定】 以下のテーマの順に従って授業を進めていく。 第 01 回 イン트로ダクション 第 02 - 03 回 契約の成立、契約の有効性①：契約主体に対する規制 第 04 - 05 回 契約の有効性②：契約成立過程における意思表示に対する規制 第 06 - 07 回 契約の有効性③：契約内容に対する規制 第 08 - 09 回 代理人による契約の成立 第 10 - 12 回 契約の履行、契約違反とその救済 第 13 - 15 回 債権の保全、契約の終了					
【教材・テキスト】 初回の授業時に指示する。					
【参考文献】 適宜、指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 報告：80% 提出物：20%					
【授業形式・形態および授業方法】 受講生の人数にもよるが、毎回、1人の報告者に報告してもらった上で、それに対して参加者による質疑・応答をするという形で進めていく予定である。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 火曜日10：30～11：30					

授 業 科 目 名	グローバル経営論				
担 当 教 員	森樹男				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 グローバル経営の基礎を修得することと、習得した知識の応用力を身につけることを目標とします。					
【授業の概要】 グローバル時代における企業経営について理論的、実践的な考察を行っていきます。					
【授業内容予定】 テキストにしたがい、グローバル経営の考え方を体系的に学習していきます。 テキストの内容は、以下の通りです。 第1回 国際経営とは 第2回 国際経営戦略 第3回 国際経営組織 第4回 国際マーケティング 第5回 海外生産 第6回 国際研究とイノベーション 第7回 国際人的資源管理 第8回 国際経営財務 第9回 自動車産業 第10回 エレクトロニクス産業 第11回 IT産業 第12回 流通 第13回 生活文化財産業 第14回 国際経営マネジメントの変革 第15回 国際経営の将来像					
【教材・テキスト】 吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和宏（編）『ケースに学ぶ 国際経営』有斐閣ブックス					
【参考文献】 安室憲一編著『新グローバル経営論』白桃書房					
【成績評価の方法および採点基準】 授業参加の程度と期末レポートにより評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読形式を予定しています。					
【留意点・予備知識等】 常に企業経営に関心を持ち、様々なメディアからの情報も得るように努めてください。					
【オフィスアワー】 木曜 17時40分～18時30分					

授 業 科 目 名	経営組織論				
担 当 教 員	大倉 邦夫				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 経営組織論に関する基本的な諸理論を理解した上で、企業という組織に関わるさまざまな問題を具体的に考察していくことを目的としています。					
【授業の概要】 経営組織論では、マクロ組織論とミクロ組織論という2つの領域に大別されますが、本講義ではそれぞれの領域の代表的なトピックについて議論していくことになります。また、学生自身に事例研究を行ってもらいます。					
【授業内容予定】 第1回 インTRODakション 第2回 多様な組織の捉え方 第3回 組織の成員の動機づけ 第4回 リーダーシップ 第5回 変革型リーダー 第6回 組織文化 第7回 組織学習 第8回 戦略的提携 第9回 組織間学習 第10回 組織構造のデザイン 第11回 多様な組織構造 第12回 事例研究(1) 研究テーマと調査対象の決定 第13回 事例研究(2) 文献調査の中間報告 第14回 事例研究(3) 事例調査の中間報告 第15回 事例研究(4) 調査結果の発表					
【教材・テキスト】 受講時に指示します。					
【参考文献】 受講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回のレジュメの内容、議論への参加度、事例研究の調査結果（レポート）を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式とします。具体的には1人の報告者が事前に割り当てられた箇所について、レジュメを作成し、報告をします。					
【留意点・予備知識等】 自ら考え、自ら調査するということを実践してもらいますので、予習・復習が必ず求められます。					
【オフィスアワー】 金曜日5・6時限。					

授 業 科 目 名	財務報告論				
担 当 教 員	内藤 周子				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・5・6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義における授業としての具体的到達目標は、財務報告の基本的な概念と役割を理解することである。					
【授業の概要】 本講義では、ディスクロージャー制度で開示される会計情報を研究・分析するための基礎的な知識と方法について解説する。したがって、会計処理と実務慣行については直接的には扱わない。					
【授業内容予定】 第1回 イン트로ダクション 第2～3回 利潤、所得と会計利益 第4～5回 資本維持 第6～7回 実現概念 第8～9回 対応原則 第10～11回 費用の期間配分 第12～13回 会計規制 第14～15回 まとめ テキストにしたがって以上の内容を扱う予定であるが、受講生の関心などを考慮する。					
【教材・テキスト】 大日方隆『アドバンスト財務会計（第2版）』中央経済社、2013年。					
【参考文献】 随時、案内する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業中の発表と議論の内容(50%)、課題の評価（50%）					
【授業形式・形態および授業方法】 担当者による報告ののちに、質疑応答を行う形式である。適宜、課題を与える。					
【留意点・予備知識等】 会計に関する基本的な知識を有していることを前提とする。					
【オフィスアワー】 金曜日5・6時限					

授 業 科 目 名	原価計算論				
担 当 教 員	小杉雅俊				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日 3・4 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
品質原価計算（Quality Costing）の学習を通じて、戦略的コスト・マネジメントを理解する。					
【授業の概要】					
品質原価計算の理論的なフレームワークを中心に、実務適用に際する論点を文献輪読・議論形式で理解していく。理論的な把握に際しては、品質原価計算の史的展開を振り返っていく。理論が概念形にとどまっていなかったかを検討するために、文献サーベイを通じて、実務適用面についての検討を行なっていく。一連の授業を通じて、会計ツールを実務適用するとはどういうことなのか、戦略的コスト・マネジメントとは何か、深く考えてもらう。					
【授業内容予定】					
基本的にゼミナール形式の授業を行う。指定テキストだけにとどまらず、関連する英語文献などを読み込んでいく。輪読形式の発表と、発表内容に基づいた議論・討論を通じ、授業を展開する。以下に各授業回の内容を示す。					
第1回授業 ガイダンス・文献紹介とイントロダクション					
第2回授業 品質原価計算の史的展開(1)生成段階から1980年代まで					
第3回授業 品質原価計算の史的展開(2)1990年代以降					
第4回授業 品質原価計算のフレームワークに関する理論的検討					
第5回授業 国内におけるPAFアプローチの適用事例					
第6回授業 アメリカにおけるPAFアプローチの適用事例(1)…製造業における適用事例①					
第7回授業 アメリカにおけるPAFアプローチの適用事例(2)…非製造業における適用事例②					
第8回授業 アメリカにおけるPAFアプローチの適用事例(3)…製造業における適用事例③					
第9回授業 アメリカにおけるPAFアプローチの適用事例(4)…非製造業における適用事例④					
第10回授業 ABC/ABMを取り入れた品質原価計算の適用事例					
第11回授業 イギリスにおけるプロセスコストモデルの展開					
第12回授業 ヨーロッパにおけるプロセスコストモデルの適用事例(1)…製造業における適用事例					
第13回授業 ヨーロッパにおけるプロセスコストモデルの適用事例(2)…非製造業における適用事例					
第14回授業 品質原価計算と戦略的コスト・マネジメント					
第15回授業 総括					
【教材・テキスト】					
浦田隆広（2011）『アメリカ品質原価計算研究の視座』創成社。					
【参考文献】					
多数により、適宜授業内で紹介していく。					
【成績評価の方法および採点基準】					
文献輪読発表・議論参加（50％）、課題評価（50％）。					
【授業形式・形態および授業方法】					
輪読形式であり、全受講者は教科書・関連文献の指定範囲を予習することが求められる。					
【留意点・予備知識等】					
・本授業では英語文献を用いた授業を行うが、あくまでも原価計算論の授業である。 ・日商簿記2級レベルの工業簿記・原価計算における基礎的な理論を前提として授業を進める。 ・受講希望者は、このシラバスを事前にしっかりと読み、第1回授業を受講すること。					
【オフィスアワー】					
火曜日12:00-12:30、この時間に限らず随時対応しますのでご相談ください。					

授 業 科 目 名	農村社会史				
担 当 教 員	白石 壮一郎				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・3-4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 論文6-7本分ほどの内容を基礎知識とともに平易に噛み砕きながら学び、そこから議論する力、まとめて書く力をつけていく。					
【授業の概要】 戦後高度成長期における農村-都市移動（向都離村）の内容と、その後背地である農村社会の変容について学ぶ。					
【授業内容予定】 01. 導入：近代性と移動 02. 伝統家族とイエ制度 03. 戦後日本農村の「民主化」 04. 農村-都市移動と都市化 05. 高度成長と産業構造の変化 06. 農家次三男移動説 07. 地域移動と職業移動との関係 08. リブセット＝ベンディクス仮説 09. 上京者の情景：まなごしの地獄（1） 10. 上京者の情景：まなごしの地獄（2） 11. 中高等教育の拡大と社会移動アスピレーション（1） 12. 中高等教育の拡大と社会移動アスピレーション（2） 13. 農家後継ぎ問題と家族の変容 14. 後期近代へ 15. まとめ					
【教材・テキスト】 テキストはとくになし。資料・文献は講義時に適宜配布・紹介する。					
【参考文献】 適宜紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 講義への参加、議論、短いレポート					
【授業形式・形態および授業方法】 文献内容をもとにした講義が6割、それをふまえた議論が4割					
【留意点・予備知識等】 参考文献を各自が予習し（レジメ担当での講読はなし）、講義と議論をする。					
【オフィスアワー】 水曜日昼休み～14:00。なお、履修希望者は事前に白石研究室（人文331）まで。					

授 業 科 目 名	地域活動論				
担 当 教 員	近藤 史				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日・1・2時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 地域活動とそれに関わるさまざまなアクターを総合的にとらえる視野を習得し、それを自らの研究に生かす。					
【授業の概要】 地域づくりにどのような仕組みや取組みが試みられているのか、どうすれば地域内外の人びとを巻き込みながら活動を展開していけるのか。地域資源をいかした着地型観光の事例を参考にしながら、受講生の関心に応じたテーマで青森県の課題にアプローチする地域活動の企画を検討します。					
【授業内容予定】 第1回 イン트로ダクション 第2回～第8回 大社充『体験交流型ツーリズムの手法』の輪読 第2回 第1章 地域主導で生まれ変わろうとする国内の旅 第3回 第2章 求められる本物の旅とは 第4回 第3章 地域に求められるマーケティング能力 第5回 第4章 地域の魅力を引き出す滞在型プログラム 第6回 第5章 地域資源の活かし方 第7回 第6章 地域主導の旅づくりに求められる人材 第8回 第7章 地域がつくる旅の未来を考える 第9回～第14回 課題研究② 第9回 課題研究のテーマの検討 第10回 対象地域・課題の現状分析 1 第11回 対象地域・課題の現状分析 2 第12回 企画のアイディア表出・整理 第13回 企画の具体化 第14回 企画のプレゼンテーション 第15回 振り返りと総合討論					
【教材・テキスト】 大社充2008「体験交流型ツーリズムの手法―地域資源を活かす着地型観光」学芸出版社					
【参考文献】 木下勇 2007「ワークショップ：住民主体のまちづくりへの方法論」学芸出版社					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加と発表、ディスカッションの内容などを総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式でおこないます。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 火曜日3・4時限、人文234号室（その他の時間帯も事前にアポイントメントをとれば対応可能）					

授 業 科 目 名	合意形成論				
担 当 教 員	平井太郎				
学 期	後	曜日・時限	火 5	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
合意形成の実践に不可欠な方法論と理論を獲得する。					
【授業の概要】					
現代社会において不可欠な合意形成の方法と課題について実践的に学ぶ。具体的には、ワークショップの現場のファシリテーションを経験し、討議倫理や承認理論等の対照を行う。					
【授業内容予定】					
第1回 研究内容の相互紹介					
第2回 『かかわり方の学び方』(1)ファシリテーション					
第3回 『かかわり方の学び方』(2)ワークショップ					
第4回 『かかわり方の学び方』(3)人の見え方					
第5回 ファシリテーションの実践(1)					
第6回 ファシリテーションの検証(1)					
第7回 『承認をめぐる闘争』(1)歴史的な想起					
第8回 『承認をめぐる闘争』(2)社会的承認関係の構造					
第9回 『承認をめぐる闘争』(3)道徳と社会的発展					
第10回 ファシリテーションの実践(2)					
第11回 ファシリテーションの検証(2)					
第12回 ファシリテーションの実践(3)					
第13回 ファシリテーションの検証(3)					
第14回 総括					
【教材・テキスト】					
西村佳哲『かかわり方の学び方』					
【参考文献】					
J・ハバーマス『討議倫理』、A・ホネット『承認をめぐる闘争』					
【成績評価の方法および採点基準】					
授業への参加					
【授業形式・形態および授業方法】					
討議形式					
【留意点・予備知識等】					
特になし					
【オフィスアワー】					
of-hirai@nifty.comに随時確認すること。					

授 業 科 目 名	開発政策論				
担 当 教 員	北島 誓子				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 公民連携(PPP)方式が登場してきた政治的・経済的・社会的背景を理解するとともに、PPP実行を検証する理論的視角を培うこと。					
【授業の概要】 公共と民間との連携方式（PPP、パートナーシップ方式）は、さまざまな分野における政策手法として先進諸国・途上国双方において定着しつつある。当授業は、欧米および日本においてPPP方式が登場してきた背景と、その方式の都市・地域政策における実践上の諸問題を考えていく。					
【授業内容予定】 はじめに 民間活用・参加型手法とは 2-3. サードセクター方式（欧米と日本） 4. PFI方式 5. PPPあるいはネットワーク方式 民間活用・参加型手法登場の背景 6. 民営化とPFI 7. 新自由主義路線とPPP 8. サードセクターの社会経済 PPPの実践 9. PPP戦略 10. PPPと都市統治 11. 経済成長と利益配分 12. 産業学術パートナーシップ（産学連携） 13. PPP と国家 14. PPPの政治経済 まとめ：ディスカッション					
【教材・テキスト】 Simon Bridge, Brendan Murtagh, Ken O'Neill. <i>Understanding the Social Economy and the Third Sector</i> , 2nd Edition. Palgrave Macmillan, 2013. Defourny, Jaques et. al. eds. <i>The Emergence of Social Enterprise</i> . Routledge, 2003. Jacobs, Brian. <i>Strategy and Partnership in Cities and Regions</i> . London: Macmillan, 2000. その他著書、論文。					
【参考文献】 適宜紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 レジメ、プレゼンテーション、討論参加により総合的に判断します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習方式で行います。学生が1論文または著書1章分のレジメを作成し、それにもとづく発表と討論ですすめていきます。授業のペースは毎回、論文1-2論文、あるいは著書1-2章となります。					
【留意点・予備知識等】 テキストは英文が中心となります。 受講希望者は、初回講義の前日までに担当教員とコンタクトを取って下さい（資料準備のため）。					
【オフィスアワー】 火曜日：17:40～18:30p.m.					

授 業 科 目 名	地方財政論				
担 当 教 員	金目 哲郎				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 政府間財政関係や地方財政における研究課題の所在を受講生が独力で発見し、資料やデータに基づく検証を自ら行うことができます。これにより、各人が設定する研究課題を論文として構築する素地が身に付けられます。					
【授業の概要】 政府間財政関係、地方財政について、歴史的・制度論的アプローチにより検討します。テキストを手がかりに、現代地方財政にかかる諸問題の現状分析と将来展望をしていきます。下記の授業内容は、日本の地方財政を総論的に検討するテキストを選定したときの予定です。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンスおよび講義、現代の地方自治と地方財政の概観 第2回 受講生による報告と討論、地方財政改革の動向 第3回 受講生による報告と討論、地方制度と地方財政 第4回 受講生による報告と討論、地方財政の運営 第5回 受講生による報告と討論、地方財政の経費と財政指標 第6回 受講生による報告と討論、地方税 第7回 受講生による報告と討論、地方交付税 第8回 受講生による報告と討論、補助金・負担金・交付金 第9回 受講生による報告と討論、地方債 第10回 受講生による報告と討論、社会保障 第11回 受講生による報告と討論、公共事業と地域活性化 第12回 受講生による報告と討論、公営事業 第13回 受講生による報告と討論、環境・エネルギーと地方財政 第14回 受講生による報告と討論、地方分権と課税自主権 第15回 受講生による報告と討論、総括（政府間財政関係や地方財政をめぐる課題）					
【教材・テキスト】 篠原正博・大澤俊一・山下耕治編著(2017)『テキストブック地方財政』創成社					
【参考文献】 重森暁・植田和弘編(2013)『Basic地方財政論』有斐閣ブックス 金澤史男(2010)『福祉国家と政府間関係』日本経済評論社					
【成績評価の方法および採点基準】 レジュメの報告、討論の内容、受講状況を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読方式。受講者によるレジュメ報告に基づき、討論します。					
【留意点・予備知識等】 テキストについて、受講生の関心に基づき、上記の参考文献や他のテキストを購読することも可能です。初回ガイダンス時に相談のうえテキスト等を選定します。					
【オフィスアワー】 水曜日の9:30-10:30					

授 業 科 目 名	社会保障法				
担 当 教 員	成田史子				
学 期	前期	曜日・時限	火曜 5・6 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 日本の社会保障法の各テーマについて、その論点、学説、判例を整理し、外国法との比較を行うことで、日本の現在の規制を客観的に捉え、今後の立法政策について検討を行うことを目標とします。					
【授業の概要】 日本の社会保障法の各テーマについて、その論点、学説、判例を整理し、外国法との比較も行うことで、日本の現在の規制を客観的に捉え、今後の立法政策について検討を行うことを目標とします。					
【授業内容予定】 日本の社会保障の制度について、関連文献を購読することで理解を深めます。 第1回：ガイダンス 第2回：日本の社会保障制度の概要 第3回：日本の社会保障制度の体系 第4回：雇用保険制度① 第5回：雇用保険制度② 第6回：労災保険制度① 第7回：労災保険制度② 第8回：生活保護① 第9回：生活保護② 第10回：年金① 第11回：年金② 第12回：障害者福祉① 第13回：障害者福祉② 第13回：育児休業制度① 第14回：育児休業制度② 第15回：比較検討					
【教材・テキスト】 開講時に指示。					
【参考文献】 開講時に指示。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点により評価。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式。					
【留意点・予備知識等】 毎回の予習を欠かさず行ってください。					
【オフィスアワー】 火曜日 1・2 限。					

授 業 科 目 名	人権論				
担 当 教 員	河合 正雄				
学 期	前期	曜日・時限	木曜日・5-6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 1. 日本国憲法の解釈にあたって、主要判例や憲法学説の動向を理解できる。 2. 近年論点化している事項に関する憲法学の見解を理解できる。					
【授業の概要】 日本の有力な憲法研究者と元最高裁判事が執筆した論稿を輪読します。前半は精神的自由権に関する論点、後半はそれ以外の人権に関する論点を取りあげます。					
【授業内容予定】 第1回：オリエンテーション、今後の方針決め 第2回：日本国憲法と日本の憲法学説の特徴 第3回：表現の自由①—最初は大きな話から（1章） 第4回：思想・良心の自由—侵害された個人の痛みに敏感な解釈論に向けて（2章） 第5回：表現の自由②—表現の自由と「人権」（3章） 第6回：表現の自由③—表現の自由・市場・民主主義（4章） 第7回：政教分離—最高裁判例を読み直す（5章） 第8回：参政権（6章） 第9回：刑事手続上の人権—その立憲主義的課題（7章） 第10回：平等原則—個人の尊重からの判例アプローチ（8章） 第11回：経済的自由権—財産権解釈論を素材に「自由」の意味を考える（9章） 第12回：社会権—立憲主義と福祉国家（10章） 第13回：国家的「名誉毀損」と憲法13条—私生活上の自由／個人の尊厳（11章） 第14回：立憲主義と司法審査—記憶されていない近現代史も含めて（12章） 第15回：全体のまとめ					
【教材・テキスト】 『判例時報2344号臨時増刊 法曹実務にとっての近代立憲主義』（判例時報社、2017年）1,800円＋税					
【参考文献】 長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第6版）』（有斐閣、2013年）（2,095円＋税）×2					
【成績評価の方法および採点基準】 報告内容や授業への貢献、受講状況によって評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 担当者による20分程度の報告（テキストの要約と検討）の後に、皆で議論をするゼミ形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 テキストは初学者にはやや難解ですが、人権論に興味関心がある方を歓迎します。					
【オフィスアワー】 水曜日5-6限ですが、オフィスアワーに限らず在室時であれば対応します。					

授 業 科 目 名	地方自治論				
担 当 教 員	児山 正史				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日・9－10時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 地方自治に関する基礎的な知識と基本的な見方を身につけた上で、地方自治の諸問題について論じられるようになることを目標とします。					
【授業の概要】 地方自治に関わる諸問題について検討します。受講者の関心に応じて、地方自治に関する概説書、研究書、資料など、さまざまな文献を講読し、討論します。必要に応じて青森県内の事例も取り上げます。					
【授業内容予定】 詳細については受講者の関心に応じて決定します。 参考までに、例えば、下記のような内容で行います。 （村松岐夫編『テキストブック 地方自治 第2版』を主な教材とする場合。） 第1回 イントロダクション 第2回 現代国家における地方自治 第3回 日本の地方自治の発展 第4回 各国の地方自治 第5回 自治体の統治システム 第6回 地方税財政 第7回 地方自治体の組織と地方公務員・人事行政 第8回 ガバナンス時代の地方自治 第9回 合併と広域連携 第10回 教育 第11回 福祉政策と費用負担 第12回 近現代の地方自治思想 第13回 戦後の地方自治論 第14回 1980年代以降の地方自治論 第15回 地方分権論					
【教材・テキスト】 受講者の関心に応じて決定します。					
【参考文献】 授業内容と受講者の関心に応じて紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への参加を中心に、総合的に評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 特にありません。					
【オフィスアワー】 金曜日 7・8 時限					

授 業 科 目 名	北東北雇用政策論				
担 当 教 員	李 永俊				
学 期	前期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義では、さまざまな公表データを用いて、北東北の労働市場の問題点を明らかにし、その解決策を検討することを目指す。					
【授業の概要】 本講義では労働市場の現状を多角的に把握するために、地域労働市場に関する諸文献を輪読する。その上で、各受講者がデータに基づく北東北労働市場の現状把握と政策提言を行う。					
【授業内容予定】 本講義の具体的な項目及び内容は以下の通りである。 1回 イントロダクション 2～3回 労働市場の見方について 4～5回 失業の経済学 6～7回 北東北労働市場の失業構造 8～9回 北東北の若年者労働市場 10～11回 「東京」に出る若者たち 12～14回 ワークショップ ー北東北労働市場の現状と課題ー 15～16回 研究成果報告会					
【教材・テキスト】 特に指定しない。					
【参考文献】 必要に応じて参考文献を提示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への出席状況、取り組み、成果報告の内容で評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 講義形式と演習形式の両方を用いる。					
【留意点・予備知識等】 特に予備知識は必要としない。					
【オフィスアワー】 毎週水曜日 午前10時00分～12時00分					

授 業 科 目 名	刑事司法論				
担 当 教 員	平野 潔				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・1－2時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ・刑事司法を巡る昨今の様々な問題について、法的な視点から分析することができる。 ・上記の分析を踏まえて、一定の解決策を提示することができる。					
【授業の概要】 刑事司法制度に関する最近の問題を探り出し、その問題点について検討を加えていきます。					
【授業内容予定】 詳細は第1回の授業時に説明しますが、以下のような内容で進めます。 （なお、内容は一部変更になる場合があります） 1. ガイダンス 2. 刑事訴訟手続きに関する諸問題(1)―捜査を中心に― 3. 刑事訴訟手続きに関する諸問題(2)―公判を中心に― 4. 刑事訴訟手続きに関する諸問題(3)―証拠を中心に― 5. 裁判員制度をめぐる諸問題(1)―憲法との関係性を中心に― 6. 裁判員制度をめぐる諸問題(2)―市民の司法参加を中心に― 7. 裁判員制度をめぐる諸問題(3)―裁判員制度見直し議論を中心に― 8. 量刑に関する諸問題(1)―量刑に関する基礎理論を中心に― 9. 量刑に関する諸問題(2)―裁判員裁判と量刑を中心に― 10. 被害者支援をめぐる諸問題(1)―刑事手続きにおける被害者― 11. 被害者支援をめぐる諸問題(2)―被害者支援施策を中心に― 12. 少年事件に関する諸問題 13. 受刑者処遇をめぐる諸問題 14. 更生保護をめぐる諸問題(1)―就労支援対策を中心に― 15. 更生保護をめぐる諸問題(2)―高齢者・障害者対策を中心に―					
【教材・テキスト】 指定しません。それぞれのテーマの課題となる論文等は、開講時に配付します。					
【参考文献】 上口裕『刑事訴訟法 [第4版]』（2015年、成文堂）、大谷實『新版 刑事政策講義』（2009年、弘文堂）、池田修＝合田悦三＝安東章『解説 裁判員法 [第3版]』（2016年、弘文堂）、原田國男『量刑判断の実際 [第3版]』（2008年、立花書房）、武内謙治『少年法講義』（2015年、日本評論社）、松本勝編著『更生保護入門 [第4版]』（2015年、成文堂）、最新の法務省法務総合研究所編『犯罪白書』、国家公安委員会・警察庁編『犯罪被害者白書』					
【成績評価の方法および採点基準】 授業における報告および発言（80％）と期末レポート（20％）によって評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 第1回の講義時に担当者を決め、その担当者の報告に基づいて参加者全員で議論します。					
【留意点・予備知識等】 刑事裁判に関する基本的な知識は必要です。可能であれば事前に刑事裁判の裁判傍聴をしておくことをお勧めします。					
【オフィスアワー】 木曜日 3－4時限（それ以外の時間でも事前にアポイントをとってもらえれば対応します）					

授 業 科 目 名	マクロ経済分析論				
担 当 教 員	山本康裕				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・3－4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 基礎的なマクロ経済学を理解することで、短期的な国民所得の変動を分析できる素養を身に付ける。					
【授業の概要】 マクロ経済学の専門書を輪読する。					
【授業内容予定】 第1回 マクロ経済学とは何か？ 第2回 マクロ経済変数の概念とデータ 第3回 国民所得勘定…財サービスの需要と供給を均衡させるものは何か 第4回 貨幣とは何か 第5回 インフレーション・デフレーション 第6回 労働市場及び失業 第7回 景気変動入門 第8回 ケインズ経済学入門：45度線分析 第9回 I S－LM分析 第10回 I S－LM分析の応用 第11回 I S－LM分析の開放経済への適用 第12回 開放経済(長期) I：国際収支の定義と為替相場 第13回 開放経済(長期) II：古典派モデルの開放経済への適用 第14回 インフレーションと失業の相関関係 第15回 総括…14回までの分析を簡潔な理論モデルとして記述する などの理論分析を解説してゆく					
【教材・テキスト】 マンキュー(2016)『マンキュー マクロ経済学I 入門篇』東洋経済新報社					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 講義における報告が誠実に行われているかで判断する。					
【授業形式・形態および授業方法】 教科書の輪読					
【留意点・予備知識等】 学部レベルのマクロ経済学及びミクロ経済学の基礎知識を有する事が望ましい。					
【オフィスアワー】 水曜日12：40-14：10					

授 業 科 目 名	産業組織論				
担 当 教 員	小谷田文彦				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・9-10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 ミクロ経済学の基礎理論である企業の利潤最大化行動を理解したうえで、企業の境界、企業の戦略的行動、企業組織に関する基礎理論を理解すること。					
【授業の概要】 教科書として用いるテキストの構成に従い、企業理論の基礎、企業の戦略、企業の組織の3つに論点を分け、それぞれに関する経済理論を学ぶ。					
【授業内容予定】 第1回 企業の基礎理論 第2回 生産・費用・利潤1 第3回 生産・費用・利潤2 第4回 財務・投資・成長 第5回 新しい企業理論 第6回 市場競争と戦略 第7回 競争優位のための戦略 第8回 イノベーション戦略 第9回 企業の本質 第10回 垂直統合 第11回 多角化・多国籍化 第12回 会社の形態 第13回 合併・買収・提携 第14回 労働システムとインセンティブ 第15回 全体のまとめ					
【教材・テキスト】 小田切宏之『企業経済学（第2版）』東洋経済新報社（2010年）					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 講義における発表から判断される理解の程度に応じて評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読形式					
【留意点・予備知識等】 特になし					
【オフィスアワー】 木曜日 9・10時限					

授 業 科 目 名	経済思想論				
担 当 教 員	福田 進治				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・9－10	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 経済学史領域（経済理論・経済思想・経済政策の歴史）の諸問題を検討し、経済学史研究の基礎を身に付けることを目的とする。					
【授業の概要】 アダム・スミス以降の主要な経済学者の思想・理論・政策を学習し、彼らが経済理論・経済思想・経済政策の歴史に与えた影響を検討する。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 アダム・スミス 第3回 デヴィッド・リカード 第4回 トマス・ロバート・マルサス 第5回 ジョン・ステュアート・ミル 第6回 カール・マルクス 第7回 ウィリアム・スタンレイ・ジェボンズ 第8回 カール・メンガー 第9回 レオン・ワルラス 第10回 アルフレッド・マーシャル 第11回 アーサー・ピグー 第12回 ジョン・メイナード・ケインズ 第13回 ヨセフ・アロイス・シュンペーター 第14回 フリードリッヒ・ハイエク 第15回 補足説明・質疑応答					
【教材・テキスト】 ガイダンスの際、受講者と相談し、受講者の学問的関心に基づいて決定する。					
【参考文献】 必要に応じて授業中に指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常の出席態度・課題報告（50点）および期末のレポート課題（50点）による。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式とする。					
【留意点・予備知識等】 学部専門レベルの経済学史の内容を理解していることを前提とする。					
【オフィスアワー】 月曜日～金曜日 12時～13時（人文社会科学部棟413号室）					

授 業 科 目 名	応用経営統計学				
担 当 教 員	花田 真一				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日7・8時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
①連続変数ではない指標についても統計分析を行えるようになる					
②自身の研究に統計学的な知識を生かせるようになる					
【授業の概要】					
経営統計学では、主に連続変数を被説明変数とした回帰分析について学んだ。しかし、経営学や経済学の分析においては、人々の商品の選択のような数値化が困難なものが指標となる場合や、因果関係ではなくグループ間の類似度などを考察する場合がある。本講義では、そうした離散選択問題や因子分析などの手法を学ぶ。					
【授業内容予定】					
受講者の理解度等に応じて内容を変更する場合があります					
第1回：ガイダンス					
第2回：回帰分析の復習と問題点					
第3回：最尤法の基礎概念					
第4回：離散選択モデル①：ロジットモデル・プロビットモデル					
第5回：離散選択モデル②：多項ロジットモデル・順序ロジットモデル					
第6回：離散選択モデル③：離散/連続選択モデル					
第7回：演習①					
第8回：心理データ分析①：心理測定データの尺度化					
第9回：心理データ分析②：尺度構成法を用いた類似度の分析					
第10回：心理分析データ③：因子分析法					
第11回：演習②					
第12回：主成分分析					
第13回：クラスター分析					
第14回：演習③					
第15回：講義の復習					
【教材・テキスト】 特に指定しない					
【参考文献】 講義中に指示する					
【成績評価の方法および採点基準】					
毎回の講義での活動：10%					
小レポート：30%					
期末レポート：60%					
【授業形式・形態および授業方法】					
主に講義形式で行うが、可能であれば数回PC演習も行う					
【留意点・予備知識等】					
経営統計学を履修していることが望ましい（単位の取得は問わない）。未履修の場合は、学部の統計データ分析Bとの並行履修を推奨する。					
【オフィスアワー】					

授 業 科 目 名	地域金融論				
担 当 教 員	飯島 裕胤				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・9－10時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 資産は将来にわたって金銭や利便性を生み出すものだが、多くは、初期に多額の支出を要し、また維持・補修のための追加支出も必要である。本講義では、このような資産の金融的側面の理解を行い、地域で金融活動を行う際に必要になる技法を習得する。また、民間企業や地方公益法人のアセットマネジメント手法の基礎的考え方も習得したい。					
【授業の概要】 A. E. ボードマン他『費用・便益分析』ピアソンを輪読する。					
【授業内容予定】 (ガイダンス) 1. 費用・便益分析の基礎的概念 2. 費用・便益分析のミクロ的基礎 3. プライマリーマーケットにおける費用・便益評価 4. セカンダリーマーケットにおける費用・便益評価 5. 将来の費用・便益の割引 6. 不確実性の考慮：感度分析と準オプション価値 (まとめ) など。 1テーマ当たり2～3回を予定している。					
【教材・テキスト】 A. E. ボードマン他『費用・便益分析』ピアソン					
【参考文献】 適宜紹介する					
【成績評価の方法および採点基準】 講義での議論 60%、最終レポート 40%					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読と院生間の議論を行う					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 月曜日、13：00-14：00					

授 業 科 目 名	地域政策評価論				
担 当 教 員	大橋 忠宏				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・3－4時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】都市や地域，交通の問題と解決に向けた政策とその効果に関して理解すること．					
【授業の概要】都市や地域，交通に関する空間固有の問題に関する基本的な考え方を修得し，青森県を中心として，弘前市の土地利用計画や津軽諸都市の公共交通計画，東北・北海道新幹線開業の影響などの具体的な事例を元に各種地域政策の考え方や同評価方法について議論する．					
【授業内容予定】以下の内容を予定しています． 第1回（ガイダンス）：都市や地域とは？ 第2回：都市の形成・発展 第3回：立地論 第4回：都市モデル1（単一中心都市） 第5回：都市モデル2（都市の成長とサブセンター形成） 第6回：土地利用の外部性と都市計画，弘前の土地利用 第7回：工業都市と都市規模分布 第8回：企業間コミュニケーションと都市規模分布 第9回：交通利便性と地域の発展可能性 第10回：地域計量モデルの系譜，新幹線整備と地域の盛衰 第11回：交通サービスの特性と日本の輸送構造の変化 第12回：交通需要分析のツールと需要予測手法 第13回：交通サービスの費用特性 第14回：交通プロジェクトの評価 第15回：弘前・五所川原・平川などの公共交通の現状と計画					
【教材・テキスト】佐々木公明・文世一『都市経済学の基礎』有斐閣．山内弘隆・竹内健蔵『交通経済学』有斐閣．の上記項目の関連する部分及び関連書籍・論文・報告書など．					
【参考文献】黒田達明・田淵隆俊・中村良平『都市と地域の経済学(新版)』，有斐閣．大井尚司・後藤孝夫『交通政策入門』．佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣．など．適宜紹介する．					
【成績評価の方法および採点基準】 成績の評価は，報告内容及び質疑応答の内容を基に行う．					
【授業形式・形態および授業方法】 主に輪読形式（資料作成・報告・議論）とする．					
【留意点・予備知識等】 学部レベルのミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学の知識が必要である．					
【オフィスアワー】 木曜日・午前10時30分～11時30分・人文社会科学部222研究室					

授 業 科 目 名	都市・地域情報分析論				
担 当 教 員	増山 篤				
学 期	前期	曜日・時限	火曜3・4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 都市・地域の現況や問題点を詳らかにするための分析手法を身につける。					
【授業の概要】 都市・地域に関するデータにはさまざまなものがある。それらデータから都市・地域の現況や問題点を詳らかにするための分析手法について、代表的英文テキストから学ぶ。					
【授業内容予定】 第1回 ガイダンス 第2回 GIS：データ管理と基本的空間解析のためのツール 第3回 ネットワークにおける距離と時間の計測 第4回 空間平滑化・補間 第5回 GISベースでの圏域解析 第6回 圏域解析の事例 第7回 GISベースでのアクセシビリティ解析 第8回 アクセシビリティ解析の事例 第9回 都市密度分析における回帰分析の応用 第10回 都市密度分析の分析事例 第11回 因子分析・主成分分析・クラスター分析の社会経済分析への応用 第12回 空間統計（大局的傾向の分析） 第13回 空間統計（局所的傾向の分析） 第14回 地域区分 第15回 線形計画法の応用による過剰通勤の分析					
【教材・テキスト】 Wang, F. (2014). Quantitative Methods and Socio-Economic Applications in GIS. CRC Press.					
【参考文献】 授業内で、必要に応じて紹介する。					
【成績評価の方法および採点基準】 受講生の報告の水準によって評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】 まずは、受講生が報告を行う。それに対し、担当教員が補足説明およびコメントを加えていく。					
【留意点・予備知識等】 学部レベルの微積分・線型代数・統計学の知識が必要である。地理情報科学に関する基礎知識やGISの操作技術が必要である。ノートパソコンを持参することが望ましい。					
【オフィスアワー】 水5・6時限、人文408研究室					

授 業 科 目 名	北東北商業政策論				
担 当 教 員	保田宗良				
学 期	後期	曜日・時限	金曜日3-4時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 流通政策、商業政策の関係を明確にし、事例研究をふまえて、まちづくりに必要な商業政策の研究 方法、同分野の論文を構想する力量を修得します。					
【授業の概要】 商業政策の論点を多角的に考察します。北東北地域の商業政策の実態把握、検討課題、買い物弱 者を意図した高齢社会対応のまちづくりまで考察の対象にします。学術論文を授業で精読します。					
【授業内容予定】 ① 流通政策研究(総論) ② 流通政策研究(各論) ③ 商業政策とまちづくり(総論) ④ 商業政策とまちづくり(各論) ⑤ 商業政策と買い物弱者(総論) ⑥ 商業政策と買い物弱者(各論) ⑦ 青森市の商業研究(大規模店) ⑧ 青森市の商業研究(中小小売商) ⑨ 弘前市の商業研究(大規模店) ⑩ 弘前市の商業研究(中小小売商) ⑪ 八戸市の商業研究 ⑫ 秋田県、岩手県の商店街研究 ⑬ 北東北地域の商業政策とまちづくり ⑭ 弘前市の商業に関する将来像 ⑮ 半期の総括、レポート作成の指導					
【教材・テキスト】 流通、商業政策の論文をコピーして配布します。					
【参考文献】 開講時に指示をします。					
【成績評価の方法および採点基準】 平常点＋レポートで評価します。毎回の受講態度を重要視します。					
【授業形式・形態および授業方法】 通常のゼミ形式で行います。商工会議所発行資料を活用します。					
【留意点・予備知識等】 地域の新聞の商業関係の記事が、参考になります。					
【オフィスアワー】 木曜日、金曜日 12時～12時30分					

授 業 科 目 名	起業論				
担 当 教 員	高島克史				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日5・6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 環境分析や資金調達の方法に加えて起業家の行為やそこに隠された意図を読み解きながら、ベンチャー企業の成長プロセスや事業計画書の分析できるようになることです。					
【授業の概要】 近年実践的にも学術的にも注目を集めているベンチャー企業の経営管理について理論的・実践的考察を行います。					
【授業内容予定】 テキストに従い、授業を進めていきます。 第1回 オリエンテーション 第2回 起業プロセス 第3回 新規事業のアイデア 第4回 起業機会の認識 第5回 起業機会の評価 第6回 起業家精神の理論 第7回 起業家的マネージャー 第8回 ベンチャー経営チーム 第9回 ファミリーベンチャー 第10回 必要資源の調達 第11回 ビジネスプランの策定 第12回 ベンチャー企業の資金管理 第13回 急成長の管理 第14回 収穫と育成 第15回 起業戦略の策定					
【教材・テキスト】 忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行・五十嵐伸吾・山田仁一郎(2013)『アントレプレナーシップ入門』有斐閣。					
【参考文献】 講義中に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回行う報告内容で評価します					
【授業形式・形態および授業方法】 事前に読んできた担当部分をレジュメにまとめ、報告を行ってもらいます。					
【留意点・予備知識等】 普段から新聞や雑誌，シンポジウムに参加するなどして起業に関する情報を収集するようにしてください。					
【オフィスアワー】 月曜日8時40分～10時10分					

授 業 科 目 名	地域イノベーション論				
担 当 教 員	熊田 憲				
学 期	後期	曜日・時限	水曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義では、地域イノベーションを理論的・実践的なレベルで理解するための知識の獲得を目的とし、地域イノベーション・システムのデザイン力の醸成を目指します。					
【授業の概要】 地域という場において創出されるイノベーションの特性を理解し、地域全体としてダイナミズムを生み出すための地域イノベーション・システムのあり方について理論的・実践的に考察します。					
【授業内容予定】 第1回：ガイダンス 第2回：地域産業活性化に関連する基礎的諸概念 第3回：地域産業活性化策の体系と歴史的展開 第4回：代表的な活力ある地域産業モデル 第5回：地域産業活性化策立案と情報収集 第6回：地域産業活性化策立案の際に分析すべき諸要素 第7回：地域経営資源の整備策の立案 第8回：地域インフラ整備策の立案 第9回：地域イノベーション創出機構の構築策の立案 第10回：地域産業活性化策の新展開の可能性 第11回：地域産業活性化策の今後の諸課題 第12回：イノベーションと地域に関する諸理論 第13回：地域イノベーションに関する政策動向と先行事例 第14回：科学技術型イノベーションと地域に関する考察 第15回：地域イノベーション論まとめ					
【教材・テキスト】 教科書は特に指定しません。					
【参考文献】 ・野長瀬裕二(2011), 地域産業の活性化戦略～イノベーター集積の経済性を求めて～, 学文社 ・野澤一博(2012), イノベーションの地域経済論, ナカニシヤ出版 ・その他, 講義の中で適宜, 紹介します。					
【成績評価の方法および採点基準】 報告と発言の内容で評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミ形式で行います。					
【留意点・予備知識等】 経営学に関する基礎的な知識が必要です。					
【オフィスアワー】 ・火曜日：11:50～12:40 ・事前にメールにてコンタクトを取ってください。					

授 業 科 目 名	経済法制論				
担 当 教 員	長谷河 亜希子				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日5・6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 経済法分野の問題に関して、基礎的知識の修得に留まらず、研究論文を読みこなしたうえで分析し、私見を述べる能力を身につける。					
【授業の概要】 経済法分野の問題について学びます。					
【授業内容予定】 経済法分野の法律について（対象は、独占禁止法、規制産業に係る法、知的財産権法、消費者法、その他商事関連の法と幅広く設定する）、論文や判例等（場合によっては英語論文を含む）を読みつつ理解を深めていきたいと思います。具体的内容は受講生の皆さんと相談のうえ、決定しますが、現時点では以下が候補です。 公正取引委員会事務局競争政策研究センター（CPRC）に設置されている「人材と競争政策に関する検討会」の報告書（2017年度末公表予定）、及びそれに関連する論文・報告書を基に、いわゆる「事業者」に分類されてはいるものの「労働者」的な性質も有する働き方をしている人たちに対する保護、及びその法的問題に関して独禁法関連の問題を中心に検討する。					
【教材・テキスト】 その都度指示します。					
【参考文献】 その都度指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への出席、報告、発言等による。					
【授業形式・形態および授業方法】 ゼミ形式					
【留意点・予備知識等】 毎日、新聞を読んでください。					
【オフィスアワー】 火曜日7・8時限					

授 業 科 目 名	民事司法論				
担 当 教 員	吉村顕真				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・5-6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 民法典第4編「親族」に関する理解を深めていくことを目標とする。					
【授業の概要】 家族法に関する文献及び関連判例を読んだうえで、それについて検討する。 具体的な内容や順番などは、受講生との話し合いによって決める。					
【授業内容予定】 以下のテーマの順に従って授業を進めていく。 第 01 回 イン트로ダクション 第 02 - 03 回 家族法の基礎、家事事件手続法 第 04 - 05 回 夫婦関係①：婚姻の成立と効果 第 06 - 07 回 夫婦関係②：離婚の成立と効果 第 08 - 09 回 親子関係①：民法上の親子関係と近年の諸問題 第 10 - 11 回 親子関係②：普通養子と特別養子 第 12 - 13 回 親子関係③：親権をめぐる諸問題 第 14 - 15 回 成年後見・扶養					
【教材・テキスト】 初回の授業時に指示する。					
【参考文献】 適宜、指示する。					
【成績評価の方法および採点基準】 報告：80% 提出物：20%					
【授業形式・形態および授業方法】 受講生の人数にもよるが、毎回、1人の報告者に報告してもらった上で、それに対して参加者による質疑・応答をするという形で進めていく予定である。					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 火曜日10：30～11：30					

授 業 科 目 名	会計システム論				
担 当 教 員	小杉雅俊				
学 期	前期	曜日・時限	火曜日 3・4 時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
会計システムの意義と課題について考察を深める。					
【授業の概要】					
会計システムについて、管理会計の立場から、実務適用する際に、どのような点が問題とされているのかを考察する。今回の授業では、主にアメーバ経営のケースを題材に、文献ベースで現実的な実態や課題を深く検討していく。					
【授業内容予定】					
管理会計学の観点から会計システムを捉え、該当する技法・ツールの構造を理解するだけにとどまらず、その実務適用面に重きを置いて考察していく。理論上で考えられていることが、実務適用の際にそのまま当てはまることもあれば、全く当てはまらないこともある。その際にどうすればよいのだろうか。何を論点として考えていけば良いのだろうか。本授業は、まさにこの点を議論・検討していくものである。基本的にはゼミナール形式で、教科書の順に授業を進めていく。関連する英語文献を加えることがある。輪読形式の発表と、発表内容に基づいた議論・討論を通じ、授業を展開していく。以下に各授業回の内容を示す。 第1回授業 ガイダンス・文献紹介とイントロダクション 第2回授業 プロフィットセンターについて 第3回授業 アメーバ経営の史的展開 第4回授業 アメーバ経営の導入と効果(1): 日本航空①-経営再建に向けた取り組み- 第5回授業 アメーバ経営の導入と効果(2): 日本航空②-サービス品質の向上- 第6回授業 アメーバ経営の導入と効果(3): 医療組織 第7回授業 アメーバ経営の導入と効果(4): ホテル 第8回授業 アメーバ経営の導入と効果(5): 学校組織 第9回授業 トヨタ生産システムとアメーバ経営 第10回授業 アメーバ経営と原価・収益計算構造 第11回授業 アメーバ経営の導入と効果(6): 製造業 第12回授業 フィロソフィとアメーバ経営 第13回授業 責任会計論の観点から見たアメーバ経営 第14回授業 アメーバ経営の適用実態調査にみる効果と影響について 第15回授業 総括					
【教材・テキスト】					
アメーバ経営学術研究会 (2017)『アメーバ経営の進化』中央経済社。					
【参考文献】 適宜授業内で紹介していく。					
【成績評価の方法および採点基準】					
文献輪読発表・議論参加 (50%)、課題評価 (50%)。					
【授業形式・形態および授業方法】					
輪読形式であり、全受講者は教科書・関連文献の指定範囲を予習することが求められる。					
【留意点・予備知識等】					
・本授業では英語文献を用いた授業を行うが、あくまでも会計システム論の授業である。 ・少なくとも日商簿記2級レベルの理解が必要になるため、事前に復習をしておくこと。 ・受講希望者は、このシラバスを事前にしっかりと読み、第1回授業を受講すること。					
【オフィスアワー】					
火曜日12:00-12:30、この時間に限らず随時対応しますのでご相談ください。					

授 業 科 目 名	アジア経済論				
担 当 教 員	黄 孝春				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日 7・8	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 日本を先頭に、韓国やアセアン諸国、中国などの国と地域を中心とする東アジアは急速な経済発展を遂げ、経済の一体化が進んでいます。一方、これらの国と地域は経済の発展段階や文化（言語、宗教など）及び政治制度においてさまざまな違いを有し、多様性に富んでいます。この授業はこの地域における経済発展の実態を明らかにしながら、このような多様性がもたらすダイナミクスと摩擦の両面をより深く理解することを目指しています。					
【授業の概要】 この授業は主に東アジアと東南アジアという二つの地域の経済発展や主要国の経済発展の過程と特徴、相互間の経済交流と統合の実態および経済発展に伴う諸問題について考察する予定。					
【授業内容予定】 第1回 アジア経済の分析視点 第2回 東南アジア経済発展の歴史 第3回 工業化政策の新動向 第4回 東アジアの経済発展と所得格差 第5回 アジア経済危機から学ぶ 第6回 アジア金融危機 第7回 アジアの環境問題 第8回 日本の経済発展 第9回 東アジア新興地域の経済発展 第10回 移行経済の理論と中国の実践 第11回 移行経済の理論とベトナムの実践 第12回 地域統合の意義と課題 第13回 リージョナリズムの台頭とAFTAの新展開 第14回 日本と東アジアの関係 第15回 アジア経済の発展とその諸問題					
【教材・テキスト】 北原淳・西澤信善編著『アジア経済論』ミネルヴァ書房					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 授業への取組とレポートで評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式と講義形式の併用					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 水曜日 12:00－13:00					

授 業 科 目 名	産業立地論				
担 当 教 員	桑波田浩之				
学 期	後期	曜日・時限	金曜 9・10限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 国際貿易論の研究テーマについて理解を深め、計量実証分析の手法を用いて自らデータを用いて仮説を検証し、それを論理的に説明する技術を身につけることを目指す。					
【授業の概要】 国際貿易・経済地理学の実証研究の論文を輪読・討論し、同分野における近年の研究テーマや分析手法を学ぶ。扱う論文は、多国籍企業、海外直接投資、オフショアリング、経済地理学等とする。教科書は指定せず、論文ごとに報告者を割り当て、その報告をもとに参加者全員で論文の貢献や問題点の議論を行う。また学期終了までに、関連したテーマで、統計分析を含んだ簡単な小論文を執筆してもらう。					
【授業内容予定】 第1回 講義概要 第2回 多国籍企業と国際貿易 (1) 第3回 同上 (2) 第4回 同上 (3) 第5回 企業の資金制約と国際貿易 (1) 第6回 同上 (2) 第7回 同上 (3) 第8回 小論文プロポーザル報告 第9回 海外直接投資・アウトソーシング (1) 第10回 同上 (2) 第11回 同上 (3) 第12回 産業集積・企業立地 (1) 第13回 同上 (2) 第14回 同上 (3) 第15回 小論文報告					
【教材・テキスト】 教科書は指定せず、1回目の講義で指定する論文を読んでいく。					
【参考文献】 『現代日本企業の国際化 パネルデータ分析』(2011) 若杉隆平編 岩波書店 『空間経済学』(2011) 佐藤泰裕・田淵隆俊・山本和博 有斐閣					
【成績評価の方法および採点基準】 担当する論文の報告50% 小論文50%					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読形式とする。					
【留意点・予備知識等】 学部レベルのミクロ経済学、計量経済学の知識を前提とする。					
【オフィスアワー】 月曜3・4・5・6限 事前にメールを貰えれば上記時間帯以外でも可能。					

授 業 科 目 名	産業発展論				
担 当 教 員	細矢 浩志				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 経済活動としての産業の発展や構造変化にかんする基礎知識の習得と経済学的な思考・アプローチにかんする基礎的訓練，文章表現力の養成を目標とします。					
【授業の概要】 資本主義経済社会における産業発展をめぐる諸問題について，主要文献・資料の講読・討論をつうじて，理論と実証の両面から分析・検討します。					
【授業内容予定】 第1回：グローバル化と日本のものづくり 第2回：「ものづくり」とは何か 第3回：統合型ものづくり組織力 第4回：設計構造としてのアーキテクチャ 第5回：日本製造業の競争力の変遷 第6回：日本製造業の苦境と海外生産の展開 第7回：「ものづくり」の基盤と中小企業の技術 第8回：中小企業の海外生産とその特徴 第9回：オープンシステムとしての工場：オペレーションの安定と進化 第10回：グローバル生産体制における海外シニア工場 第11回：既存工場能力再評価とグローバル生産体制 第12回：東アジアの国際分業の動向と日本企業のものづくり 第13回：新興国市場戦略とものづくり 第14回：新時代の技術経営とものづくり 第15回：日本のものづくりの今後の展望と課題					
【教材・テキスト】 藤本隆宏・新宅純二郎『(新訂)グローバル化と日本のものづくり』NHK出版，2015年					
【参考文献】 柴田友厚『日本企業のすり合わせ能力』NTT出版，2012年					
【成績評価の方法および採点基準】 レポートの作成・報告や出席等の学習態度を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式（レポート作成・報告，ディスカッション）					
【留意点・予備知識等】 標準的な経済史(世界[西洋]経済史)と現代史(第二次世界大戦後～現代)にかんする基礎知識を修得していることが前提となります。					
【オフィスアワー】 月曜日・午後4時～5時・人文社会科学部344室					

授 業 科 目 名	比較経済論				
担 当 教 員	池田 憲隆				
学 期	前期	曜日・時限	月曜日・7－8時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】					
日本経済と他国（あるいは他地域）経済との共通点と相違点を理解すること。					
【授業の概要】					
日本と欧米の経済について、主として歴史的・制度的観点から比較・検討する。					
【授業内容予定】					
第1回 イントロダクション					
第2回 世界経済システムの形成					
第3回 イギリス産業革命					
第4回 金融システムの形成					
第5回 帝国と植民地					
第6回 世界貿易と多角的決済機構					
第7回 近代の日本経済					
第8回 ビッグ・ビジネスと株式会社					
第9回 フォーディズム					
第10回 両大戦間期のヨーロッパ経済					
第11回 世界大恐慌					
第12回 世界大戦と各国経済					
第13回 戦後の世界貿易と通貨体制					
第14回 日本の高度経済成長と欧米経済					
第15回 近年の“グローバル経済”					
【教材・テキスト】					
受講生と相談の上、決定する。					
【参考文献】					
授業内容に応じて適宜指示するほか、プリントを配布する場合がある。					
【成績評価の方法および採点基準】					
発表内容や勉学態度などにより総合的に評価する。					
【授業形式・形態および授業方法】					
講義形式と演習形式を併用する。					
【留意点・予備知識等】					
受講生と相談の上、曜日・開講時間を変更がすることがある。					
【オフィスアワー】					
木曜日14：00～15：00					

授 業 科 目 名	国際ビジネス論				
担 当 教 員	森樹男				
学 期	後期	曜日・時限	木曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 さまざまな事例を通じて理解を深め、国際ビジネスの現状と課題について理解できるようになることを目標とします。					
【授業の概要】 グローバル企業のさまざまな事例を取り上げ、国際ビジネスの現状の理解を深めていきます。また、ビジネスモデルの有効性について、ディスカッションをしながら考察を行っていきます。					
【授業内容予定】 テキストにしたがい、さまざまな多国籍企業の経営について考察していきます。 以下はテキストの目次を示したものです。 第1回 イントロダクション 第2回 日本型ビジネスモデルの中国展開 第3回 中国における日本企業 第4回 コマツ 第5回 ダイキン工業 第6回 クボタ 第7回 日産自動車 第8回 京セラドキュメントソリューションズ 第9回 顧客インターフェイスの機能 第10回 補助的サービスの中核性 第11回 思考・感情ベースという意外なファクター 第12回 モデルの背後に流れる原理 第13回 ビジネスモデルの再構成 第14回 まとめ① 第15回 まとめ②					
【教材・テキスト】 伊丹敬之（編著）『日本型ビジネスモデルの中国展開』有斐閣，2013年。					
【参考文献】					
【成績評価の方法および採点基準】 講義への参加と期末レポートにより総合的に評価し、集計します。					
【授業形式・形態および授業方法】 輪読およびディスカッション					
【留意点・予備知識等】					
【オフィスアワー】 木曜 17時40分～18時30分					

授 業 科 目 名	企業社会論				
担 当 教 員	大倉 邦夫				
学 期	後期	曜日・時限	月曜日・5－6時限	単位	2単位
【授業としての具体的到達目標】 企業を社会との関係から捉える視点を身につけ、環境経営、CSR経営、ソーシャル・ビジネスのそれぞれの現状と課題について理解を得ることを目的とします。					
【授業の概要】 近年、企業と社会の関係は変化しており、企業に期待される役割や責任も変化しています。そのような中で関心を集めつつある環境経営、CSR経営、ソーシャル・ビジネスに関する最近の研究を検討していきます。また、学生自身に事例研究を行ってもらいます。					
【授業内容予定】 第1回 イン트로ダクション 第2回 社会の中の企業 第3回 企業の社会的責任が求められてきた背景 第4回 欧米におけるCSR経営の展開 第5回 日本におけるCSR経営の展開 第6回 トータルな企業評価のあり方 第7回 ソーシャル・ビジネス 第8回 ソーシャル・ビジネスの創出プロセス 第9回 ソーシャル・ビジネスのマネジメント 第10回 環境経営 第11回 日本における環境経営の展開 第12回 環境イノベーション 第13回 事例研究(1) 研究テーマと調査対象の決定 第14回 事例研究(2) 調査の中間報告 第15回 事例研究(3) 調査結果の発表					
【教材・テキスト】 受講時に指示します。					
【参考文献】 受講時に指示します。					
【成績評価の方法および採点基準】 毎回のレジュメの内容、議論への参加度、事例研究の調査結果（レポート）を総合して評価します。					
【授業形式・形態および授業方法】 演習形式とします。具体的には1人の報告者が事前に割り当てられた箇所について、レジュメを作成し、報告をします。ただし、報告者以外の受講生もレジュメは毎回作成してもらいます。					
【留意点・予備知識等】 自ら考え、自ら調査するということを実践してもらいますので、予習・復習が必ず求められます。					
【オフィスアワー】 金曜日5・6時限。					

授 業 科 目 名		国際管理会計論			
担 当 教 員		加藤恵吉			
学 期	後期	曜日・時限	水曜5-6限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】					
国際管理会計システムの機能や構造を検討することを目標とする。					
【授業の概要】					
国際管理会計システムの機能やその学問体系の本質について教授する。					
【授業内容予定】					
第 1 回 ガイダンス					
第 2 回 管理会計の展開と国際化(1)			第 3 回 管理会計の展開と国際化(2)		
第 4 回 国際管理会計の学問体系(1)			第 5 回 国際管理会計の学問体系(2)		
第 6 回 管理会計意思決定の国際化					
第 7 回 グローバル(国際)企業の業績評価					
第 8 回 グローバル事業戦略と管理会計(1)			第9回 グローバル事業戦略と管理会計 (2)		
第10 回 国際資本予算			第12回 国際税務管理(2)		
第11 回 国際税務管理 (1)					
第13 回 国際資本予算					
第14 回 為替リスクの管理					
第15 回 全体の総括					

授 業 科 目 名	国際会計論				
担 当 教 員	内藤 周子				
学 期	後期	曜日・時限	火曜日・5・6時限	単位	2 単位
【授業としての具体的到達目標】 本講義における授業としての具体的到達目標は、財務会計を取り巻く経済的な環境に関する最新の実証研究や理論研究を理解することである。					
【授業の概要】 本講義では、企業活動のグローバル化の進展を背景とした財務会計の諸問題を中心に行う。したがって、会計処理と実務慣行については直接的には扱わない。					
【授業内容予定】 第1回 インTRODakション（第1章） 第2～3回 理想的状況の会計（第2章） 第4～5回 財務会計に対する意思決定有用性アプローチ（第3章） 第6～7回 効率的証券市場（第4章） 第8～9回 意思決定有用性についての情報パースペクティブ（第5章） 第10～11回 意思決定有用性についての測定パースペクティブ（第6章） 第12～13回 経済的帰結と実証会計理論（第7章） 第14～15回 コンフリクトの分析（第8章） テキストにしたがって以上の内容を扱う予定であるが、受講生の関心などを考慮する。					
【教材・テキスト】 ウィリアム・R・スコット著、太田康広、椎葉淳、西谷順平訳『財務会計の理論と実証』中央経済社、2008年。					
【参考文献】 Scott, William R., <i>Financial Accounting Theory</i> , 7th Edition, Prentice Hall, 2015. 随時、案内する。					
【成績評価の方法および採点基準】 授業中の発表と議論の内容(50%)、課題の評価（50%）					
【授業形式・形態および授業方法】 担当者による報告ののちに、質疑応答を行う形式である。適宜、課題を与える。					
【留意点・予備知識等】 会計に関する基本的な知識を有していることを前提とする。					
【オフィスアワー】 金曜日5・6時限					

3. 修士論文について

【修士論文の提出資格】

弘前大学大学院学則第 28 条および人文社会科学研究科規則第 18 条に定めるとおり、所定の期間在学し、必要な研究指導を受け、かつ、人文社会科学研究科規則第 8 条に定める授業科目について、所定の 30 単位以上を修得した者又は修得見込の者。

【提出書類】

弘前大学学位規則第 5 条の定めにより、以下のとおりとする。

- ① 学位論文審査願 1 部 ② 学位（修士）論文目録 1 部 ③ 履歴書 1 部
- ④ 学位（修士）論文要旨 2 部（1 部コピー可） ⑤ 学位（修士）論文 2 部
- ⑥ 参考論文（ある場合） 2 部（1 部コピー可） ⑦ 研究倫理教育受講修了証書 1 部

【注記】

1. 学位論文は A 4 版とし、2 部提出であるが、1 部はゼロックス等長期保存に耐えるコピーでもよい。
2. 用紙、様式（縦書き・横書き）等は、各専攻の指示に従うこと。
なお、論文には厚みのある表紙をつけ、研究題目・研究科・専攻・コース・研究指導分野・学籍番号・氏名を記入した用紙を貼ること。
3. 履歴事項（大学・学部・学科（課程）、年月日、職場の名称等）は省略せずに正確に記入のこと。
4. 提出期日に遅れた場合、論文の審査対象から除外するので、早めに作成作業にかかること。
5. 研究倫理教育受講修了証書は、平成 30 年度入学生以降が提出対象。

【履歴書の記載方法】

学位論文提出書類の内、「履歴書」の記載にあたっては、下記の記入例により記載すること。

記入例

平成〇〇年 3 月 〇日 〇〇県立〇〇高等学校 卒業

平成〇〇年 4 月 〇日 〇〇大学〇〇学部〇〇学科（課程） 入学

平成〇〇年 3 月 〇日 〇〇大学〇〇学部〇〇学科（課程） 卒業

平成〇〇年 4 月 〇日 弘前大学大学院人文社会科学研究科
〇〇〇〇 専攻 入学

平成〇〇年 3 月 〇日 弘前大学大学院人文社会科学研究科
〇〇〇〇 専攻 修了見込み

※入学、卒業の日付は、それぞれの出身校の入学式並びに卒業式の日付にすること。

【平成 30 年度修士論文に関するスケジュール】

平成 30 年度人文社会科学研究科行事予定のページ（1 ページ）を参照。

【弘前大学大学院人文社会科学研究科 修士論文審査基準】

1. (知識) 人文社会科学分野における修士課程としての十分な知識を修得し、多角的視点から問題を的確に把握し、解明する能力を身につけていること。
2. (テーマ設定の適切性) 現状ならびにこれまでの研究史を踏まえて論文のテーマが適切に設定され、論文作成の意図や問題意識が明確に汲み取れること。

3. (学問水準)

【文化科学専攻】

3-1 (知識・理解) 人文社会科学分野の高度な専門知識を体系的に理解し、古今の文化現象について、資史料やデータに基づき、論理的で綿密な考察が行われていること。

3-2 (汎用的能力) 複雑化・多様化した諸課題を多角的視点から分析し、その解決方法を提示する能力が反映されていること。

【応用社会科学専攻】

3-1 (知識・理解) 社会科学分野の高度な専門知識を体系的に理解した上で、現実的な諸課題を多角かつ複合的な視点から分析していること。

3-2 (汎用的能力) 課題や問題に対する対処法や解決方法が示されていること。

4. (論述の適切性) 論文の記述が十分かつ適切であり、論理構成に無理や無駄が無く結論が導き出されていること。また、読者が内容を正しく理解できる工夫がなされていること。

5. (独創性) テーマ・問題設定・研究方法・結論等、論文に何らかの独自の意義が見られること。

6. (資料ならびに記述の適切性) 記述ならびに資料の引用が著作権を侵害することなく適切に行われていること。また、人権侵害など研究倫理上の問題に対して細心の注意が払われていること。

【弘前大学大学院人文社会科学研究科 個別課題報告書審査基準】

1. 個別課題報告書の基準

- ① 人文社会科学研究科規程にある「個別課題報告書」とは、指導教員による指導のもと作成された、概ね 20,000 字程度の報告書のことを指すものとする。また、この報告書は必ずしも学術的なオリジナリティを求めるものではない。その他の点においては修士論文に準ずる。但し、具体的な報告書の内容や分量については、各専攻の裁量に任せることとし、この基準を厳格に適用するものではない。
- ② 「個別課題報告書」の提出があった場合、「修士論文」と同様の審査及び最終試験を実施するものとする。すなわち、最終試験においては各専攻の内容に応じて、口述試験を行うものとする。

○弘前大学大学院人文社会科学研究科規程

(趣旨)

- 第1条 弘前大学大学院人文社会科学研究科（以下「研究科」という。）に関する事項は、弘前大学大学院学則（平成16年規則第3号。以下「大学院学則」という。）及び弘前大学学位規則（平成16年規則第4号）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。
- 2 大学院学則及びこの規程に定めのある場合を除いて、研究科に関する事項は、研究科委員会が定める。

(専攻及びコース)

- 第2条 学生は、次に掲げる専攻のうち、いずれか一つを選び、かつ、当該専攻におけるコースのうち、いずれか一つに属するものとする。

専 攻	コ ー ス
文 化 科 学	総合文化社会研究，地域人材育成，国際人材育成
応用社会科学	総合文化社会研究，地域人材育成，国際人材育成

(教育研究上の目的)

- 第2条の2 研究科は、広い視野に立って精深な学識を授け、人文社会科学の専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を有する人材を養成することを目的とする。
- 2 各専攻の教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。
- (1) 文化科学専攻
- 現代社会を作り上げた人間とその歴史、文化のさまざまな在り方について深くかつ広い視野から探求し、そこから見いだされる叡智を未来に生かし得る人材を養成することを目的とする。
- (2) 応用社会科学専攻
- 経済学、経営学、法学、政治学、社会学など社会科学全体を横断的に連携させ、高度な専門教育を行うとともに、複雑化、高度化しつつ進展する社会経済システムを多角的かつ複合的な視点から把握し分析する能力を有する人材を養成することを目的とする。

(指導教員)

- 第3条 研究科の教育、研究及び論文の指導のため、主指導教員及び副指導教員を置く。
- 2 主指導教員は、当該専攻における研究科担当の教授をもって充てる。ただし、必要があるときは、准教授又は講師をもってこれに充てることができる。
- 3 副指導教員は1人以上とし、当該専攻における研究科担当の教授、准教授、講師又は助教をもってこれに充てることができる。

(教育方法)

- 第4条 修士課程の教育は、授業科目の授業及び修士論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。

(教育方法の特例)

第5条 研究科委員会が教育上特別の必要があると認めるときは、夜間その他特定の時間又は時期に授業及び研究指導を行うことができる。

(長期にわたる教育課程の履修)

第6条 大学院において、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了すること（以下「長期履修学生」という。）を希望する旨を申し出たときは、当該研究科において支障のない場合に限り、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項に規定するもののほか、長期履修学生に関し必要な事項は、別に定める。

(授業科目及び単位)

第7条 研究科の専攻別授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。

(履修方法)

第8条 学生は、指導教員の指導に基づき、別表に定めるところにより、30単位以上を修得しなければならない。

2 主指導教員が特に必要と認めるときは、授業科目担当教員の承認を得て、人文社会科学部の授業科目を履修し、単位を修得することができる。

(履修授業科目の届出)

第9条 学生は、履修しようとする授業科目を、指定の期日までに研究科長に届け出て承認を得なければならない。

2 前項の手続終了後は、特別の事情が生じた場合以外は、履修授業科目を変更することができない。

(単位修得の認定)

第10条 各授業科目の単位認定は、試験又は研究報告等により、授業科目担当教員が行うものとする。

(他大学大学院の授業科目の履修)

第11条 大学院学則第18条の規定より、他大学大学院における授業科目を履修しようとする者は、履修願その他必要書類を研究科長に提出しなければならない。

2 前項の規定による願い出があった場合は、研究科委員会の議を経て許可する。

3 前項の規定により許可された者の修得した単位は、研究科委員会の議を経て、10単位を超えない範囲で研究科で修得したものとみなすことができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第12条 大学院学則第20条の規定により、学生が研究科に入学する前に研究科又は他の研究科において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、研究科委員会の議を経て、研究科に入学した後の研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、転入学及び再入学の場合を除き、研究科において修得した単位以外のものについては、10単位を超えないものとする。

(留学)

第13条 大学院学則第43条の規定により、外国の大学の大学院に留学を志願しようとする者は、留学願その他必要書類を研究科長に提出しなければならない。

2 前項の規定による願い出があった場合は、研究科委員会の議を経て許可する。

3 前項の規定により留学した場合は、第11条第3項の規定を準用する。

(試験)

第14条 試験は、授業の終了する学期末又は学年末に行う。ただし、授業科目によっては、その他の適当な時期に行うことがある。

2 学生は、第9条の手続きを経て履修した授業科目についてのみ受験することができる。

(追試験)

第15条 やむを得ない事情により試験に欠席した者に対しては、専攻代表者会議で審議の上、追試験を行うことがある。

2 追試験を受けようとする者は、当該授業科目試験終了後7日以内に追試験願（病気の場合は医師の診断書もしくは受診を証明するものを、また、事故の場合はその証明書を添付）を研究科長に提出しなければならない。

3 追試験は、原則としてそれぞれの学期の試験終了後30日以内に期日を指定して行う。

(成績)

第16条 成績の評語及び評点は、次のとおりとし、可以上を合格とする。

秀	100～90
優	89～80
良	79～70
可	69～60
不可	59以下

(コースの変更)

第17条 コースの変更は、特別の事情が生じた場合に限り、研究科委員会の議を経て許可することがある。

2 コースを変更した者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会の議を経て決定する。

(修士論文の提出資格)

第18条 研究科に所定の期間在学し、必要な研究指導を受け、かつ、第8条に定める授業科目について、30単位以上を修得した者又は修得見込みの者は、修士論文を提出することができる。

(最終試験)

第19条 最終試験は、所定の単位を修得し、かつ、修士論文を提出した者について、専攻別に行うものとする。

(修士課程修了の認定)

第20条 研究科に所定の期間在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者は、修士課程を修了したものと認定する。

2 文化科学専攻及び応用社会科学専攻において地域人材育成コース及び国際人材育成コースに属する者に係る第18条、第19条及び前項の規定については、これらの規定中「修士論文」とあるのは「修士論文又は個別課題報告書」と読み替えて適用する。

(教員免許状授与の所要資格の取得)

第21条 中学校又は高等学校の教諭一種免許状授与の所要資格を有する者で当該免許教科に係る中学校又は高等学校の教諭専修免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年

文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 2 研究科において当該所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は、次のとおりとする。

専攻	取得できる免許状	
	種類	免許教科
文化科学	中学校教諭専修免許状	国語，社会，英語
	高等学校教諭専修免許状	国語，地理歴史，公民，英語
応用社会科学	中学校教諭専修免許状	社会
	高等学校教諭専修免許状	地理歴史，公民，商業

(科目等履修生)

第22条 科目等履修生として研究科で開講する授業科目を履修しようとする者は、当該授業科目の授業に支障がない場合に限り、大学院学則第51条の規定により、研究科委員会の議を経て、入学を許可することがある。

- 2 科目等履修生として入学しようとする者は、所定の期日までに科目等履修生入学願書に履歴書、検定料及び別に指定する書類を添えて研究科長に提出しなければならない。
- 3 科目等履修生の在学期間は、1年以内とする。ただし、願い出によりその期間の延長を許可することがある。
- 4 科目等履修生として学修に適しないと研究科委員会で認めた者は、履修の許可を取り消すことがある。

(研究生)

第23条 研究科において、特定の専門事項について研究しようとする者があるときは、大学院学則第52条の規定により、研究科委員会の議を経て研究生として入学を許可することができる。

- 2 研究生を志願することのできる者は、修士の学位を有する者又はこれと同等以上の学力を有すると認められた者とする。
- 3 研究生を志願する者は、研究生入学願書、履歴書、検定料及び別に指定する書類を、指定の期日までに研究科長に提出しなければならない。
- 4 研究生の在学期間は、1年以内とする。ただし、願い出によりその期間の延長を許可することができる。
- 5 研究生が研究を修了した場合は、その研究概要を主指導教員を経て研究科長に提出し、研究科委員会の認定を受けなければならない。
- 6 研究生には、願い出により、研究科長が、研究事項につき証明書を交付する。

(聴講生)

第24条 研究科の授業を聴講しようとする者があるときは、大学院学則第54条の規定により、研究科委員会の議を経て、聴講生として入学を許可することができる。

- 2 聴講生を志願する者は、聴講生入学願書、履歴書、検定料及び別に指定する書類を、指定の期日までに研究科長に提出しなければならない。
- 3 聴講生の在学期間は、1年以内とする。ただし、願い出によりその期間を延長することができる。

(特別聴講学生)

第25条 他大学の大学院又は外国の大学の大学院の学生で、研究科の授業科目を履修しようとする者があるときは、大学院学則第55条の規定により、研究科委員会の議を経て特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 特別聴講学生を志願する者は、当該大学の学長を経て、特別聴講学生入学願書その他必要書類を、指定の期日までに研究科長に提出しなければならない。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

○弘前大学大学院人文社会科学研究科長期履修学生に関する取扱要項

第1 趣旨

この要項は、弘前大学大学院長期履修学生に関する規程（平成16年規程第11号）及び弘前大学大学院人文社会科学研究科規程（平成16年規程第92号）第6条第2項の規定に基づき、人文社会科学研究科（以下「本研究科」という。）における長期履修学生に関する取扱について定めるものとする。

第2 目的

本研究科において長期履修学生制度を導入することにより、社会人学生の修学を容易にするとともに、経済的負担等の軽減を図ることを目的とする。

第3 導入時期

平成22年度入学者から

第4 対象となる社会人学生

- (1) 官公庁、企業等に在職中の者
- (2) 自ら事業を営んでいる者
- (3) その他本研究科が認めた者

第5 履修期間

3年又は4年

第6 長期履修申請書の提出期限及び提出先

(1) 提出期限

1) 入学予定者

入学前年度の2月末日（当日が休日の場合は直近の平日。以下同じ。）

2) 1年次学生

入学年度の2月末日まで

(2) 提出先

人文社会科学部総務グループ教務担当

第7 履修形態の変更

長期履修学生として許可されている者が、履修形態の変更（履修期間の短縮又は延長）を希望するときは、長期履修期間短縮・延長申請書を前項に準じて提出しなければならない。

附 則

平成28年4月1日から適用する。

別表(第7条, 第8条関係)

専攻	コース	科目区分	授 業 科 目	単位数		備 考
				必修	選択	
文 化 科 学 専 攻	総合文化社会 研究コース	共通科目	北東北研究	2		履修方法 (1)必修科目 10単位 共通科目及び特別研究を修得すること。 (2)選択科目 16単位以上 ①導入科目から1モジュール (3科目)6単位以上 ②専門科目から10単位以上を 修得すること。 (3)自由科目 4単位以上 本研究科で開講している導入科目, 専門科目及び総合科目から4単位 以上を修得すること。 ただし, 主指導教員との協議により 大学院共通科目及び他研究科の 開講する科目から2単位まで 含めることができる。 (合計 30単位以上) 修了要件 (1)本研究科に2年以上在学する こと。 (特例として1年以上とする場合 もある。) (2)30単位以上修得すること。 (3)必要な研究指導を受けたうえ 修士論文の審査及び最終試験 に合格すること。
		特別研究	特別研究Ⅰ	4		
			特別研究Ⅱ	4		
		導 入 科 目	文化財 モジュール	美術史	2	
				考古学	2	
				宗教学・民俗学	2	
			思想文芸 モジュール	哲学	2	
				倫理学	2	
				文芸基礎論	2	
			アジア地域 モジュール	日本語学	2	
				アジア文芸学	2	
				アジア地域学	2	
			欧米地域 モジュール	言語基礎論	2	
				欧米地域学	2	
				欧米文化論	2	
			現代社会 モジュール	経済学	2	
				経営学	2	
				法学	2	
			地域研究 モジュール	地域雇用	2	
				地域経済	2	
				地域企業	2	
			社会調査 モジュール	社会調査設計	2	
				量的調査分析	2	
				質的調査分析	2	
		専 門 科 目	日本歴史論	2		
			中国歴史論	2		
			中国思想文化論	2		
			南アジア史論	2		
			西アジア史論	2		
			アジア諸民族史論	2		
			西洋歴史論	2		
			宗教学	2		
			民俗学	2		
			西洋考古学	2		
			日本考古学	2		
			文化財調査・研究論	2		
			文化財科学	2		
			文化資源論	2		
			日本東洋美術史論	2		
			芸術史論	2		
			西洋古典学	2		
			日本倫理思想史論	2		
			西洋倫理思想史論	2		
			日本近代文学	2		
			日本古典文学	2		
			中国言語文化論	2		
			中国社会論	2		
			英文学A	2		
			英文学B	2		
			英文学C	2		
			英文学D	2		
			米文学	2		
			現代アメリカ論	2		
			ドイツ近代文化・文学論	2		
			フランス言語・文化論	2		
			フランス文学	2		
			一般言語学	2		
			言語文書処理論	2		
			統語論	2		
			意味論	2		
			日本語史方法論	2		
			社会言語学	2		
			日本語教育論A	2		
			日本語教育論B	2		

		近世哲学史論		2	
		情緒社会学		2	
		生態人類学		2	
		社会心理学A		2	
		社会心理学B		2	
		応用言語学		2	
		現代ヨーロッパ研究		2	
		ドイツ論		2	
		文化人類学A		2	
		文化人類学B		2	
		アフリカ論		2	
		国際政治学		2	
		平和学		2	
		国際協力理論研究		2	
		総合文化社会研究コース特設講義		2	
	総合科目	情報処理		1	
		日本語・日本語論文作成技法		1	
		英語論文作成技法		1	
	合 計		10	155	
地域人材育成 コース	共通科目	北東北研究	2		履修方法
	特別研究	特別研究Ⅰ	4		〈修士論文選択者〉
		特別研究Ⅱ	4		(1) 必修科目 2単位
	プロジェクト研究	プロジェクト研究Ⅰ	2		共通科目を修得すること。
		プロジェクト研究Ⅱ	4		(2) 選択科目 26単位以上
	導入科目	地域研究 モジュール	2		① 特別研究 8単位
		地域経済	2		② 導入科目から2モジュール
		地域企業	2		(6科目)12単位以上
		社会調査 モジュール	2		③ 専門科目から6単位以上を
		社会調査設計	2		修得すること。ただし応用社会
		量的調査分析	2		科学専攻地域人材育成コースの
		質的調査分析	2		専門科目から2単位まで含める
		文化財 モジュール	2		ことができる。
		美術史	2		(3) 自由科目 2単位以上
		考古学	2		本研究科で開講している導入科目、
		宗教学・民俗学	2		専門科目及び総合科目から2単位
		アジア地域 モジュール	2		以上を修得すること。
		日本語学	2		ただし、主指導教員との協議により
		アジア文芸学	2		大学院共通科目及び他研究科の
		アジア地域学	2		開講する科目から2単位まで
		欧米地域 モジュール	2		含めることができる。
		言語基礎論	2		(合計 30単位以上)
		欧米地域学	2		
		欧米文化論	2		
		現代社会 モジュール	2		
		経済学	2		
		経営学	2		
		法学	2		
	専門科目	北東北歴史論	2		〈個別課題報告書選択者〉
		東北民俗学	2		(1) 必修科目 2単位
		東北考古学	2		共通科目を修得すること。
		文化財保存・活用論	2		(2) 選択科目 24単位以上
		地域文化財保存論	2		① プロジェクト研究 6単位
		北日本環境史	2		② 導入科目から2モジュール
		美術史調査論	2		(6科目)12単位以上
		芸術文化史論	2		③ 専門科目から6単位以上を
		日本古典文化論	2		修得すること。ただし応用社会
		地域言語論	2		科学専攻地域人材育成コースの
		文化社会学	2		専門科目から2単位まで含める
		ネットワーク社会心理学	2		ことができる。
		フィールドワーク社会心理学	2		(3) 自由科目 4単位以上
		民族誌論	2		本研究科で開講している導入科目、
		地域人材育成コース特設講義	2		専門科目及び総合科目から4単位
		(以下余白)			以上を修得すること。
					ただし、主指導教員との協議により
					大学院共通科目及び他研究科の
					開講する科目から2単位まで
					含めることができる。
					(合計 30単位以上)
					修了要件
					(1) 本研究科に2年以上在学する
					こと。
					(特例として1年以上とする場合
					もある。)

						(2) 30単位以上修得すること。
						(3) 必要な研究指導を受けたうえ
						修士論文又は個別課題報告書
						の審査及び最終試験に合格すること。
国際人材育成 コース	総合科目	情報処理		1		
			日本語・日本語論文作成技法	1		
			英語論文作成技法	1		
		合 計		2	83	
	共通科目	北東北研究		2		履修方法
						〈修士論文選択者〉
	特別研究	特別研究Ⅰ		4		(1) 必修科目 2単位
			特別研究Ⅱ	4		共通科目を修得すること。
	プロジェクト研究	プロジェクト研究Ⅰ		2		(2) 選択科目 26単位以上
			プロジェクト研究Ⅱ	4		①特別研究 8単位
	導入科目	外国語 モジュール	国際関係	2		②導入科目から2モジュール
			国際経済・経営	2		(6科目)12単位以上
			海外事情	2		③専門科目から6単位以上を
		日本 モジュール	日本事情	2		修得すること。ただし応用社会
			日本社会	2		科学専攻国際人材育成コースの
			日本経済	2		専門科目から2単位まで含める
		文化財 モジュール	美術史	2		ことができる。
			考古学	2		(3) 自由科目 2単位以上
			宗教学・民俗学	2		本研究科で開講している導入科目、
		アジア地域 モジュール	日本語学	2		専門科目及び総合科目から2単位
			アジア文芸学	2		以上を修得すること。
			アジア地域学	2		ただし、主指導教員との協議により
		欧米地域 モジュール	言語基礎論	2		大学院共通科目及び他研究科の
			欧米地域学	2		開講する科目から2単位まで
			欧米文化論	2		含めることができる。
		現代社会 モジュール	経済学	2		(合計 30単位以上)
			経営学	2		
			法学	2		
	専門科目		中国近世史論	2		〈個別課題報告書選択者〉
			東アジア思想文化論	2		(1) 必修科目 2単位
			南アジア地域研究	2		共通科目を修得すること。
			イスラーム地域研究	2		(2) 選択科目 24単位以上
			前近代ユーラシア史論	2		①プロジェクト研究 6単位
			グローバルヒストリー論	2		②導入科目から2モジュール
			比較宗教学	2		(6科目)12単位以上
			古代地中海文化論	2		③専門科目から6単位以上を
			ヨーロッパ古典文化論	2		修得すること。ただし応用社会
			日本思想論	2		科学専攻国際人材育成コースの
			現代倫理学	2		専門科目から2単位まで含める
			日本近現代文学	2		ことができる。
			中国文化論	2		(3) 自由科目 4単位以上
			現代中国論	2		本研究科で開講している導入科目、
			イギリス・ルネサンス文化論	2		専門科目及び総合科目から4単位
			イギリス近代文化論A	2		以上を修得すること。
			イギリス近代文化論B	2		ただし、主指導教員との協議により
			イギリス文学・文化研究	2		大学院共通科目及び他研究科の
			アメリカ近代文化論	2		開講する科目から2単位まで
			アメリカ社会研究	2		含めることができる。
			ヨーロッパ近代文化・文学論	2		(合計 30単位以上)
			ヨーロッパ現代文化論	2		
			フランス文芸論	2		修了要件
			言語類型論	2		(1) 本研究科に2年以上在学する
			国際文書規格論	2		こと。
			言語文化論	2		(特例として1年以上とする場合
			語彙意味論	2		もある。)
			日本語史論	2		(2) 30単位以上修得すること。
			言語教育論	2		(3) 必要な研究指導を受けたうえ
			表現技術論	2		修士論文又は個別課題報告書
			現代哲学	2		の審査及び最終試験に合格する
			国際協力人類学	2		こと。
			国際言語研究	2		
			現代フランス研究	2		
			ヨーロッパ文明論	2		
			ジェンダー人類学	2		

応 用 社 会 科 学 専 攻	総合文化社会 研究コース			アフリカ地域研究		2	(1)必修科目 10単位 共通科目及び特別研究を修得すること。 (2)選択科目 16単位以上 ①導入科目から1モジュール (3科目)6単位以上 ②専門科目から10単位以上を 修得すること。 (3)自由科目 4単位以上 本研究科で開講している導入科目、 専門科目及び総合科目から4単位 以上を修得すること。 ただし、主指導教員との協議により 大学院共通科目及び他研究科の 開講する科目から2単位まで 含めることができる。 (合計 30単位以上) 修了要件 (1)本研究科に2年以上在学する こと。 (特例として1年以上とする場合 もある。) (2)30単位以上修得すること。 (3)必要な研究指導を受けたうえ 修士論文の審査及び最終試験 に合格すること。
				国際援助開発論		2	
				平和構築論		2	
				ガバナンス理論研究		2	
				国際人材育成コース特設講義		2	
		総合科目		情報処理		1	
				日本語・日本語論文作成技法		1	
				英語論文作成技法		1	
		合 計			2	135	
		共通科目	北東北研究			2	
	特別研究		特別研究Ⅰ		4		
			特別研究Ⅱ		4		
	導入 科目	文化財 モジュール	美術史		2		
			考古学		2		
			宗教学・民俗学		2		
		思想文芸 モジュール	哲学		2		
			倫理学		2		
			文芸基礎論		2		
		アジア地域 モジュール	日本語学		2		
			アジア文芸学		2		
			アジア地域学		2		
		欧米地域 モジュール	言語基礎論		2		
			欧米地域学		2		
			欧米文化論		2		
		現代社会 モジュール	経済学		2		
			経営学		2		
			法学		2		
		地域研究 モジュール	地域雇用		2		
			地域経済		2		
			地域企業		2		
	社会調査 モジュール	社会調査設計		2			
		量的調査分析		2			
		質的調査分析		2			
	専門科目		都市社会学		2		
			地域社会学		2		
			環境社会学		2		
			応用社会学		2		
			地域経済論		2		
			財政学		2		
			アジア企業論		2		
			日本経済論		2		
			国際経済学		2		
			労働法		2		
			憲法		2		
			行政法		2		
			政治学		2		
			行政学		2		
工業経済学				2			
労働経済学				2			
刑法				2			
裁判法				2			
マクロ経済学				2			
ミクロ経済学				2			
政治経済学				2			
経済学史論				2			
日本経済史論				2			
経営統計学				2			
社会統計学				2			
金融論				2			
開発投資論				2			
地域科学				2			
地理情報科学				2			
マーケティング論				2			
イノベーション論		2					
経営管理論		2					
人的資源管理論		2					
組織行動論		2					

		商法		2	
		民法		2	
		経営史		2	
		グローバル経営論		2	
		経営組織論		2	
		実証会計学		2	
		財務報告論		2	
		原価計算論		2	
		IT監査論		2	
		情報会計論		2	
		職業社会論		2	
		総合文化社会研究コース特設講義		2	
	総合科目	情報処理		1	
		日本語・日本語論文作成技法		1	
		英語論文作成技法		1	
	合 計		10	137	
地域人材育成 コース	共通科目	北東北研究	2		履修方法
	特別研究	特別研究Ⅰ		4	〈修士論文選択者〉
		特別研究Ⅱ		4	(1)必修科目 2単位
	プロジェクト研究	プロジェクト研究Ⅰ		2	共通科目を修得すること。
		プロジェクト研究Ⅱ		4	(2)選択科目 26単位以上
	導入科目	地域研究 モジュール		2	①特別研究 8単位
		地域経済		2	②導入科目から2モジュール
		地域企業		2	(6科目)12単位以上
	社会調査 モジュール	社会調査設計		2	③専門科目から6単位以上を
		量的調査分析		2	修得すること。ただし文化科学
		質的調査分析		2	専攻地域人材育成コースの
	文化財 モジュール	美術史		2	専門科目から2単位まで含める
		考古学		2	ことができる。
		宗教学・民俗学		2	(3)自由科目 2単位以上
	アジア地域 モジュール	日本語学		2	本研究科で開講している導入科目、
		アジア文芸学		2	専門科目及び総合科目から2単位
		アジア地域学		2	以上を修得すること。
	欧米地域 モジュール	言語基礎論		2	ただし、主指導教員との協議により
		欧米地域学		2	大学院共通科目及び他研究科の
		欧米文化論		2	開講する科目から2単位まで
	現代社会 モジュール	経済学		2	含めることができる。
		経営学		2	(合計 30単位以上)
		法学		2	
	専門科目	都市貧困論		2	〈個別課題報告書選択者〉
		農村社会史		2	(1)必修科目 2単位
		地域活動論		2	共通科目を修得すること。
		合意形成論		2	(2)選択科目 24単位以上
		開発政策論		2	①プロジェクト研究 6単位
		地方財政論		2	②導入科目から2モジュール
		社会保障法		2	(6科目)12単位以上
		人権論		2	③専門科目から6単位以上を
		行政救済法		2	修得すること。ただし文化科学
		地方自治論		2	専攻地域人材育成コースの
		北東北雇用政策論		2	専門科目から2単位まで含める
		刑事司法論		2	ことができる。
		地域司法論		2	(3)自由科目 4単位以上
		マクロ経済分析論		2	本研究科で開講している導入科目、
		産業組織論		2	専門科目及び総合科目から4単位
		経済思想論		2	以上を修得すること。
		応用経営統計論		2	ただし、主指導教員との協議により
		応用社会統計論		2	大学院共通科目及び他研究科の
		地域金融論		2	開講する科目から2単位まで
		地域政策評価論		2	含めることができる。
		都市・地域情報分析論		2	(合計 30単位以上)
		北東北商業政策論		2	
		起業論		2	修了要件
		地域人材開発論		2	(1)本研究科に2年以上在学する
		地域イノベーション論		2	こと。
		経済法制論		2	(特例として1年以上とする場合
		民事司法論		2	もある。)
		会計システム論		2	(2)30単位以上修得すること。

		キャリア形成論		2	(3) 必要な研究指導を受けたうえ
		地域人材育成コース特設講義		2	修士論文又は個別課題報告書の審査及び最終試験に合格すること。
	総合科目	情報処理		1	
		日本語・日本語論文作成技法		1	
		英語論文作成技法		1	
	合 計			2	113
国際人材育成コース	共通科目	北東北研究		2	履修方法
	特別研究	特別研究Ⅰ		4	<修士論文選択者>
		特別研究Ⅱ		4	(1) 必修科目 2単位
	プロジェクト研究	プロジェクト研究Ⅰ		2	共通科目を修得すること。
		プロジェクト研究Ⅱ		4	(2) 選択科目 26単位以上
	導入科目	外国語	国際関係	2	① 特別研究 8単位
	モジュール	国際経済・経営		2	② 導入科目から2モジュール
		海外事情		2	(6科目)12単位以上
	日本	日本事情		2	③ 専門科目から6単位以上を
	モジュール	日本社会		2	修得すること。ただし文化科学
		日本経済		2	専攻国際人材育成コースの
	文化財	美術史		2	専門科目から2単位まで含める
	モジュール	考古学		2	ことができる。
		宗教学・民俗学		2	(3) 自由科目 2単位以上
	アジア地域	日本語学		2	本研究科で開講している導入科目、
	モジュール	アジア文芸学		2	専門科目及び総合科目から2単位
		アジア地域学		2	以上を修得すること。
	欧米地域	言語基礎論		2	ただし、主指導教員との協議により
	モジュール	欧米地域学		2	大学院共通科目及び他研究科の
		欧米文化論		2	開講する科目から2単位まで
	現代社会	経済学		2	含めることができる。
	モジュール	経営学		2	(合計 30単位以上)
		法学		2	
	専門科目	東アジア企業論		2	<個別課題報告書選択者>
		アジア経済論		2	(1) 必修科目 2単位
		産業立地論		2	共通科目を修得すること。
		比較政治論		2	(2) 選択科目 24単位以上
		産業発展論		2	① プロジェクト研究 6単位
		労働過程論		2	② 導入科目から2モジュール
		比較経済論		2	(6科目)12単位以上
		マイクロファイナンス論		2	③ 専門科目から6単位以上を
		国際組織行動論		2	修得すること。ただし文化科学
		比較経営史論		2	専攻国際人材育成コースの
		国際ビジネス論		2	専門科目から2単位まで含める
		企業社会論		2	ことができる。
		国際管理会計論		2	(3) 自由科目 4単位以上
		国際会計論		2	本研究科で開講している導入科目、
		国際IT監査論		2	専門科目及び総合科目から4単位
		国際人材育成コース特設講義		2	以上を修得すること。
		(以下余白)			ただし、主指導教員との協議により
					大学院共通科目及び他研究科の
					開講する科目から2単位まで
					含めることができる。
					(合計 30単位以上)
					修了要件
					(1) 本研究科に2年以上在学すること。
					(特例として1年以上とする場合もある。)
					(2) 30単位以上修得すること。
					(3) 必要な研究指導を受けたうえ
	総合科目	情報処理		1	修士論文又は個別課題報告書の審査及び最終試験に合格すること。
		日本語・日本語論文作成技法		1	
		英語論文作成技法		1	
	合 計			2	85